ニューズムック GO OUT LIVIN' 2014 年 4 月 9 日発行

おしゃれな趣味人たちのリラックス系お部屋スタイル。

GO OUT Livin'

OUTDOOR
SNOW
SURF
CYCLE
GREEN

LIFESTYLE WITH PLANTS
お部屋にグリーンを!!

Good Tools for living your life
暮らしを快適にする道具たち

好きなモノ＆好きなコトと暮らす、マイルーム至上主義。

BESS

株式会社アールシーコア BESS（ベス）本部　〒153-0042 東京都目黒区青葉台1-4-5 JASDAQ［証券コード 7837］

暮らしのまん中に、好きなことを置いてみる。外に向かって元気に動き出したくなる。
家は道具として使えばいい。「住む」より「楽しむ」BESSの家 www.bess.jp/

POLER & STUMPTOWN
CAMP COFFEE
PORTLAND—OREGON

GO OUT Livin'

CONTENTS

006 好きなモノ、好きなコトと暮らす、お部屋＆インドアスタイル拝見。

LIVING WITH MY FAVORITES

056 むーさん＆たっくんコンビが話題の「ayasakai」のお家大公開!

犬と子どもと、ときどきインテリア

058 お部屋にグリーンを!!

LIFESTYLE WITH PLANTS

Part1 グリーンコーディネーターのお部屋訪問。

Part2 グリーンとDIY。

Part3 お部屋のグリーンディスプレイ、みんなのアイディア集

Part4 BEST INDOOR PLANTS お部屋に置きたいオススメグリーンカタログ。

066 ゲストハウス／カフェ／アンティークショップ

身も心もホッと落ち着くあの場所に、くつろぎ空間の作り方を学ぶ。

072 カッティングエッジだけど力まない。絶妙なバランス感覚を纏う空間作り。

The interior of Ace Hotel

074 暮らしを快適にする道具たち。

Good Tools for living your life

113 **SHOP LIST**

※価格表記についてのお知らせ

本誌に掲載している価格表記については、「消費税転嫁特別対策措置法」により、本体価格（税抜き価格）にて表記致しております。2014年3月31日までは5%の消費税、4月1日以降は8%の消費税がかかります。あらかじめご了承ください。

McIntosh
MC 2500 STEREO POWER AMPLIFIER

LIVING WITH MY FAVORITES

OUTDOOR／SNOW／SURF／ CYCLE／GREEN

好きなモノ、好きなコトと暮らす、お部屋&インドアスタイル拝見。

「コンフォート」という言葉をよく耳にするようになった。
コンォートライフ、コンフォートフード、コンフォートウェア・・・、
とにかく"本質的に快適な"モノ、コトを求める人が増えているそうだ。

でも、一番快適であってほしいのは、
やっぱり自分のお部屋でしょ？

木のあたたかみに包まれたお部屋、
自分の好きなカルチャーを存分に散りばめた趣味部屋、
グリーンに囲まれたほっこりなお部屋・・・。

そんな自分だけのスタイルを形にした人たちの
お部屋と暮らしをリポート。

Photo ／ Takamasa sasai、Shouta kikuchi、Chie Kushibiki
Text ／ Masashi Echigo、Eiko Abe、Tsubasa Iwata（RIDE MEDIA&DESIGN Inc.）、Kyouko Oya、Kohei Yamashita、Takeshi Koh

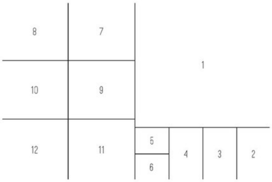
REGULAR LIFE
WHICH IS REALLY
A SECRET CODE FOR
HERE LIVES THE
MOST MAGICAL
OF CREATURES AND
SUPER HEROES
LOVE

Rockest
SOMETIMES ALL A PERSON
NEEDS IS A HAND TO HOLD
AND A HEART TO UNDERSTAND

都会の香りを残しつつ作り上げた 山小屋のようなおおらかな空間。

1 什器から小物まで、こだわりが随所に垣間見える。テーブルは、表具師を父に持つ友人と、その職場に通い作ったオリジナル。椅子はイギリスのアーコール社製、カウンタースツールはパシフィックファニチャーサービス。

7 1Fのダイニング横に広がるウッドデッキには、昔、教会で使われていたという1920年代のウッドテーブルが置かれる。ゆくゆくはこのデッキ部分に屋根を付けて、雨でも食事ができるスペースにしたいと計画中。



自営業（DILL eat,life.）
山戸浩介さん（35歳）
自営業（DILL eat,life.）
山戸ユカさん（37歳）
http://dilleatlife.com

ROOM SPEC
山梨県北杜市
エリア：小淵沢
間取り：1LDK
居住年数：5カ月
住宅形態：一軒家（1Fはレストラン兼）
築年数：5カ月

LIVING WITH MY FAVORITES

01

01 / 30

6 米国発の「バーモントキャスティングス」の薪ストーブ脇に置かれたさまざまなグリーンたち。味わい深い木箱と相まって、雰囲気も抜群。このディスプレイアイディアは自宅でも簡単にマネできるので、お手本にしたいところ。

5 吹き抜けに飾られた「DILL」の文字。2つの「L」は CHIP THE PAINT の木工作家、しみずまゆこ氏が制作してくれた。「D」は LETTERS8 で購入し、「I」にはマーガレット・ギルガレンのイラストが書かれたデッキを使用。

4「くつろげる空間を作るためにも、レコードの音をしっかり出したかった」との言葉通り、音響設備へのこだわりも強い。スピーカーは JBL、アンプはマッキントッシュの MC2500 を愛用。レコード棚は大工のお手製。

3 実際に山戸夫妻が履いているお揃いのビーンブーツだが、美しく並べることで立派なディスプレイになる。その他にもスノーボードやスケートデッキなど、1階には実際に使用しているギアがあちこちに並べられている。

2 オプティマス 1200 を外灯代わりに設置し、ドアのハンドルにはペンドルトンのブランケットを巻き付けた。"アウトドア好き"がエントランスからもひしひしと伝わってくる。キレイにレイアウトされた薪も美しい。

12「今回の引っ越しの時にできる限り荷物は減らしましたが、服は多いんです（笑）」と語る山戸氏。ラックに掛けたり棚に畳んでしまうだけでなく、天上から吊るしてスペースを有効に使いつつ魅せる収納術は参考にしたい。

11 エントランス前のスペースには、ふたりの自転車や軍モノのコット、スノーボードのワックス台など、大物たちが出番を待機。軍モノのコットはレストランのランチ営業時のウェイティングスペースとしても使われている。

10 1階のターンテーブルラックにおけないレコードは2階にストック。「古着屋さんのバックスペースみたいな使い方ですよ」と話すように、アウトドアギアからスケートデッキ、本に洋服、さらに PC まで所狭しと物が並ぶ。

9 ウッドデッキ前のスペースには、石組みの焚き火炉を設置。そこに開店祝いで友人から頂いたトライポッドをコの字型にレイアウトして、焚き火も調理も楽しめるようにした。ここからの眺望には思わず息をのんでしまう。

8「屋根裏のような空間にしたかった」と語る2階部分。天窓から注ぐ光が、屋根裏のような雰囲気を増幅させる。天窓に取り付けられたはしごは、ブランケットを掛けるなど収納グッズとしても有効的に活用している。

ダイニング兼レストラン。想いを詰め込んだ自分たちらしい家。

昨年9月、山梨県小淵沢に念願だったレストランをオープンした山戸ご夫妻。「DILL eat,life.」は、レストランである1階部分を自宅のダイニングと兼用するという、これまで見たことのないスタイルで自分たちの納得できるスタイルを手にした。「空間のコンセプトは、都会のニオイも感じられるコテコテ過ぎない山小屋。アメリカやカナダでロッジ暮らしをする人たちを意識しました。前の会社を辞めた後、アメリカに旅行に行ったんですが、そのときに見ていいなと感じた空間や建物をたくさん写真に撮って、イメージを作っていきましたね」と話す山戸氏。置かれた什器や家具も、山小屋的なノスタルジーを醸しつつ、どこか洗練された雰囲気がある。「アンティークも好きですね。調理台や天上照明はアメリカ製の1910〜1930年代のもの。でもアンティークにこだわっているわけではなくて。ひとつずつ見ると個性の強いモノが多いですが、大きなモノは木製で統一することで風合いや色合いが違ってもまとまって見えるようにしてます。あとは、空間にしても料理にしても、すべてにおいて自分たちの納得するモノを提供したいと思っています。レストランは自分たちのダイニングでもあるし、妥協はしたくなかった」。お皿1枚をとっても、アメリカで買い付け、ハンドキャリーで持ち帰ってきた「ヒースセラミックス」を使用するなど、好きなモノ、納得できるモノに囲まれて暮らしたいという強い想いが言葉やお部屋から伺える。「でも2階の床はまだコンパネのままだし、お風呂や洗濯機置き場もここにはまだないんです。あと、将来的にはウッドデッキに屋根も付けたいですね」とまだまだ未完のレストラン兼自宅。「ゆっくりと自分たちのペースで作っていきたいと思ってますよ」。

レストランの休前日には、営業終了後にコットや絨毯を広げて休日仕様のダイニングにアレンジする。山戸氏はスノーボードのワックス台を持ち込んで板にワックス掛けを、ユカさんは薪ストーブの前に敷いた絨毯で読書をするのが休日前の定番スタイルだ。「冬場の休日は、白馬、妙高、野沢温泉あたりに滑りに行くんです。全部２時間くらい。都内から行っていたことを考えると、渋滞もないし平日に行けるし、山好きの僕たちにとっては最高の環境ですね。もう東京の生活には戻れませんよ（笑）」。

アート、緑、アウトドア。大好きな趣味を生活の中に散りばめて暮らす。

デザイン事務所「スーパーミー」を率いる山口氏。バックカントリーやサーフィンを趣味に持ち、週末に時間を見つけてはアウトドアへ繰り出すという。「サーフィンはまだ始めてから短くて、10年弱くらいなんです。スノーボードは20年前に始めて、一時期、離れてしまった時期もあったんですが、4年前くらいにバックカントリーを知ってからまた熱が再燃しました。ゲレンデで滑るのも楽しいですが、バックカントリーの手間が掛かる感じが今は楽しいんです。アウトドアにハマり出した頃は、部屋のインテリアもアウトドア色が強くなりました。もっと昔はミッドセンチュリーが好きだったりしましたね。リビングのガラステーブルもイサムノグチのモノです。こうやっていろんなカルチャーを通ってきて、いまはジャンルレスに好きなモノだけを置いてます。アンティークもあれば新品もあるし、アウトドアテイストな小物も北欧のデザインでも、気に入ったら何でもアリって感じになってきました(笑)」。大阪のトラックファニチャーのソファに、恵比寿にあるパシフィックファニチャーサービスのチェスト、アンティークのシェルフなど、ひとつひとつのアイテム選びにはしっかりとしたこだわりを感じられるが、必要以上にブランドやテイストに捕われすぎないようにしているという。

リビングから続くレンガ貼りのテラスは、アウトドアギアのメンテナンススペースとして活用。もちろん、天気がいい日や夏にはここで食事をして過ごすこともある。「今年くらいには壁を取り付けてテラスルームにしようと思っているんです。小さい薪ストーブも置きたいですね」と次なる理想の空間作り計画を話す。「いまはこの状態で満足していますが、また気分が変わったら、その都度変えていけばいいと思ってます。ちょっと飽き性というのもあるんですけどね(笑)」

頂き物だという「ザ ノース フェイス スタンダード」のオリジナル飯ごうをプランターとして活用した斬新なアイディア。「植物についてはあまり詳しくないので、中には西友で買った100円の植物もありますよ(笑)」

アートディレクター

山口アツシさん（48歳）

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：駒沢
間取り：2LDK（1F 事務所）
居住年数：4年
住宅形態：一軒家
築年数：4年

LIVING WITH MY FAVORITES

02

02 / 30

1 鉢植えの観葉植物からエアプランツまで、部屋のあらゆるところにグリーンが点在する。最近、ニューヨークのイーストヴィレッジエリアにも出店した三軒茶屋の明薬通沿いにあるグリーンショップ「グリーンフィンガーズ」がお気に入り。

2 ヤマハの特大サイズのスピーカー横に置かれたアイアンシェルフは、ジャーナルスタンドードファニチャーで購入したもの。引き出しにはフランス語で工具名が記されており、その昔、工場やガレージなどで使われていたシェルフのようだ。

3 アンティークのテーブルは1950年代のものだそう。パリのビストロがギャザリングなどで使用していたものだそう。そのアンティークテーブルとセットで並ぶのは、デンマークを代表するブランド「フリッツ・ハンセン」のアントチェア。

4 キッチン横のダイニングスペースに置かれたブックシェルフ。ここには有名オーディオメーカー「チボリオーディオ」のモデルワンラジオや、イギリスのキッチンツールブランド「タラ」の復刻版シュガーシェイカーが整然と並べられている。

5 吹き抜け部分には、ちょうど1カ月ほど前にアンティークのランプを友人が取り付けてくれたばかり。天窓から自然光がたっぷりと入るリビングだが、夜はランプの優しい光に包まれる。右端のソファは大阪のトラックファニチャーのもの。

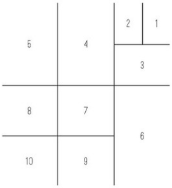
6 リビングに続くテラスには、スノーボードのワックス台やスノーピークのバンブーテーブル、モンロとヘリノックスのコラボチェアなどが置かれている。冬場の週末はここでワックス掛けをするのがお決まり。夏にはバーベキューもできる。

7 テラスにさりげなく置かれたアラジンのブルーフレームヒーター。なかなか見かけないブラックメタリックをセレクト。上にはホーロー製のケトルをセットされ、色合いも美しい。冬場、テラスで作業をするときの心強いパートナーだ。

8 北海道ニセコ町に拠点を置く「ゲンテンスティック」のスノーボードが置かれるのは、アクメファニチャーのソーホース。バローブランドのパック・クラシック・バローが有名だが、テーブルの脚としてもワックス台としても使用できる。

9 バーカウンターのようなオープンキッチン。「収納がほとんどないので、目に触れる物は洗剤ひとつとっても気に入ったものしか置いていませんね」と話すように、キッチンツールから食器、ダストボックスに至るまで納得のいくものをセレクト。

10 ケメックスのコーヒーメーカーやレッド・ロースター・トレーディング・カンパニーのカマノコーヒーミルなど、通好みなコーヒーギアも多数所用。「コーヒーを淹れるのもそうですが、いちいち手間隙が掛かるものに面白みを感じます」。



飾られた物の魅力を引き立てる
絶妙な“間”を持たせたレイアウト。

オーストラリアン・ラブラドゥードルの愛犬、フォンドがくつろぐリビングの一角。パシフィックファニチャーのチェストにサーフボード、ステューシー リビン ジェネラルストアのキャニスター、ビアレッティのモカエキスプレス…と、用途も素材も色も違う、あらゆるものがディスプレイしてある。それにも関わらず不思議と統一感を感じさせる配色やレイアウトは、まさにデザイナーである山口さんだからこその計算され尽くしたワザ。

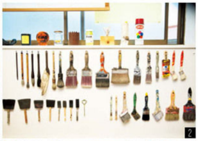
1

WORK SPACE

美しく並べること。見せる収納の原点はこれ。

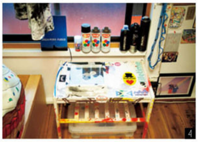
1. カラフルなミシン糸は奥さんの仕事道具であり、愛用品。逆三角形状にビスを壁に打ち込み、そこに取り付けただけのカンタンDIY。色見本のようで、まるでアート。**2.** 井上さんの必需品でもある、大小さまざまな刷毛&筆は壁に整列。乾燥させながら整頓できる合理的な収納法。延長コードも柱沿いに打ち付け、上部から電源も確保、**3.** 天井の張りに、ピンを刺してテープ類を収納。アイディアひとつで部屋のすべてが無駄なく収納スペースに。**4.** ペンキやステッカーが貼られた、まさにアートなミニ作業台。**5.** 照明の下にはアートの神棚のように、思い入れのあるものを置く。

3



2

5



4

アーティスト
井上純さん（32歳）

ROOM SPEC

神奈川県厚木市
エリア：本厚木
間取り：4LDK＋アトリエ
居住年数：1年
住宅形態：一軒家
築年数：約70年

LIVING WITH MY FAVORITES

03

03 / 30

このテクいただき！

こんな再利用方法、今まで見たことない！軍パンを脚立にオン。

穿かなくなったカモ柄の軍パンを脚立に着せてスツール風にアレンジした目からウロコのテクニック。外側に足を折って、上で結ぶだけなので、誰でも簡単に作ることができる。天板の部分がウエストで、ちょうど見えているポケットがヒップポケットになるように。

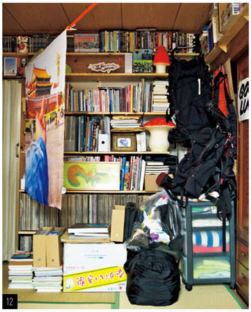
すべてはやってみてから考える。
自宅の離れをセルフリノベーション。

それまで住んでいた吉祥寺から地元である神奈川県厚木市に戻ってきたのは一昨年の10月のこと。実家がすぐ隣にある、かつて祖父母の家を生活の拠点とした。家のすぐ裏には山も川もある。周辺には古ぼけた感じの牛舎や散歩に最適な山道もある。住み慣れた場所であり、フィールド遊びが好きな井上さんにとって、これ以上ない環境だ。

アーティストである井上さんのアトリエは離れの2階にある。ここは5年程前からアトリエとして使用いるそうで、学生時代は自分の部屋でもあった。元々、階段を挟み向かい合う2つの部屋があったが、壁を取り除き、天上を上げ、ワンルームにセルフリノベーション。「とりあえず、思い浮かぶことはやってみる」と話す井上さん。日々湧き出るクリエイションのアイディアが、あらゆる箇所で見受けられる。特に目についたのが、段ボールの再利用。気に入ったデザインのモノは、お菓子の箱でも業務用の段ボールで捨てずに取ってある。アトリエ内ではステッカーケースにアレンジされたり、マーカーペンの収納ケースになったり。ときにはその箱にアレンジを加え、簡単なギフト用ボックスにリメイクすることもあるという。

また奥さんと暮らす母屋はというと、異国テイストに包まれたアトリエとはまた雰囲気の違う、和を大切に残した居住の空間。ギアや洋服で溢れてはいるが、必要以上に家屋に手は加えていない。歴史ある家屋に敬意を払いつつ、そのうえで自分の好きなモノ・コトたちと共に生きている姿勢が伺える。初めからからそこにあるもの、あるべき姿を大事に残し、自分の色を足していく。謙虚ながらとても色濃い生活空間作りだ。きっとそれは、生まれ育った場所だからこその、愛のある住み方なのだろう。

1. 階段を上がって右側に広がるのが、広い作業スペース。四方八方には画材、工具、塗料など、クリエイションにまつわる道具が並べられている。**2.** 吉祥寺のインスタントという知り合いのお店からもらってきた、不要になったデッキを移動式の椅子にアレンジ。**3.** 流木をカット＆並べてディスプレイ。これだけでアートだ。**4.** 特殊な形ゆえ、収納も一筋縄ではいかない工具たち。答えは簡単、壁にかけてしまえばいい。必要な時にすぐ手にとれ、しまい忘れることもない見える収納法だ。**5.** デスクトップや仕事道具などが置かれた作業用のテーブルは、自分で３枚の板を重ね、化粧板を天板にしてジョイントを付けたもの。部屋の端から端まである大きさで、壁一帯をデスクスペースに。**6.** ダンボールに仕切りをつけてカスタムしたペン入れは、見栄えも使用感も上々。サイズも形も割と自由が利くダンボールは小物の収納には勝手が良い。**7.**「これは妻のアイディアなんです」と指差すのは、無印良品の棚を横にして、開閉用の扉を取り付けたベンチ兼収納。こちら、アイディアだけでなく、製作も奥様自身というから驚きだ。**8.** サポートキャラ的にほっこり感を出している洗濯バサミは、旅先でつい買ってしまうお気に入りアイテム。人からもらった花はそこに吊るし、ドライフラワーにして再ギフト。**9.** 意外と気付かない天井を利用して、大きなネットに洋服や鞄をポイっと投げ込み収納。**10.** 自分で付けた壁の棚には、異国の置き物や写真立て、奥さんの本など何を置いても味がある。


12

11

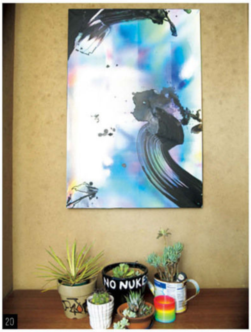
15

14

13

17

16



20

19

18

11. 押し入れのふすまをすべて取払い、自作の棚を設置してアウトドアギア&衣類の収納場所に。ひと目ですべての在り処が把握できるため、かなり便利。**12.** レコードや本が収納されたシェルフも自作。部屋を横断するように吊るされたのは、中国の芸術家、アイ・ウェイウェイのスカーフだ。オーストラリア・メルボルンの「THIRD DRAWER DOWN」というセレクトショップで購入した、かなりお気に入りの1枚。**13.** トイレにもドライフラワーを発見。**14.** アメリカへ旅行した際、友人に連れて行ってもらった現地人ばかりが集うフリーマーケットで見つけたバックパックなど、味のあるものレアなものばかり。真ん中のケルティもはそのフリマで 20ドルだったというから、掘り出し物だ。**15.** パッケージのイラストにグッときて衝動買いしてしまうというミニ四駆。男子小学生の自慢のごとく、意図的に絵が見えるように積んであるのがしっくりくる。これをいつかは自分の子どもにプレゼントするのが夢。**16.** ギアホリックのカクメット。緊急時、避難用具が押し入れの奥では意味がないが、側に置いておくには…。そんな悩みを解決する、素敵なビジュアル。**17.** アトリエで使われていたスケートデッキのチェア同様に、吉祥寺のインスタントで不要になったデッキをもらってきては、リップストップという軍パンに使用される生地を貼り付けてキャンバスに。**18.** トートバッグに小物を入れて収納。置いての収納より、実は省スペース。**19.** 日本の特別な部屋、床の間。ジャパンと書かれた掛け軸と日の丸扇子を、これまた日本らしく縦にレイアウト。伝統的な間の使い方。**20.** 玄関で迎えてくれる自身の作品と、グリーンたち。

木の温もりと優しさ溢れる ゆったりとした時間と空間。

吹きガラス作家
平 勝久さん（41歳）

吹きガラス作家
平 瑞穂さん（40歳）

ROOM SPEC

長野県上伊那郡
エリア：駒ヶ根
間取り：1LDK
居住年数：2年
住宅形態：一軒家
築年数：2年

LIVING WITH MY FAVORITES

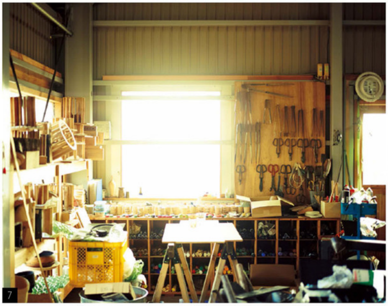
04

「もともと田舎暮らしに憧れがあったわけではないんです。仕事柄、大きな火を扱ったり、大きな音を出したりするので、工房を構えるとなると、どうしても都心の街中では考えづらくて。それと、名古屋港から原料を水揚げしていたり、東京に行くことが多いので。そのバランスを考えてこの辺りを選んだ感じです。楽しい範囲ですが、いやいやこの生活をやってますから（笑）。だって、チェーンソーなんて人生で買う予定なかったですからね（笑）」。と笑いながら話すのは、スタジオプレパの吹きガラス作家、平さん夫妻。新築でこの地に居を構え、2年目となる。「家を建てる時も、薪ストーブを置くことくらいしか考えてなくて。あとはここを建ててくれた大工さんにお任せでした。本当は床に古材を使ったりしたかったんですが、「それはできないよ」なんて言われて、床にはこの無垢を貼られちゃったり。（笑）。でも、せっかく作ってもらうんだから、作ってくださる方にも気持ちよく仕事してほしかったから、それはそれで良かったかなって思っています。それに家具なども人との縁からもらったりすることが多くて、あまり自分で買ったモノはないんですよ。リビングにある「ランドスケーププロダクツ」のダイニングテーブルなんかは、家を建てたら欲しいなと思ってたんですが、新築祝いとして中原さんに頂きました。住んで2年ですが、まだまだ途中段階の家なんですよ」。

家の中心に鎮座するのは、駒ヶ根にあるファイアーサイドで購入したイタリアのde manincor（デマニンコア）社製の薪ストーブ。寒さの厳しいこの地域には、薪ストーブのある風景がよく似合う。平さんのお人柄と相まって、ここには優しい時間が流れていた。

ダクトがむき出しにされたキッチン。まだまだ最終系ではない。今後はタイル貼りを計画するキッチンの中央には、ランドスケープの忘年会でもらったというバイタミックスのハイパワーブレンダーが鎮座。「なかなか出番がなくて、まだ結局20回くらいしか使ってないですが…（苦笑）」。

「食器やグラスなど、自分で作ったものもありますが、右下にあるのは、メキシコのクリサっていうメーカーのタンブラーですね。けっこう既製品も好きで、こういう業務用っぽいのものとかもこだわらずに買ってますよ」と話す平氏。少しラフに分厚く仕上げられたグラスは、非常に丈夫そう。



1. 平さん宅の事務所スペースを上から。ホースブランケットリサーチのブランケットが敷かれたソファに机はステューシー リビン ジェネラルストアのトランクをテーブル代わりにした。**2.** リビングダイニングの上には、屋根裏のようなスペースが。まだ完成されたスペースではないが、本や家具などが徐々に置かれ始め、理想の空間に近づいてきた。**3.4.** 部屋に置かれる小物たち。**5.** ランプはプルーフオブギルドというジュエリーブランドのもの。デザイナーが試作で部品からすべて手作りしたモノを頂いた。**6.** エントランス横に広がるウッドデッキも基礎以外は自分たちで作り上げた。**7.8.9.** 家の前にある工房。火は一度付けると出張中や旅行中でも付けっ放しなんだとか。

LIVING WITH MY FAVORITES

05

05 / 30

会社員
森本寛之さん（32 歳）

ROOM SPEC

東京都新宿区
エリア：須賀町
間取り：1R ＋ルーフバルコニー
居住年数：4 年
住宅形態：マンション
築年数：40 年

Left

6. 懐っこさのあるサボテンと卓上をやさしく灯すテーブルオイルランプ。よく目に入る風景だからこそ、愛でることができるものをそこに置く。**7.** 壁を天井まで埋め尽くすような背の高いシェルフには、本やキャンドル、植物などがところ狭しと並ぶ。整理整頓はされていてるが、必要以上にキレイに魅せないあたりににセンスを感じる。**8.** サーフィンが趣味の森本さんにとって、ウェットスーツもディスプレイの一部。**9.** 隠したいもの、使わないものはジュラルミンケースとワインボックスに収納。床に置かれたアルファベットのレタリングオブジェもこの雰囲気にマッチしている。

Right

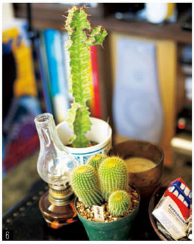
1. ルーフバルコニーに出るとまず目に入るのは、ロングとショートのサーフボード。ルーフバルコニーは物置きとしても使えて、非常に有効的。**2.** 歴史を感じるバッゲージを座卓として使用。ヴィンテージなものが好きという森本さんらしい活用術といえる。**3.** 通勤に使っているというギサロのジーワンもルーフバルコニーに。**4.** 玄関の外には「ここは上品な家」と洒落のきいた看板が。ユーズド感たっぷりのランタンがお出迎えする。**5.** 居間のシェルフにディスプレイされたマルタン・マルジェラのブーツ。ハンドメイドのクラフト感が感じられる、森本さんお気に入りの一品。

東京の真ん中で外遊びできる
贅沢すぎるルーフバルコニー。

9

8

7



6

中古住宅を再生するリノベーションする会社、リビタに勤める森本さんが住むのは、ワンルームにルーフバルコニーを併設するマンハッタンのアパートメントのような憧れのマンション。「部屋のインテリアもそうなんですが、アンディ・ウォーホルのファクトリーの考え方にすごく影響を受けているんですよ」と話すように、いろんな物が同じ空間にあり、気持ちのいい時間、暮らしやすい空気を生産していくそこは、まさに工場のようだ。決して広いとは言えないワンルームの限られた空間で「いかに自由な部屋を作れるのか？」「間取りや広さよりも、どう使えるか？」「どういう場所にできるか？」という自由度の高さがお部屋を選ぶときの基準になっているそう。ここのルーフバルコニーは、まさに何も用途が決まっていない自由さがお気に入りで、この部屋に決めたのだとか。「リビングや寝室、ダイニングといった用途がすでに決まっている標準的なお部屋よりも、このバルコニーのように『人を呼んで何かしようかな』とか、そこで過ごす時間を想像するのが好きなんです」。

お部屋作りとしては、自分の好きなものを集める倉庫的な空間がテーマだという。「良い意味で、ガラクタっぽく、飾らない。そんな肩肘張らない部屋が理想ですね。またリノベーションという仕事柄、古いものをリペアして使うことに価値を感じるんです」と話すように、部屋にはヴィンテージ品やリサイクルのもの、ここへ辿りつくまでの歴史を感じられるもので溢れている。お部屋の随所に散りばめられたコレクションひとつひとつが、そんな想いで集められた〝自分の好きなものたち〟。部屋自体が自分のストーリーを語れるように作られた、まさに森本さんの倉庫部屋だ。ちなみに、ルーフバルコニーからは神宮外苑花火大会の花火も見えるそう。こんなところから見られるんて、なんとも贅沢！

会社員
R.Iさん（41歳）
会社員
M.Iさん（38歳）

ROOM SPEC
東京都目黒区
エリア：目黒
間取り：1R（53㎡）
居住年数：1年6カ月
住宅形態：マンション
築年数：41年

LIVING WITH MY FAVORITES

06

06 / 30

前衛的であったかなミックス部屋。

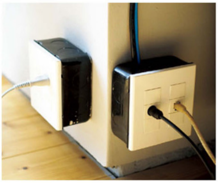
Iさん宅の扉を開くと、まず大きな四角い箱に驚かされる。目黒川沿いに建つマンションの一室をリノベーションして住まうIさんのお部屋の目玉は、何と言っても、この箱。内部はふたつにパーティションされ、書斎とベッドルームの役目を果たしている。「箱に覆われているおかげで、程よい密室感がある。パソコンで作業をするにも集中できるんです」という家主の言葉どおり、ワンルームだからこその開放的な生活空間をキープしつつ、一度、箱の中に入ってしまえば、プライベートなスペースも確保されるというわけだ。

コンクリートの土間を通ってお部屋に上がると、ふたつ目の驚きが待ち受けている。杉の無垢材でできたフローリングだ。杉は柔らかさが特徴。それゆえに傷がつきやすく床材には不向きとも言われるが、歩くたびに優しくバウンドするのを体感できるのだ。保温性も高く、「裸足でいるのが気持ちいい。冬でも靴下を履く回数が減ったくらい」というのも納得、日の当たる場所は特に柔らかく、木が生き物だということを実感させてくれる。

部屋に箱を設置してしまうというアバンギャルドさと、杉のフローリングが感じさせてくれる木の温もり。この異なる要素の調和がIさん宅の魅力。土間の壁には2台仲良くバイクが並んでいるが、ここに引っ越してきてからは出掛ける回数が減ったそうだ。「買い物に出掛けても、午後2時を過ぎると『もう、こんな時間！』という感じ。お日様が沈まないうちに家に帰りたくなるんです」と口を揃える。

そんなおふたりの新たな休日の過ごし方は、旦那さまはポカポカの床に寝転がりながらテレビ鑑賞やネットで調べ物。奥さまはリノベーションの際に出た端材を利用してボックスを手作りしたのをきっかけにハマったという、土間での木工作業。休日の過ごし方も変えてしまったお部屋なんて、羨ましいのひと言ではないか。

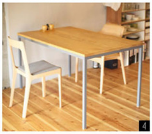
このテクいただき！



細部まで部屋のカラーリングにこだわれるのがリノベーションの魅力。DIYには難易度が高そうだが、鉄製のカチオン電着塗装で仕上げたアウトレットボックス＆スイッチカバーの組み合わせで、シックなモノクロの配管ボックスが手に入る。

Do It Yourself

フローリングの端材をリサイクルして作った収納ボックスがこちら。床材を好みのサイズにカット、クギを打ち付けてつなぐだけといった簡単な作りだが、手作りの温もりが味。奥さまはこれをきっかけにDIYにハマり、購入したベニヤでキャスター付き収納を作るまでに。



1. 部屋の景観を損ねないよう、隠す収納を徹底している。無印良品のポリプロピレンボックスは、無機質な質感が打ちっ放しの天井と好相性だ。**2.** ウォッシングスペースは玄関と箱の間に設置。**3.** テレビボードは「ランドスケーププロダクツ」のアイテム。**4.** 名古屋発のブランド「NAUT（ノート）」のテーブルは部屋の色調とマッチした木の天板とグレイの脚が決め手。**5.** 食器棚はディー＆デパートメントでゲット。**6.** 土間の壁にはご夫妻の愛機が並ぶ。それぞれグレーとブラックに塗装されたバイクとバツグンの相性を見せるピンクの配管は、壁を剥がしたところ、偶然に出てきたものだ。

7. 杉の無垢材で作られた柔らかなフローリング。傷がつきやすい一方、修復作業は意外と簡単。傷ついた箇所に霧吹きで水をシュとひと吹き、布伝いにアイロンをかけるだけで、小さな凹みなら元通りに。**8.** 箱と天井の隙間は収納スペースとして活用。コンランショップで購入したフタ付きの布製ボックスで、こちらも隠す収納に。**9.** お部屋の主役とも言える箱は、パーティションの中央を連続して四角く切り抜くことで奥行きのある空間を演出している。玄関側から眺めると、窓の向こう側に広がるマンション中庭の緑が見えるのもポイントが高い。**10.** キッチンは箱の背面にセットアップ。調理器具は柳宗理、包丁は名入れをした一品と、それだけで奥さまが料理上手なのが伺える。ドイツの刃物メーカー、ヴォストフ製のマグネット式包丁ホルダーも便利そうだ。

イラストレーター
藤田 忍（カエル）さん（37 歳）

ROOM SPEC

東京都北区
エリア：赤羽
間取り：1K（23㎡）
居住年数：3 年
住宅形態：アパート
築年数：約 30 年

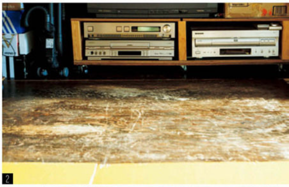
古きを愛する家主が作るお部屋は、まさに一点物。

赤羽駅から徒歩十数分、駅前の喧噪を抜けて路地に入ると、まるで昭和にタイムスリップしたような木造家屋が立ち並ぶ。お邪魔した藤田さんの住まいも30年余り昔に建てられた当時の姿をそのまま残す、レトロな佇まい。藤田さんの趣味はファットバイクというから、駅からの距離は気にならない。

「以前、住んでいた家も古い建物だったんです。古めかしさに懐かしさや落ち着きを感じるのはもちろん、古い物件最大の魅力はＤＩＹの自由度の高さ。もともと経年劣化による傷が多いから、自分でクギを打ち付けても転居するときのダメージが少ないでしょ？」。なるほど、家主の言葉どおり、壁を使ったシューズラックにベニヤで作ったデスクやブックシェルフ、段ボールを再利用したキャスター付き収納など、挙げればきりがないほど手作りの家具でいっぱい。畳張りだった床も、自ら板を敷いてフローリングにした。鴨居も日本建築ならではの魅力で、つっぱり棒やフックを設置すれば、誰でも簡単に見せる収納が作れるという。

作れるものは何でも作ってしまう藤田さんの職業はイラストレーター。実用的な家具だけでなく、部屋のあちらこちらに彼のセンスが散りばめられている。例えば額縁に納められたアートも、実は使い終わったバンドエイドの包み紙を並べただけという手作り。単なる日用品と思えば、すぐにゴミ箱に捨ててしまいそうなものだが、もとを辿れば商品として開発された、立派なプロダクトデザインというわけだ。

「かっこいい、かわいいと思ったものは捨てられないんですよ」と苦笑混じりに話してくれたが、手元に残しておけばアイディアが巡ってきたときに部屋の一部になる。使い捨ての時代に古きを愛して昭和建築の部屋を選ぶ、藤田さんの信条にリンクするのを感じた。



1. アンディ・ウォーホルがキャンベルスープの缶をアートに昇華させたように、空き缶も捨てずに取っておけばハイセンスな小物入れになる。**2.** 押し入れはふすまを取り払って窮屈感を排除。テレビやDVDプレーヤーといったAV機器も押し入れにセットして、スペースを有効活用。**3.** 本棚はベニヤ板をつなぎ合わせてDIY。自作すれば、手持ちの雑誌やファイルに合わせてサイズ感も思いのまま。オモチャ箱のように遊び心にあふれた空間の中で、ピタッと来る本棚のサイズ感が部屋をすっきりと見せる。**4.** ワーキングデスクも手作り。メモが貼り付けられた鉄板は捨てられていたのを拝借して壁に打ち付けたもの。**5.** 玄関のラックに引っかからないゴツめのシューズは、デッキの上に置いてオブジェの役目も果たす。

このテク いただき!

鴨居に100円均一のワイヤーネットを設置。S字フックや針金を吊り下げて、部屋の角のデッドスペースに写真やDM、小物をディスプレイ。鴨居はL字型のホルダーを打ち付けて、自転車のスペアタイヤを置くスペースにもなっている。

Do It Yourself

6. ホームセンターで購入した板を細長くカット。柱にクギで打ち付け、フックを引っかけるだけで完成だ。**7.** スーパーマーケットから不要になった段ボールをもらい受け、キャスターを打ち付けたベニヤ板に重ねれば、可動式の収納に早変わり。そもそも輸入に最適化された段ボールだけあって、強度はなかなかのもの。内部にベニヤ板を1枚敷けば、さらに安定した構造に。**8.** こちらがバンドエイドの包み紙で作った自作のアート。白いペーパーに包み紙を並べ、額縁に納めただけというのに、この通り。着古したTシャツのロゴ部分をラフに切り出して飾るのもアリだ。

塗るだけで黒板になるカンタンDIY

黒板塗料をトビラに塗り、チョークボードにアレンジ。エントランスの周辺にオブジェを置いて風景を飾ることはあるが、トビラそのものをDIYして彩るのは珍しい。賃貸ではできないが、家具などにもペイントできる塗料のため、壁面を有効活用したい方はぜひ。

会社員
梶原 裕さん（38歳）

LIVING WITH MY FAVORITES

08

08 / 30

ROOM SPEC

東京都渋谷区
エリア：富ヶ谷
間取り：1R（58㎡）
居住年数：4年
住宅形態：マンション
築年数：35年

Right
ポイントで配置されるグリーンたち。グリーンショップの方に自宅まで足を運んでもらい、この空間にマッチする緑を聞いてセレクトしたそうだ。

Center
クラシカルなエナメル塗装を施した「ポーラー」のハンドプリントメタルマグを自宅用として愛用している。「ビジュアルが気に入って買いました」

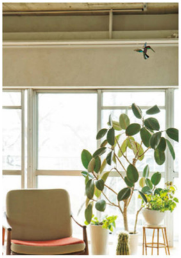
Left
「コルナゴ」のロードバイクは、70年代のヴィンテージモノ。奥の自転車は幡ヶ谷にあるサイクルショップ「ブルーラグ」のオリジナルモデル。

必要以上に物を置きすぎない
サステナブルな部屋作り。

富ヶ谷の静かな住宅地にあるビンテージマンション。その一室をスマサガ不動産でリノベーションした梶原さんのお部屋は、開放的な空間に自転車やグリーンなど、好きなモノだけが整然と並べられている。「趣味が自転車くらいなので（笑）、部屋に置いておけて、さらに出し入れもしやすいよう導線を考えました」。それにしても、富ヶ谷で60㎡近い広々としたワンルーム。だいぶお値段も張りそうだが…。「このエリアは古い建物も多く、意外に安い物件が多いんです。これだけ内装をいじっても、月々10万円台前半くらいで暮らせるんですよ。あとは自分で壁や天上に漆喰を塗ったりトビラをつけたりと、セルフでできる所は自分でやって、内装費用を削りました。もともと経年劣化したような風合いのものが何でも好きだったし、ヴィンテージ感やクラフト感のあるものも好きでした。だからちょっと手作りっぽい感じも気に入ってます。ネットで調べるだけでも、自分でDIYする方法ってたくさん見つかるし、案外できることって多いですよ」。またDIYの方法だけでなく、部屋作りのイメージや欲しいインテリアグッズもネットから情報を得ることが多いそう。「サマリーでアップされているアイテムを見て購入に踏み切ることが多いですね。知らない物がたくさんあるし、小まめにチェックするようにしています。あとは以前に職場のあった吉祥寺にあるインテリアショップ、ラウンドアバウトも好きでよく行っていましたね」。エントランス横の洗面台脇に置かれたミリタリーボックスも、このショップで購入したアイテムのひとつ。「この部屋の弱点を強いて挙げるとすれば、広めのワンルームだから冬場は少し寒いですね…。次は部屋の防寒対策グッズを狙ってます（笑）」。

**ハンギングタイプの
テラリウムで緑を立体的に！**

天上に段差を付けたことで生まれたデッドスペースには、ハンギングバブルをぶら下げてチランジアをディスプレイし、有効活用。エアプランツ初心者でもマネできるのでオススメだ。



この部屋で一番の存在感を放つゴムの木の横には、ミッドセンチュリー期のものと思われる椅子を配置。ブランド名は不明だが、美しい曲線的なデザインにひと目惚れして購入した。日当りも良く、植物を育てるには最適の環境。

浴室の壁には炭を混ぜ込んだコンクリートを使用。他の壁がすべて白のため、印象もガラリと変わる。木と白を基調としながら、家具や一部の壁で黒を差し込むことで、ナチュラルすぎない洗練された空間に仕上げている。

天上に３段階の段差を付けたことで、空間に程よくリズム感が生まれた。ワンルームでも単調な部屋にならない、リノベならではのアイディアだ。中央に置かれたテーブルは地方の家具職人にオーダーして制作してもらったもの。

壁や家具、天上の段差など、とにかく直線的なデザインが多い梶原邸。都会的で洗練された空気感を感じさせるのは、この法則に拠るところも大きい。また必要以上にモノやグリーンを飾らず、自分たちが管理できるところまでで留めるという身の丈にあったスタイルも現代的な考えだ。

2 1
3

1. 床は下地用に使われるラーチ合板のまま。「本当は無垢の木を張りたかったけど、予算的に厳しくて（笑）。でも、最近じゃ味も出てきて、これが気に入ってます」**2.** ソファのクッション部分ももとは背もたれと同じレザー。革がひび割れしてしまったため、ソファ屋さんでカバーをオーダーメイドして別のファブリックにチェンジ。**3.** テーブルや椅子などは脚の細い物が多いため、あまり存在感を主張しすぎない。「でもハーマンミラーのアーロンチェアだけは、座り心地にヤラれて買っちゃいました（笑）」

Do It Yourself

Right

洗面台やチェストには、ポーターズペイントで購入した錆ペイントを自分で塗装した。鉄製、木材どちらの家具でも錆に変えることができ、アンティークのような風合いを生み出すことができる。

Left

入り口横にある収納の扉は、プラスチックのトタンで作ってもらった。「上に穴をあけて、突っ張り棒にリングで吊しただけなんです。開閉にコツがいりますが、あまり見ないし気に入ってます」。

LIVING WITH MY FAVORITES

09

09 / 30

「うつわとくらし sol」代表
菊田 悟さん（34 歳）

ROOM SPEC

神奈川県逗子市
エリア：東逗子
間取り：5DK
居住年数：4 年
住宅形態：木造一軒家（賃貸）
築年数：約 40 年

Right

1. 天井との空間には流通用のりんご箱をビスで打ち付け、収納を設置。**2.** お宅で唯一と言っていい電子機器＝パソコンが置かれたデスクはアンティークのもの。手仕事で作られた陶器が並ぶ。**3.** 庭にはテーブルがぽつり。今後はテラスをDIYして快適な庭をつくる予定。**4.** 部屋をイチから改装するにはノコギリでは力不足。RYOBI のチェーンソーが相棒だ。**5.** 和菓子屋であんこを煮詰めるために使われていた釜をストーブ代わりに。友達を招いたときにはバーベキュー台としても活躍する。**6.** 外壁も自らの手で塗り替えたそう。お宅の前には、使われるときを今かと待つ資材が並ぶ。**7.** 取り外したふすまに木の板を重ねて、さらに脚を打ち付けて手作りしたダイニングテーブル。ふすま紙からむき出しになった木目が、いい味を醸し出す。**8.**「自分が好きと思えるものを選べばいいんです」。古い伊万里焼から新進気鋭の作家のものまで、器は産地やブランドにこだわらず、デザイン重視でセレクト。

Left

9. クライミングギアは、ふすまを取り払った押し入れにセット。「タブス」のスーノーシューや「ナンガ」のシュラフなど装備は万端だ。**10.** 薪ストーブは北海道の老舗「新保製作所」のもの。薪は自身のショップの内装をお願いした大工さんから頂戴するそうだ。**11.** 登山用のバックパックは「マックパック」と「アークテリクス」を愛用。鴨居に打ち付けたフックに引っかけ、こちらもすぐ持って出掛けられるようにしてある。**12.** 季節を問わず 2000m 級の山にも登るとあってバーナーも必須だ。**13.** さすが急な階段を上った先にあるお宅。2 階には一面窓張りのサンルームがあり、自然光がさんさんと降り注ぐ。**14.** 寝室にて発見したランタンは古道具屋でゲットしたそう。いい具合に錆びて、これもまた味のある一品だ。**15.** これが 101 段ある階段。緑に囲まれて秘密基地に行くようなワクワク感があるが、なかなかの急勾配で上るのにひと苦労。**16.** 2 階サンルームからの眺望。晴れた日には富士山まで見渡せる。

2

1

6

4

5

3

8

7

都心を離れて送る、手仕事のスローライフ。

神奈川県は三島半島、三崎で器や生活道具などを扱う「うつわとくらしｓｏｌ」を営む菊田さん。ショップを開くに当たり、同じく三島半島で新居を探していたそうだが、賃料は一軒家というのに1カ月5万円。それもそのはず、お宅に辿り着くには101段もある石階段を上らなければならない。

「あまりに安いので怪しみながら問い合わせたところ、理由はこの階段だと。けれどトレッキングが趣味のボクにとっては、むしろいいトレーニングになると即決でした」。月に一度は山に上るそうで、部屋にお邪魔すると、お馴染みのギアたちが迎えてくれた。

ギアは押し入れに収納されているが、ふすまは外し、すぐに取り出せるようにした。畳敷きの床は自らの手でフローリングに、壁も白く塗り替えたが、仕事の合間を縫っての作業。しかも資材は、あの強烈な階段を上らなければ運べないとあって、いまだ未完成だ。

ショップでは手仕事で作られた雑貨を中心に扱う菊田さんだけに、デジタルとは縁遠い生活を送っている。広い部屋を見渡しても、電子機器が見当たらない。暖房器具も薪ストーブと灯油ストーブのみだ。「2階にパソコンがあるくらいですかね。あの階段を上って運ぶことを考えたら、自然と必要最低限のものしか置かなくなった」。

決して便利ではないが、自らの手で作り出す生活。部屋の改装もゆっくり焦らず自らの手でがモットーの菊田さん宅に、真のスローライフを見た。

10

9

13

12

11

16

15

14

LIVING WITH MY FAVORITES

10

10 / 30

会社員
入澤 亘さん（28歳）
会社員
入澤 茉利子さん（28歳）

ROOM SPEC

千葉県千葉市
エリア：幕張
間取り：1LDK（45㎡）
居住年数：2年
住宅形態：マンション
築年数：2年（新築）

3

2

1

植物やギアの“アウト”な要素から成る、リラックス。

ほっこり笑顔で迎えてくれたのは、千葉県幕張のマンションで暮らす入澤夫妻。自然光が注ぐ窓から外を眺めると、道を1本挟んで幕張本郷駅の車両基地が広がる。おかげで今後、高い建物が建つ可能性は限りなく低い。「柔らかな日が差すだけでリラックスできる。だから日当たりのよさは絶対条件でした」。キャンプに釣りにフェス、スケートボード好きのご夫妻だけに、アウトドアピープル御用達のギアたちがインテリアのアクセントとなっているが、おふたりの人柄が反映されてなのか、それとも柔らかな日差しのおかげなのか、男臭い感じは皆無。お部屋もほっこり感でいっぱいだ。

男臭さゼロのほっこり感から、インテリアは茉莉子さんの趣味かと思いきや、「お部屋作りは旦那さんの担当なんです。完全に任せきり！（笑）」だそう。ランダムにレイアウトされた写真やポストカードのラフさによって、気取らないアート感を生み出している壁面のディスプレイも亘さん作。日の当たる窓際にさりげなく緑を配置、モスグリーンのカーテンと相まって、居心地のいい空間を生み出している。

「やっぱり家は、くつろげる場所であってほしい。リラックスして過ごすスペースには緑が欠かせないと思うと、プランターやウッディな家具は必須ですね」と話す亘さん。その言葉どおり、ローテーブルやダイニングセットにテレビボード、よく見ればプランターと同化したスピーカーまで木製だ。

「家具の決め手は第一印象。ビビっと来たら、あとはお財布と相談するだけ」。ソファとローテーブルは亘さんが独身時代から使っていた年期の入ったアイテム、ダイニングテーブルとチェアはIKEAでゲットと、頑張りすぎないナチュラルなセレクトもまた、ほっこり感の秘訣かも知れない。

1 壁面のディスプレイをふんわりと照らしているのは、なんと工事現場用のハンドランプ。むき出しの電球と無雑作に吊された感じがナチュラルなお部屋とマッチ。値段も2000円程度と手頃で、すぐに真似できるアイディアだ。

2 アウトドアに欠かせない「コールマン」のダブルステンレスマグは、インドア空間でも現役。休日はソファに座って、まったりと映画鑑賞をして過ごすというご夫妻だから、保冷も保温もしっかりのマグは室内でもマストアイテム。

3 トイレが隠れたプライベート空間という人は多いはず。雑誌は津田沼のUSアンティークショップで見つけたというスケートボードの上にオン。ここにも緑が登場、サボテンのプランターがまた、ほっこり感をプラスしている。

4 パイオニア製のスピーカーは、ウッディなプランターに紛れるように配置。マガジンラックとして使用している木製のワインケースにウクレレと、テーストを木目で統一することで、植物が部屋にすんなりと溶け込んでいる。

5 カーテンレールに高円寺の雑貨屋マルトでひと目惚れしたヴィンテージ風の小物入れを吊し、プランターとして活用。曲線に壊れてしまった「コールマン」のカモフラージュ柄ランタンをぶら下げ、オブジェとして復活させた。

6 4～5年前から使っているという愛着いっぱいのソファは、いい感じにすり切れて味が出てきたところ。「ペンドルトン」のマルチカラーブランケットは、民族テイストならではの温もりで、程よく部屋のアクセントになっている。

7 「コールマン」のマグと同様、ブルーリッジのチェアもインドアで活躍中。随所に植物が散りばめられた部屋とコーディネートして、カラーはグリーンをチョイス。いかにも抱き心地がよさそうなクッションは、ゾゾタウンでゲット。

8 ピースフルなペインティングでバツグンの存在感を放つジャンベも、お部屋ではインテリアのひとつとなっているが、フェスでは本来の姿を取り戻す。音楽にノリながら、これを打ち鳴らすのが入澤夫妻のフェススタイルの定番。

9 ご夫妻の語らいの場であるダイニングテーブルにも、南房総市にある仙興園サボテンセンターで購入した植物で緑を添えた。奥に見えるふたつ仲良く並んだサボテンは、カラフルなニットをまとった鉢植えが飛びきりにかわいい。

10 壁のディスプレイには結婚式に招いたゲストの指印が並んだウエディングツリーやご夫妻のツーショット写真も飾られ、アルバム的な役目も果たしている。特に写真は思い出深い1枚が撮れるたび、アップデートしているそう。

11 壁の真ん中に主役となる大きな写真を配置。適度にスペースを空けながら、中央の写真を囲むような感覚でレイアウトするのがコツだそう。ちなみに球状のオーナメントはバンコクのウィークエンドマーケットでゲットしたもの。

緑と日差しと家具が調和する、柔らかトーンの温もりリビング。

イラストレーター
ナカオ☆テッペイさん
(38歳)

フラワースタイリスト、
イラストレーター
おくむらさーこさん
(37歳)

ROOM SPEC

神奈川県川崎市
エリア：新丸子
間取り：2LDK
居住年数：7年
住宅形態：マンション
築年数：7年

LIVING WITH MY FAVORITES

11

11 / 30

東京と神奈川のちょうど境目、目と鼻の先に多摩川を臨むナカオさんファミリーのお宅は、日当たりバツグン。日の当たるベランダの向こうには東海道新幹線が走り、コーヒーを飲みながら、ぼんやりと窓から見える景色を楽しむのが日課だそうだ。

そんなナカオさんの自宅には、お日様の光をさんさんと受けて育つ観葉植物がいっぱい。「植物のセレクトはすべて奥さん」とナカオさん。奥さまのさーこさんは「特にこだわりはなくて、見た目が好きな木を選んでいるだけなんです。強いてポイントを挙げるとすれば、あまり世話をしなくて済む種類を選ぶぐらい（笑）」と話してくれたが、さーこさんの職業はイラストレーター兼フラワースタイリストというから、センスのよさも納得だ。

壁に沿ってツタを垂らしたり、まるで手を広げるように葉っぱを伸ばしたり、さーこさんの選んだ植物たちは、のびのび生長しているが、とりわけ存在感を主張するでもなく、お部屋という生活空間に自然と溶け込んでいる。「お部屋に求めるのは温もりとシンプルさ」と声を揃えるご夫妻。植物がすんなりお部屋に馴染んでいるのも、日差しを浴びて生成りに染まった壁や、ホワイトや木目で統一されたインテリアと緑がうまく調和しているから。全体が柔らかなトーンでまとめられたお部屋は、何とも居心地がいい。

おふたり揃ってイラストレーターというだけあって、ブックシェルフに並んだ絵本やビジュアルブック、壁にディスプレイされたイラストにフリスビーと、どれもこれもセンスを感じるものばかりだが、お部屋そのものは至ってナチュラル。だからこそ、ちょっとした小物がアクセントとなり、単にシンプルではない、生き生きと表情のあるお部屋に見せているのだろう。

WORK SPACE

WIFE'S DESK

デスクもシェルフもホワイト系で統一、生活空間に溶け込んだワーキングスペース。

広々としたリビングダイニングの一角が奥さまのワーキングスペース。インスピレーションが命の職業だけに、椅子に腰かけながらすぐ手に取れる位置にブックシェルフをレイアウト。資料として並んだ本の上で色のアクセントとなっているのはアウトドアピープルにもお馴染み、テンプラガレージのカクメットだ。さーこさんは近所にアトリエも持っており、「cui cui」というユニット名で親子一緒に楽しめるフラワー教室を開催。イラストレーターとフラワースタイリストというふたつの顔を持つさーこさんのセンスで、アートのエッセンスが効いたアレンジをレクチャーしている。

HUSBAND'S DESK

多彩な仕事道具も、お部屋のアクセント。

ナカオさんも事務所を構えているが、息子の碧くんが生まれてからはワークスペースを一時自宅に移転。家事も子育ても二人三脚、家で作業することが増えたそうだ。棚に積まれたカラフルなフリスビーは、ナカオさんにとってのキャンバス。趣味のキャンプでフリスビーカルチャーに衝撃を受けてからというもの、フリスビーとイラストのコラボレーションを行っている。

4 ナカオさんの仕事部屋の一面を覆うのが、アウトドアギアが収納されたシェルフだ。「好きなものを詰め込んだだけ」と話すとおり、ここだけどこか男臭いのが味。最近のお気に入りは蛍光のショルダーが目を引く、クレッタルムーセンのバッグ。

3 3つ仲良く並んだバッグはL.L.Beanのボート・アンド・トートシリーズのもので、ネーム刺しゅうをオーダー。家族で大中小とサイズ違いで揃えたのがかわいいが、アウトドアウェアの老舗だけにバッグとしての強度もお墨付き。

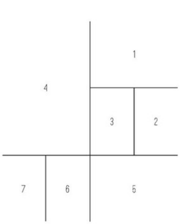
2 仕事の合間にホッとひと息つくにも、仕事中の目覚ましにもマストなコーヒーだから、キットにもこだわりあり。ケトルはバリスタも御用達のハリオ、パワーケトル・ヴォーノ、アルミのドリップポットは無印良品で発見したポルトガル製だ。

1 キッチンのカウンターには観葉植物と一緒にウッディなオブジェも配置。どこか怪しげな（?）表情をした猿の木彫りは旅の思い出にバリで購入したもの。アロマキャンドルの入った小瓶はグリーンと、さりげなく観葉植物と調和させている。

7 IKEAでゲットしたシェルフキットを組み合わせて作ったラックには愛息子・碧くんのファーストシューズをディスプレイ。「A（アー）」というブランドにオーダーし製作した。アッパーのテキスタイルはナカオさん自らがデザインした。

6 ホワイトの壁に緑がマッチした空間が、ナカオさんファミリー宅の魅力だ。ソファの脇に置かれたプランターに植えられているのがセローム、窓際ですくすく生長しているのがパキラと、どちらも頻繁な水やりが不要で、自宅で育てやすい植物だ。

5 絶好の日光浴ポイントであるベランダにもグリーンたちがいっぱい並ぶ。引越し祝いでもらったというゴムの木を始め、いただき物も多いそう。またローズマリーなどハーブ系の植物も栽培し、さーこさんの手によって、食材にも変身する。



アートと家具が同居した、
アースカラーでまとめた生活空間。

温もりのダイニングに飾られているのは、ナカオさんが描いたイラストレーション。友人である今井トゥーンズ氏のグラフィティがセットされたチェアは、さーこさんが学生時代にアルバイトをしていた中目黒の「デポ」でゲット。「バリスティックス」と「ペレグリンファニチャー」のコラボチェアも、ベースカラーが木目に調和するベージュ系をセレクトすれば、迷彩柄でも自然にハマる。

現代的解釈で伝統建築をアップデート。ラスティックかつモダンな土間のある家。

土間と隣合わせのリビング。これなら食事をしながらでも、リビングで遊ぶ子どもたちの様子に目が行き届くため安心。ちなみに、大きなスライド式の扉で仕切ることも可能だ。

会社員
越後貴史さん（33歳）
主婦
越後 満寿美さん（35歳）
市松くん（5歳）
糸ちゃん（7ヵ月）

ROOM SPEC

東京都品川区
エリア：戸越銀座
間取り：3LDK＋土間
居住年数：3年
住宅形態：マンション
築年数：39年

LIVING WITH MY FAVORITES

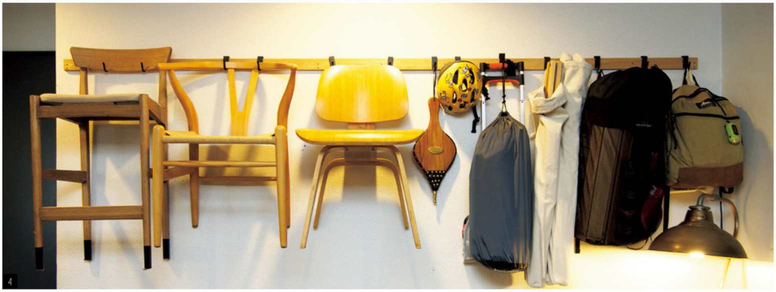
12

12 / 30

4畳半の広い土間。越後ご夫妻のお部屋作りは、この土間ありきから始まっている。「実家に大きな土間があったんです。本当はその家の間取りをそのまま再現したかったんですよ」と話す越後さん。その土間にダイニングテーブルを置くことで、ただのエントランスではなく、生活の中心スペースをそこに作り上げた。また意匠照明や家具のデザインなど、店舗装飾全般に携わる越後さんらしく、古き良き日本家屋の伝統を取り入れたお部屋ながら、配した家具で現代的な要素も巧みに融合した。「イームズ」のLCWや「ハンス・J・ウェグナー」のYチェアなど、ミッドセンチュリーの名品から自作品まで、全16脚の椅子たちが和の空間に程よいアクセントとして置かれている。またその椅子たちを壁一面に掛けるという収納方法もユニークだ。「家具を選ぶ時はショップに足を運ぶことも多いですが、ネットもよくチェックしますね。「デモデファニチャー」や関家具が手掛ける「クラッシュクラッシュプロジェクト」などはオススメですよ。あとはオークション。「工業系ランプ」「インダストリアル ランプ」などで検索すると、面白いアイテムに巡り会ったりします」。

また何より特筆すべきは、DIYアイテムの多さと、そのクオリティの高さ。キッチン奥の食器棚、エントランス横のシューズラックの扉、リビングに設置したシェルフなど、すべてが自身の手で作ったもの。さらに、ここ数年で趣味のひとつになったキャンプ道具も自作するという。

あたたかくなれば、キャンプシーズンがやってくる。キャンプが大好きな市松くんが「早くキャンプに行こう！」とお父さんにねだる。今日もそんなあたたかな会話が、この土間で繰り広げられている。

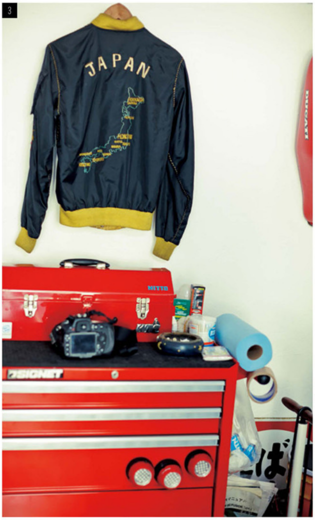


1. リビングの奥にクッションと共に並べられたスツールは、仕事で作った店舗什器のサンプル。5 つ並べることでソファのような存在感。**2.** 奥のチェアは約 50 年前のアンティーク。デザイナーズからアンティーク、そして自作まで、ありとあらゆる椅子がラインナップする越後邸。アンティーク家具は品川にある「トゥルー」というショップがオススメだそう。**3.** 土間の右奥に見えるのは、フランスのメーカー「トリックス」社の A チェアに下地が透けるよう、黒塗装を施したもの。**4.**「ハンス・J・ウェグナー」の Y チェアに「イームズ」の LCW など、土間の壁にも椅子がズラリ。その隣には「マーモット」のテント「ライムストーン 3」、「ダルトン」の折り畳みチェアに「ホンマ製作所」のふいごなど、キャンプグッズが並ぶ。**5.** キッチンカウンターに置かれたタバコケースもアンティーク。かつて住んでいた三軒茶屋の淡島通り沿いにあるアンティークショップで購入。**6.** リビングの壁一面に取り付けられた、高さが調節可能な棚も越後さんの自作というから驚き。**7.** エントランス横に並ぶオブジェは益子焼の陶芸家、菊地 晃氏の作品と、滋賀県甲賀市の伝統陶磁器、信楽焼の置物。**8.** バーカウンターの上に備えつけられたリカーラックも自作。チークオイルを塗って仕上げた。

Do It Yourself

Close

1. バイヤーのヴィンテージテーブルをモチーフに自作した、ロールトップテーブル。脚もばらすことができるため、使用時からは想像できないほど収納時はコンパクトになる。**2.** 腰に装着可能なペグ&工具ケース。収納時はベルトにくるみ、テントの設営時には帆布に内蔵したベルトループに通して腰に巻く。パターンから起こしたという自慢の DIY アイテムだ。3 段階に高さ調節が可能と、ハンドメイドながらかなり本格的な仕様である。**3.** シューズラックの仕上げ材として使われていたのは、IKEA のシューズマットというから驚き。扉を外し、ボンドで接着、重石を置いてひと晩固定した後、小口の仕上げ材として麻布を付ければ完成。もちろん、こちらも自作。



3

1

2

GARAGE

乗り物好きにはたまらない“MY ガレージ”。

1. オイル交換やペイントまでセルフで行う、乗り物好きな晃靖さん。男ならロマンとも言うべき素敵なガレージには、ドゥカティの900ss やホンダのフュージョン。車はミニのクーパーと、計３台を所有している。**2.** スタイリッシュな白いロードバイクは奥さんと１台ずつ。上はケルビムのフルオーダーのロードレーサー、下が1980年代のバッソ。車に積んでサイクリングに出かけることもあるそう。**3.** これは外せない“お約束”の赤いキャビネットとツールボックスは、それぞれ「シグネット」「KTC」のもの。ヴィンテージのスカジャンはフリマにて破格値で手に入れたそう。

LIVING WITH MY FAVORITES

13

13/30

フリーエディター、ライター
栗山晃靖さん（35 歳）
フォトグラファー
栗山志野さん（36 歳）
雫くん（3 歳）

ROOM SPEC

東京都狛江市
エリア：和泉多摩川
間取り：4LDK
居住年数：2 年
物件形態：木造一軒家
築年数：34 年

AUDIO & GUITAR

5

4

6

大好きなものこそ アナロジーでシンプルに。

4. リビングに置かれたレコードプレイヤー。アナログならでは“手間”も楽しみながら、最近はウェス・モンゴメリーやジョン・コルトレーンなどのジャズにハマっているのだとか。**5.** ミニマムな音響設備はチボリオーディオ。見た目と性能のバランスがポイントだ。**6.** シンプルなテレビ台は無印良品。左側に見えるグレッチのギターは晃靖さんのもの。チェットアトキンステネシアンという 1960 年代製造のオールドモデルで、ビートルズのジョージ・ハリスンやブランキージェットシティの浅井健一も愛用していた名機だ。

多摩川越しに車いじり。ガレージ付きの男部屋。

東京は西のはずれ、多摩川沿いの閑静な住宅街に住む栗山さんご家族。都心のど真ん中とは違い、高い建物が少なく空が抜ける。駅から少し離れてはいるが、多摩川沿いのナイスなロケーションなら、それもあまり気にならない。もともとはこのあたりに住むイメージはなく、都心で家を探していたのだが、晃靖さんはフリーのエディター、奥さんの志野さんもフリーという仕事柄、「都心の狭いところに無理して住むより、ちょっと離れてもいいから広いところの方がいいよね」という想いからここへ引っ越すことを決めたのだとか。そして、乗り物関係の編集をしていた晃靖さんの心を鷲掴みしたのは何といってもこのガレージ！「車もバイクも自転車も好きで、オイル交換からなにから自分でやるんです」と話してくれた。セルフメイドで仕上げた漆喰の壁には、奥さんが撮り下ろした写真が額に入れて飾られている。そんな仲の良いご夫婦が一番多くの時間を過ごすリビングダイニングは、もともとあった2つの部屋の障壁を取り払った開放的な空間。寄木でヘリンボーンのパターンが加えられた床は、友人の建築家さんが、晃靖さんの意向を上手に表現してくれている。写真でご家族が囲んでいるダイニングテーブルはネットでセミオーダーをかけたもの。ブランドモノより自分たちの〝欲しい〟が明確な栗山さんご夫妻らしい素敵なセレクト。ここに越してきて約2年半。リノベーションをしているのは、まだこのリビングだけですが、自分たちの想い描く〝理想の家〟を家族みんなで作っていくことほど幸せなことはない。自分たちが求めるすべてが満点な場所なんてないのだからこそ、「狭い都心より郊外」「高いブランドものより欲しいを形にしてくれるセミオーダー」と、栗山さんご家族の〝選択〟テクニックはぜひとも見習いたいものだ。

8

7

7. 庭いじりが好きな晃靖さんは、ここで野菜を育てているのだとか。夏はトマトやゴーヤ、獅子唐、冬は小松菜やブロッコリー、水菜など通年で季節の野菜を楽しんでいるそうだ。また、雫ちゃんが生まれた際にリスボンレモンの記念樹が植えられている。**8.** 大好きなコーヒーは晃靖さん自身が手引き、ドリップ。自分で淹れた特別な一杯で始める一日は、素敵なことだ。2使い込まれた銅の風合いが素敵なコーヒーポットは義母からの頂き物で、二重に重なったシルエットが美しい「ボダム」のグラスや、「カリタ」の鋳鉄製ダイヤコーヒーミルを愛用。

会社員
Hさん（36歳）
会社員
Cさん（36歳）

ROOM SPEC

東京都品川区
エリア：目黒
間取り：1R（60㎡）
居住年数：1年
住宅形態：マンション
築年数：35年

LIVING WITH MY FAVORITES

14

14 / 30

ゆっくり着実に完成させる、妥協ゼロの空間。

趣味にこだわる人なら頷けるはず。ともにアパレル関係のお仕事に就くご夫妻だけあって、「とにかく収納の多い部屋に住みたくて」と、ふくれ上がったワードローブの収納スペース確保が部屋作りのテーマになったそう。しかしラックの多い部屋では、どうしても窮屈感が出てしまう。結果、リノベーションを経て、理想のお部屋に。

リノベーションは不動産界の風雲児と目される（！）スマサガ不動産に依頼。お宅の扉を開けると、まるで靴屋さんに訪れたかと錯覚するような玄関が出迎えてくれる。壁やリビングに通じる扉の素材はラーチ合板で統一。ラックに並ぶシューズコレクションの数々はもちろんのこと、この統一感によって、エントランス自体がひとつの完成された空間に仕上がっている。

その圧倒感のまま扉を開けてリビングダイニングにお邪魔すると、そこはアパレルショップのような玄関から一転、生活に必要なインテリアのみで構成された、リラックス空間。収納場所に困っていたという服のコレクションはどこへやら？　と思うほどだ。

その答えはリビングダイニングから間仕切りなしに通じるベッドルームにあり。寝室の壁面には玄関の壁に用いたのと同様、ラーチ合板で壁と見まがうようなスライド式扉のクローゼットを設置。開いてみれば、さすがと言わんばかりに洋服が並ぶが、〝収納に見せない収納〟をイメージしたクローゼットにこそ、成せるワザだ。

「リノベーションの完成度の高さから、インテリアには妥協したくなくて」と語るご夫妻。これぞと思うダイニングテーブルを見つけるのにも1年を費やしたそう。〝理想の部屋は1日にして成らず〟というわけだが、そこには新居を構えてなお、〝作り上げる楽しみ〟が存分に残っている。

Right

マガジンラックとして使っているボックスは、「暮らしの手帖」の編集長も務める松浦弥太郎氏のブックショップ「カウブックス」でゲット。キャスター付きボックスも同じシリーズのものを購入。こちらは可動式の調味料収納として活躍している。

Left

フローリングに直置きしたボックスは、栃木県は宇都宮のインテリアショップ「4ROOM」のオリジナル。中が空洞になっているため、パソコンなどのケーブルを隠すスペースとしても活用。複数並べれば、ボックスの上もちょっとしたスペースになる。

1. こだわりのダイニングテーブルは恵比寿のレクトホールで見つけた50年代フランスのアンティーク。ランプシェードも恵比寿で購入、「パシフィックファニチャーサービス」。**2.** ラーチ合板のスライド式扉で、部屋と一体化したクローゼットに。**3.** 使用頻度の少ない靴は箱に入れたままシューズラックの最上部に。同じブランドのものを隣り合わせれば、雑然とした感じはゼロ。**4.** キッズスニーカーはオブジェとして部屋のアクセントに。**5.** 靴屋のような空間をつくり出すには、シューズの並べ方にもポイントあり。スニーカーや革靴にパンプスとジャンルごとに隣り合わせて並べると、それだけで洗練された雰囲気。**6.** 打ちっ放しの天井にラーチ合板の壁、ズラリと並んだシューズコレクションと、まさに完成された空間だ。

7. 「ずっと使い場所を探していたんです」という鏡は、奥さまが神戸のヴィンテージショップでひと目惚れ。新居のウォッシングスペースに合わせてみたところ、見事に調和した。**8.** キッチンに並べられた小瓶たちも目黒界隈のインテリアショップで見つけた抜け目のないルックス。**9.** 調味料は「ブエブコ」のワイヤーボックスにイン。日本製品は奥に、パッケージがおしゃれな海外製品を手前にしまうだけで生活感が帳消しになる。**10.** リノベーションだからこそ実現できたウッディなキッチン。食器や調味料のパッケージひとつひとつにこだわりたくなるのも納得だ。

会社員
克仁さん（40歳）
会社員
美樹さん（39歳）

ROOM SPEC

東京都品川区
エリア：目黒
間取り：1R（48㎡）
居住年数：3年
住宅形態：マンション
築年数：40年

15

バスタブ代わりの桶は南部桶正にオーダーメイドし、ジャストサイズで製作してもらった。バスルームを照らす照明も、本来は船舶に使われるというマリンランプを選ぶこだわりぶり。船という閉鎖空間に使われることから耐久性に優れ、限られたスペースにも設置しやすいそう。

天井のスペースを活用してブックシェルフに、暖房はリノベーション前の姿をそのまま活かしたという障子にマッチする、トヨトミ製のレトロな石油ストーブだ。床材に選んだ杉の保温性のおかげでストーブだけでも温かく、夏は土間で夕涼みをしながらビールを一杯。

間仕切りゼロだから成せる、贅沢ワンルーム。

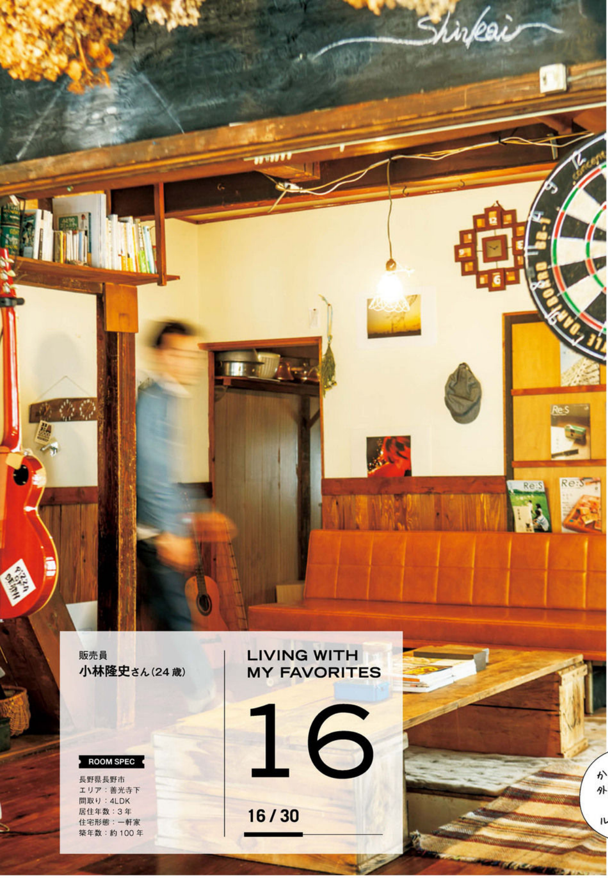
品川区と目黒区がクロスする都会のド真ん中、愛犬の小鈴ちゃん（♀）とともに暮らすご夫妻が望んだのは、限られたスペースとコストのなかで彼女が思いのままに回遊できる空間だ。築40年、決して新しくはないマンションの一室を新居に選ぶに当たり、リノベーションを得意とするスマサガ不動産に、その望みを託した。

「広さはもちろん、小鈴が駆け回れる部屋が欲しくて」と、克仁さん。そのため、もとは2DKだった間取りの仕切りをすべて取り払い、ワンルームにチェンジ。トイレ以外は一切、パーティションのない部屋が仕上がった。

その結果、驚くなかれ、お風呂にも仕切りがない。バスタブ代わりに桶を設置、しかも隣り合わせるのはキッチンというから面白い。引っ越し当初は気恥ずかしさもあったというが、いまや料理上手の奥さまが「どうぞ」と差し出してくれるおつまみを味わいながら、晩酌タイムを過ごす。

しかし徹底してパーティションをなくしたというのに、リビングダイニングはフローリング、書斎兼寝室のエリアは畳敷き、キッチン&お風呂はコンクリと床の素材を変え、単なるワンルームとは思わせないワザが光る。「部屋ごとに扉を作ると、どうしても圧迫感が出てしまう。デザイナーさんと相談を重ねた末、境界線を作るのではなく、ぼかすことにしたんです」。

「リビングルーム」＝「生活する場所」だが、バスルームもダイニングルームもベッドルームも、暮らしてみれば、すべてが生活空間。ご夫妻揃って「部屋のどこから眺めてもリビングという感じ」と話すとおり、仕切りのない間取りが、愛犬が自由に駆け回れる広々とした空間や、温かな湯船に浸かりながら夫婦の会話を交わせる贅沢な生活スペースを作り出している。



販売員
小林隆史さん（24歳）

LIVING WITH MY FAVORITES

16

16 / 30

ROOM SPEC
長野県長野市
エリア：善光寺下
間取り：4LDK
居住年数：3年
住宅形態：一軒家
築年数：約100年

かつての金物店の外装はそのままに友人2人でルームシェア中。

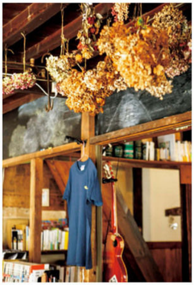
誰もが少年の顔を取り戻す、大人の秘密基地。

小林さんが暮らすのは古い街並みをいまに残す門前町。お宅の外壁は褪せた緑色のトタンに扉はガラス戸と、見るからに年代物だ。「この辺一帯の空き家を紹介する〝空き家巡り〟という街づくりのイベントがあって、ボクもそこで現在の家に出会ったんです」。

レトロな書体で打ち付けられた「シンカイ金物店」の文字から分かるように、小林さんが白羽の矢を立てたのは、かつて金物屋だった築100余年の物件。恐らく会計スペースだったのだろうカウンターや商品棚と、部屋には当時の面影がそのまま息づいている。「何よりの決め手は、通っていた大学から近かったこと。いつも遊んでいた仲間と『好きに集まれる秘密基地みたいな場所があったらいいね』なんて、ここに決めたんです」と小林さん。部屋に残されていた家具は、そのまま再利用。居心地のいい空間にするため、自分たちで壁を漆喰で塗り、「ちょっと味気なくない？」とカウンター脇のスペースには柱を打ち付けた。「左官なんて初めてのことだから、とりあえずやってみようというノリ。大学の友達に手伝ってもらったり、『何やっているんだろう？』と覗き込んできた近所の少年に手伝ってもらったりして、ようやく完成したんです」。

かつての空き家で若者が左官作業。噂が噂を呼び、気付けば大学の友人だけでなく、いろんな人が集う場所になった。「ソファもテーブルも、もらったり拾ってきたりと、ほとんどお金はかけていないんです」。

人が集まる場所には、自ずとモノも集まってくるのだろうか。友達同士のたまり場から始まり、いまでは誰もが自由に出入りできるフリースペースに。ここで生まれた人脈からイベントも開催、かつて空っぽだった家は、みんなの秘密基地に生まれ変わった。



1 引っ越し当初は当然、水道も電気も通っていなかった。金物屋だった頃の面影を残すカウンターには近所の木材屋さんからゆずり受けたという板を打ち付けて、ものを置けるスペースをプラス。水に強いニスを塗って仕上げた。

2 鴨居と天井のスペースには自ら黒板塗装を施し、みんなが好き好きに落書きできる空間に。ドライフラワーは大学の庭から枯れていた花を拾って作ったそうだ。天井をはがして梁をむき出しにし、S字フックを設置してぶら下げた。

3 コーヒーミルは「カリタ」のクラシックミルを愛用、豆は軽井沢の丸山珈琲でブレンドされたものがお気に入り。お邪魔している最中にも「お疲れさーん」と友人が顔を出し、挽き立てのコーヒーをすすりながら話しに花が咲く。

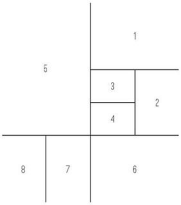
4 人が集まるとごくごく自然とランチタイムが始まる。ここに集う人たちのお気に入りがホットサンド。お手軽かつサンドする材料によって、作る人の“色”が出るとあって、イベントの際にも欠かせない定番メニューだそうだ。

5 拾ってきたコンクリートブロックを靴置きとしてリサイクル。つま先がうまい具合に空洞にハマり、真似したいアイディアだ。カウンターにさりげなく置かれたオイルランプは、ハーマン・ニャー社製のフュアーハンドランタン。

6 部屋にあるものの多くが誰かしらから、もらったモノだそう。ちょっとした小瓶が映えるのも木造の趣がそのまま残っているから。奥に見える商品ラックには集う人が自由に持って行けるようにイベントのフライヤーを入れている。

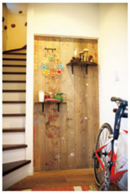
7 小林さんも同居人の白石さんも趣味は音楽とスケートボード。自然と共通の趣味を持った人たちが集まってくるため、「気付けば楽器やデッキの数が増えた」と話す。「ここに来れば遠慮なく楽器を鳴らせる」、そんなスペースになっている。

8 壁は漆喰を水で練り、コテを使って自分たちで塗った。レトロな看板は金物屋だった当時の名残だそうで、室内に残っていたのをオブジェとしてリユース。飾られたペイントアートは、ここに集う友人のひとりが描いたものだ。



築100年の木の温もりと、ボクらの自由が調和した空間。

ローテーブルは木箱に板をのせただけという簡単な作り。家具の多くがDIYやゆずり受けたものだが、築100年という木造建築になじむようステインオイルで木目を生き返らせて使用している。ちなみに本日のランチも、お馴染みのホットサンド。冷蔵庫にある食材を使って、誰かしらが自然と料理を始める。ここに集う人は自由に食事を作り、自由に本を読み、自由に楽器を鳴らし、みんなでフリーダムな空気を共有している。



ENTRANCE

エントランスを開くと迎えてくれるのが古材を再利用したディスプレイスペースだ。美容室の床材としてオーダーした古材はペンキ汚れがハイセンス。そこに真紀子さんセレクトの小物たちがズラリと並んでいる。

美容師
濱田 彰さん（33歳）
販売員
濱田 真紀子さん（33歳）
嵐山くん（4歳）
てらちゃん（1歳8カ月）

ROOM SPEC

千葉県市川市
エリア：下総中山
間取り：3LDK
居住年数：8カ月
住宅形態：一軒家（1F店舗）
築年数：8カ月（新築）

17

「右へ習え」じゃつまらない、すべてがマルチな一軒家。

「何年住んでも、飽きの来ない家を作りたかったんです」。濱田さんファミリーは、もともとお住まいだった一軒家をまるっと改築、何から何まで抜かりなし、世界でたったひとつのオリジナリティあふれる家を完成させた。

濱田さんのお宅の壁はグリーンにイエローにコーラルと、一面ずつ色が違う。目線を移すたびに違ったカラーが目に入るのだから、ひと口にポップと言ってしまうのはもったいない。「いちばん、こだわったのが壁だよね」とご夫妻が顔を見合わせて頷くとおり、キッチンの壁はタイル張り。おふたり自らがパターンとカラーの組み合わせをチョイスした、セミオーダーだ。

飽きの来ない家作りへのこだわりは、インテリアにも宿っている。リビングを明るく照らす照明のシェードはアンティークショップ「OLD FRIEND」で買い付けも担当する真紀子さんがセレクト。壁の色と同様、ひとつひとつ種類を変える徹底ぶり。

しかしデザインへのこだわりだけでなく、遊び心も忘れないのが濱田家流。大胆にもリビングのド真ん中にハンモックを設置した。また彰さんはお宅の1階で美容室を営んでいるが、2階の生活スペースに上がる階段の壁には、手すりの代わりにボルダリングのホールドを打ち付けた。息子の嵐山くんは、これを上手に上ってみせるというから、図らずも階段が、ちびっ子の遊び場も兼ねているというわけだ。

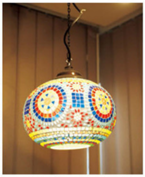
「白や木目で統一されたお部屋も、もちろんおしゃれ。でも、それではちょっと味気ないというか、画一的な感じがして」と彰さん。目線を移すごとに表情を変える壁やインテリアの数々は、ご夫妻の〝右へ習え〟しないキャラクターそのもの。自分の目利きとこだわりを信じて詰め込めば、家は住む人を映し出す鏡になるのだ。

カラフルに塗られた壁が部屋の表情を豊かに。

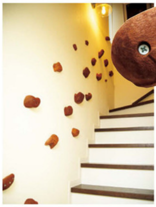
トイレは
5面
切り替え

ご夫妻こだわりの壁がこちら。トイレは壁だけでなく天井とドアも色を変えて塗装した。タイルは代々木をはじめ、各地にショールームを展開する名古屋モザイクに発注。エントランスの床も、おふたりがパターンとカラーの組み合わせをセレクト。キッチンの壁は「コラベル」、エントランスの床は着物の模様として描かれる「麻の葉」というパターン。

アンティーク調ランプでレトロな雰囲気も。



色違いのシェードも形を揃えれば違和感なくハマる。モザイクのランプシェードも真紀子さんが務めるオールドフレンドで扱う、「アミナコレクション」のもの。壁に設置したライトは後藤照明の電柱型ブラケットだ。



このテク いただき！

ボルダリングのホールドを手すり代わりに!

木製ホールドや自然素材のアクセサリーを扱う「VOCK」から大中小とサイズ違いで購入。鍵やククサのマグのストッカーとして使っているホールドは、特大サイズをオーダーメイドした。

Do It Yourself

レコードラックを壁のディスプレイスペースとして再利用。テレビボードはホームセンターで購入した板で、彰さんがハンドメイド。床材に使ったのと同じステインオイルを塗って仕上げた。

彰さんがオーナーを務める美容室「柿のキ」のプライスプレートは改築前のお部屋で使っていたスツールをリサイクルしたそう。脚を取り外し、鉄製のアルファベットパーツをビスで打ち付けた。

OTHER ROOM

庭を断念する代わりにベッドルームのある3階のベランダを広く取った。広さは4畳半、夏になったらここでバーベキューを楽しむ予定だ。壁が高く取られているので、ちびっ子にも安心。

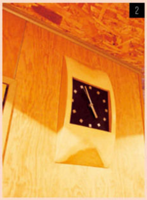
メインリビングに併設する形で、小上がりにゴロリと寝転がれる畳敷きの和室を設置。ここを囲む壁にえんじ色に近い深いコーラルを持ってくることで、和の要素もしっくりと調和する。

むーさん＆たっくんコンビが話題の「ayasakai」のお家大公開！

犬と子どもと、ときどきインテリア

子どもながら不思議な貫禄のある“たっくん”。親友であるフレンチブルドッグの“むーさん”。フォロワー数34万人を誇る、ayasakaiさんのインスタグラムでは、そんな仲良しコンビの日常が更新されています。彼らの微笑ましい写真を見ていると、気になったのが自宅のインテリア。何ともオシャレです。お気に入りの家具や雑貨のことを、ご本人に聞いてみました！

1. インスタグラムでたびたび登場する、たっくんとむーさんが仲良く寝そべっているドッグソファは「L.L.Bean」で購入した。**2.** 時計は、一時期よく通っていた「バーデンバーデン」のもの。**3.** モノトーンで揃えた椅子は、柳宗理デザインのエレファントスツール。



LIVING

～ログハウスのような空間に～

4. たっくんとむーさんがすっぽり入るボックスは「ラバーメイド」のブルート。家族でキャンプに行くということもあり、普段はキャンプ道具の収納として。**5.** リビングの床にはベージュのタイルカーペットが敷いてあり、木目の壁と馴染むカラーをセレクト。

8.9. 天井や壁の材木も自分たちで選ぶほど、木にはこだわった。ブラインドやインテリアも木製をセレクト。テレビボードは大阪のオリジナルデザイン家具屋「グラフ」で購入したもの。**10.** ソファのクッションは、フクロウを飼おうか悩んでいた時期に、旦那さまが買ってきたくれたそう。こちらは「サルボア ファウナ ピロー」のアイテム。

6. 大きなブランケットは「ペンドルトン」のチマヨスロー。ソファ用で購入したが、すっかりむーさんのお気に入りに。**7.** ブックシェルフは大阪にある家具屋「トラック ファニチャー」。リビングのテーブルも同ブランドで統一している。

14. キッチンツールのセレクトテーマは、"キャンプでも使えること"。鍋やフライパンもキャンプに持ち出せるよう「ストーブ」「ル・クルーゼ」などの鉄鍋に。「お家でも鉄鍋で豪快な料理をよく作ります。」とは本人談。

13. カトラリーや食器も木製を手にすることが多い。このトレーはブックシェルフと同じ「トラック ファニチャー」のもの。オリジナル家具や日用品、アウトドアグッズまで揃う同店は ayasakai さんの御用達だ。

11. ミルクパンを購入して ayasakai さんが夢中になった「エマリア」は、ポートランド生まれのホーロー雑貨のお店。キャンプ用のマグも「エマリア」を使用中。カラバリとサイズ展開が豊富なので、子ども用にも買い揃えているそう。**12.** 貰い物のコーヒードリッパーは備前焼。

KITCHEN

～お家とキャンプで兼用する～

15.16.「ロッジ」のコンボクッカーは、自宅とキャンプで兼用している鉄製のフライパン。**17.** テントはファミリーキャンプにピッタリな「スノーピーク」のランドロックを愛用中。**18.** キャンプでは、その醍醐味でもある焚き火で料理するので、鉄製の調理道具が欠かせない。

19. 本来は一輪挿し用として使われる木製のフラワーベースにはミモザを生けた。犬のオブジェはライオンの陶器で有名な「リサ・ローラン」の犬。**20.** リビングのコーナーに置いた大きめのウンベラータは、購入時 60cm くらいだったが、5 年間で 1m30cm まで育った。**21.22.** 植物のプランター選びにも、彼女流のルールがあり！ 大きなプランターは黒、小さなプランターはグレーや素焼きのものを選ぶと、ウッド調のお部屋にマッチするそう。

GREEN

～緑は絶やさず置いています～

LIFESTYLE WITH PLANTS

お部屋にグリーンを!!

植物の葉が足に触れる感覚、花の香りが家のどこからか漂ってくる感覚、部屋で自然に触れることで目が癒される感覚…。緑を室内に置くことで、五感を使って楽しめる部屋作りができる。文字どおり、毎日の暮らしに華を添える「LIFESTYLE WITH PLANTS」、始めてみませんか？

Photo ／ Keita Nakada

LIFESTYLE WITH PLANTS PART 1

グリーンコーディネーターのお部屋訪問。

エアプランツを育てる

人気の種類「チランジア イオナンタ」

他のエアプランツに比べ、乾燥に強く人気も高い種類。ストリクタ同様、水に浸ければよい。ガラスに入れて浮かせるのが好きだとう板垣さん。ただ、穴が小さく、世話をするのが大変。しっかり育てるのは意外と難しい。ガラスを使うのは上級者向け。

着生させて好みにカスタムできる「ラン」

胡蝶蘭の原種に近い植物で、こちらも着生植物。水分を含ませた水こけにつけると、根が巻き付いていく。板垣さんは、水こけに着生させコルクにつけ、容器に掛けている。適度な湿度を必要とするため、水に浸けるのではなく、2日に一度霧吹きする。

コルクに着生させた「チランジア ストリクタ」

木に着生していく植物。コルクに穴を空け、針金などで縛り付けておく。すると、細い根が張っていき、コルクに食い込んでいくという。自宅で行うことも可能で、着生させるためのワークショップもあるとか。週に一度程度、シンクに貯めた水に10分程浸ける。

お水だけで育てる

幻想的に水に浮かぶ「アガベ アテナータ」

通常は土に埋まった状態で売られているが、水に浸けても育つ。水に浸す際は、伸びている茎をハサミで切るか、根から引き抜いて土を水で流す。元の根は茶色で、水に浸けていると白い根が生えてくる。週に一度、水を変えればよい。

手をかけずに育てる

ほぼ世話をしなくて OK。多肉植物の「アガベ」

日陰に置かなければ、とくに何も気にせずとも育つそう。冬の間は水やりも必要がなく、全く手がかからない。夏は月に3回程の水やりを。冬以外は外に出しておいても平気で、月に数回の雨の水分でも十分育つ。忙しい人にオススメしたい植物だ。

どんな環境のお部屋でもしっかり育つ「シェフレラ」

環境に対す順応性が高い植物なので、日が入らないお部屋でもしっかり育つ。逆に直射日光があたるような場所でも大丈夫。寒さにも強く、3℃程度であれば枯れることがなく丈夫な植物。よく、「カポック」という名前で売られているが正式には「シェフレラ」。

オススメの鉢

自然に優しいプランターを使用中

自宅で使用するプランターは、「エコツールマーケット」で購入することが多いそう。板垣さんは、"プランターを土に埋めると、土に還る"という、なんともエコなアイテムを使用している。カラーリングも豊富で選びやすい。吊るす際に使えるレザーハンギングは、ディスプレイの方法に変化がでる。

便利アイテム

目の細かい霧が出る「ダイヤスプレー」

板垣さんオススメの水やり用スプレー。細かい霧が出るため、床につく前に気化する。そのため、床が濡れにくく、自宅での水やりに最適。プッシュ式ではなく、上部を押していれば霧が継続して水が出る。「ビオトープ ナーセリーズ」で購入できる。

造園やショップを営む「SOLSO」に勤める板垣さん。2カ月前に越してきたばかりというお部屋は、グリーンに溢れ、まるでお店のような空間だ。「自分で管理をしないまま、お客様に説明するのが不安だったんです。育ててみなければ分からないこともたくさんあると思って。だから自分のお店の植物が多いですね。もちろん、植物が大好きで、こんな空間で暮らしたかった、という理由もあります(笑)」。まさに"植物を育てるための空間"。お部屋には30～40種類の植物があり、種類によって水のやり方や日光の当て方も変え、管理しているそう。

立体的に植物を置くために取り付けた天上の大きなフレームは、自身で設置した。「以前、アパレルブランドのショップでこのように植物をディスプレイしていたのを覚えていて。いつか、やりたいと思っていました。中心にある大きな木は"ベンジャミン"といいます。大好きな木で、手に入る機会があった際に即決しました。大きな木は買うのに勇気がいると思うんですが、直感が大事だと思います。また植物は購入して終わりではなくて、自分の生活の一部になり、愛着が湧くと思うので、いろいろな植物に挑戦してほしいです」。

SOLSO取締役 **板垣雄太**さん（30歳）

ROOM SPEC

間取り：1R+バルコニー（60m²）
居住年数：2カ月
物件形態：マンション

DIYとグリーンなお部屋。

PART 2
LIFESTYLE WITH PLANTS

1.「椅子は出会った時の直感で選んでます！ これはリサイクルショップ（笑）」。そう話すとおり、アンティークチェアが並ぶリビングダイニング。元々小部屋が4つあった古家特有の障壁を取り除き、たっぷりと光が差し込む広々空間に。**2.** 奥さんは毎年花を咲かせる植物が好みで、アリッサムやブラキカムと、そのセレクトは多年草が中心となっている。**3.** お手製のドライフラワーと、寒さにも比較的強いエアプランツが玄関でお出迎え。「飾り過ぎるのは雰囲気に合わないから自然体で」と、収納棚に入らない靴や DIY に使用するたくさんの工具は、古道具屋で買った木箱に入れ、見せる収納として活用している。**4.** 切り花として飾っていたバラを英字新聞で包装。吊るしてドライフラワーとして楽しむ。「基本的に長く楽しめる植物が好き」と話す、Kさんの考え方がこんなところにも。

5. レトロなモザイクタイルのキッチンも、もちろん DIY で手作りしたもの。グリーンを飾るアンティーク風なバケツに、結婚前に旅行先のトルコで買った古いランプと、キッチンは奥さんの好きなものが詰め込まれた"お気に入り空間"となっている。**6.** かすみ草、アナベル、ローズなど手作りのドライフラワーは、天井から吊るしてレイアウト。「買ってきたままを飾るのではなく、草花にも必ずひと手間を加えるのがポイントなんです」と奥さんが話すように、部屋中の至るところに手作りのドライフラワーが飾られていた。**7.** サボテン、グリーンネックレスといった多肉植物から、お気に入りのマーガレットなどさまざまな植物が玄関先を飾っている。**8.** ユーカリやコットンツリーなど、枝のように長い植物は、フラワーショップのようにブリキのバケツに直接入れた、アイディアの光るディスプレイだ。

9. セダムなどの比較的小さな草花は園芸店で購入したブロックの鉢にまとめている。広い庭先で視覚的に埋もれぬよう、ささやかな配慮がなされる。**10.** 広いリビングダイニングは、両サイドから光を取り込めるよう出窓にもひと工夫。カーテンを無くす代わりに内窓を設置することで見た目＆機能的にも満足な仕上がりに。部屋に植物が多いこともあって、自然光はしっかりと確保したいのだとか。この辺りにもグリーンと暮らすための工夫が感じられる。**11.** 雰囲気を崩さないよう、テレビは壁の上部にさりげなくディスプレイしている。室内で一番大きいベンジャミンの木は、リビングのシンボルツリーとして存在感を放つ。**12.** 部屋を入ってすぐのところ、特に目につく場所にはお気に入りのブラキカムとヘデラが飾られている。この植物は一番のお気に入りなんだとか。

「ほぼ手作りです（笑）」。古家を２年でお洒落古民家へ。

都心から約1時間。築40年を超える古家を「構造以外は手作りでリフォームしました」と話すKさんご夫妻。地元の住み慣れた地域で4年間眠っていた古家を下見した際「なんとかなるかも！」と思い、リフォームをはじめたのがきっかけ。ベースはプロに依頼したが、「自分たちでできるかも？」と思ったところはすべて手作り。家作りをスタートする以前から古いものが好きだと話す奥さんの希望もあって、古家を活かした古民家カフェ風に仕上げた。「始めは見よう見まねでした」と話す旦那さんも、今では「意外にできるもんですよ、建て付けは余り良くありませんが（笑）」と、インタビュー中話題に上がった内窓を指差して話してくれた。本を読んだり、ネットで検索しながら毎週ジョイフル（大型ホームセンター）に通うのは、DIYを生活の真ん中に置く、Kさんの楽しみ。DIYの範囲はインテリア、家具に限らず、植物や庭も同じように手作りだ。桃や栗、柿に杏と、庭にある落葉樹はそのままに、背の低い植物はここに越してきてからすべて本人で植えたのだそう。広い庭と自由度の高い持ち家。「あるものはできるだけ使いたい」、そう話すKさんのように、郊外の魅力を最大限に生かした素敵な家作りは、ぜひ参考にしたい。

会社員／服飾デザイナー
Kさん夫妻

ROOM SPEC
間取り：5LDK
居住年数：２年　住宅形態：１軒家

何に入れて、どこに飾る？
それが問題だ！

PART 3

グリーンディスプレイ、みんなのアイディア集

家具や雑貨と違い、植物は生き物。枯らしてガッカリすることもあるが、元気に育つ〝相棒〟を見るのはとても嬉しい。今回はそんな緑と上手に付き合っている人たちの、「なるほど！」なアイディアを紹介。おしゃれに飾ってやれば〝あいつ〟もきっと喜ぶはず。

Photo ／ Takamasa Sasai,Chie Kushibiki,Shouta Kikuchi

13 ROOM23.HARASE

14 ROOM10.IRISAWA

7 ROOM8.KAJIWARA

5 Nui.HOSTEL& BAR LOUNGE

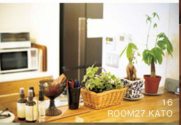
15 ROOM6.R.I

8 Nui.HOSTEL&BAR LOUNGE

6 OLGOU

2 ROOM22.IKEDA

ROOM30.KIKUCHI 1


16 ROOM27.KATO

9 ROOM1.YAMATO

ROOM24.SHIOMITSU 4

3 ROOM1.YAMATO

17 Nui.HOSTEL& BAR LOUNGE

11 Nui.HOSTEL&BAR LOUNGE

10 ROOM21.YAMANE

18 ROOM14.YAMAGUCHI

12 Nui.HOSTEL&BAR LOUNGE

What do you put in?

何に入れる?

大自然で使うアウトドアギア。もちろん、グリーンとの相性だって最高だ。

「どんなプランターや器に入れようか？」。植物を買うときからの楽しみのひとつで、「何を飾るか？」と同じくらい大切なことだ。ショップで買ってきたままの素敵な鉢でももちろんいいが、あえて自分色に染めるのだって悪くない。「4」の空き缶や「8」のブリキのバケツのように、アンティーク風の入れ物で楽しむ人が多いようだ。他にも「6」のように、サビなどで経年変化を楽しめる物と合わせて自分なりにアレンジしてみるのもオススメだ。また「2」のダイネックスのマグカップや「18」のザ・ノースフェイスの飯ごうなど、アウトドアギアを上手く活用したディスプレイはアウトドアフリークでなくともマネしてみたくなるユニークさ。鉢として売られているモノだけではなく、「ちょっと冒険してみるか」くらいの思い切ったプランターセレクトがちょうどいい。

Where do you hang?

どこに吊るす？

家に飾れないところなんてない！「吊るす」レイアウトで可能性無限大。

「鉢に植物を飾る」。この定番ディスプレイと同じくらいグリーンを魅力的に見せる方法がある。そう、「吊るす」だ。別になにも目新しいことなんてありませんが、「19」のような平面的な和室の壁にアクセントがてら、なんてモノから、「23」のような、ガラスケースに入れて育てるハンギングタイプのテラリウムまで、飾るものによってスタイルはさまざまだ。また、「吊るす」で代表的なドライフラワーなら、部屋の端から端までに麻ひもやロープで直線を作り、思いのままに飾ってみるのもいいだろう。「27」がいい例だが、「21」のように、トイレなら空間も狭く、日常生活に支障もきたさないので挑戦しやすい。ポイントは考え過ぎるより「ここへどうやって飾ろう？」と試行錯誤すること。そんな視点で家中を見渡せば、きっと良いひらめきが生まれるかもしれない。

19 ROOM23.HARASE

23 ROOM8.KAJIWARA

27 ROOM3.INOUE

20 ROOM17.HAMADA

24 ROOM5.MORIMOTO

21 ROOM3.INOUE

28 ROOM21.YAMANE

25 ROOM19.YOSHIDA

26 Nui.HOSTEL&BAR LOUNGE

22 ROOM10. IRISAWA

お部屋に置きたい
オススメグリーンカタログ。

BEST INDOOR PLANTS PART 4

これだけ見てきたら「我が部屋にもグリーンを!」と意欲がふつふつ沸いてきたハズ。ビジュアルにインパクトがあるものから、育てやすいものまで、お部屋で楽しめるグリーンたちを、白金台の人気グリーンショップ「ビオトープ ナーセリーズ」さんに聞いてきました。

Photo／Kenichi Sugimori Styling／Takashi Imayoshi
(問) ビオトープ ナーセリーズ ☎ 03-3444-2894 東京都港区白金台 4-6-44

PLATYCERIUM BIFURCATUM

コウモリラン

着生シダの一種で、鹿の角のような葉が特徴的。高温多湿を好む植物のため、育てる時は直射日光が当たる場所は避けたい。春、夏、秋は水をたっぷりと、冬は完全に乾いたら与えるように心掛けて。

¥15000

EUPHORBIA TIRUCALLI

ミルクブッシュ

季節を問わず、日当りの良い場所で育ててあげるのがグッド。多湿に弱い性質を持つため、水のあげすぎには注意して。真冬は月に1回程度の水やりで越冬できる。ちなみに名前の由来は、葉を切るとミルク色の葉腋が出ることから。

¥2000

TILLANDSIA CACTICOLA

チランジア カクティコラ

樹木ばかりではなく、サボテンの上にも着生する珍しいエアプランツ。葉の部分はざらつきがあり、先端は非常に鋭いのが特徴だ。紫がかったパステルピンクの苞から、先端にブルーのスポットが入る純白の花を咲かせる。

¥20000

OPUNTIA SP

オプンチア

オプンチア属の交配種で、大きくて鋭いトゲが特徴。力強いフォルムなうえ、とても丈夫。繁殖力が強く、寒暖差にも強い。月に1回程度の水やりで良いので、初心者でも育てやすい。風通しと日当りが良いところに置こう。

¥6000

TILLANDSIA TECTORUM

チランジア テクトラム

エアプランツの中でも代表的な種類。乾燥に強く、栽培が簡単といわれている。ふさふさのトリコームに覆われたエアプランツで、この白い毛に水分を保持している。ガラスボールに入れて吊るすとオシャレなインテリアに。

¥3000

SCHEFFLERA SP. 'CHIBISUKE'

シェフレラ チビスケ

初心者にオススメしたい植物。室内ではエアコンの風があたらない、日光がよく入る場所に置いて。水やりは底穴から流れるくらいたっぷりとあげよう。そのあと、土が乾くまでしっかり待つ。メリハリのある水やりで、しっかり育つ。

¥6000

CATERPILLAR CACTUS

毛虫サボテン

見た目のインパクトは抜群。成長にするに連れ、這ったり垂れ下がったり、何かにもたれかかる形状のサボテンを「ひもサボテン」という。外見上の園芸的な呼び方で、種類はさまざま。「毛虫サボテン」は柔らかい毛が特徴的。

¥7500

TILLANDSIA TRICOLOR

チランジア トリコロール

３色の花がなることから、この名がつけられた。プラスチックのような硬い葉を持ち、日光の下では赤く色付く。高温、多湿、日光に耐えられるタフなエアプランツで、水をたっぷり与えれば、比較的カンタンに育てられる。

¥1160

CEREUS PERUVIANUS

セレウス サボテン

電磁波を吸収する性質があり、「電磁波サボテン」ともいわれている。テレビの前などに置いておくと目の疲れや頭痛に効果がある、んだとか。寒さに弱く、低温だと赤くなってしまうので冬は暖かいところに置いてあげよう。

¥900

AN EMPTY CAN CACTUS

空きカンサボテン

オリジナルのサボテン。アンティークの空きカンを使用しており、種類がすべて異なる。育て方は通常のサボテンと同じ。日当り良い場所で月に１回の水やりでOK。インテリアとしても最適な、世界にひとつだけのアイテム。

¥2300

EUPHORBIA SUSANNAE

ユーフォルビア スザンナエ

サボテンを枯らしてしまった経験のある人でも安心。丈夫な品種で、水をやり過ぎなければしっかり育つ。トゲは柔らかく、先から小さな花を咲かせることもある。子株が増えていき、形が変化するので観葉植物として楽しめる。

¥2500

AEONIUM CRISTATA

アエオニウム綴化

綴化とは、個体変異や細胞分裂を行う部分の異常によって、茎の先端が帯状に繋がることをいう。そのため、このような神秘的なビジュアルとなる。暗い場所での管理は、徒長の原因に。日当りの良い場所でたっぷりの水を与えて。

¥5000

ゲストハウス／カフェ／アンティークショップ

身も心もホッと落ち着くあの場所に くつろぎ空間の作り方を学ぶ。

その空間に魅せられて人が集まる場所には、やはり理由がある。世界中の人々が集うゲストハウス、アイディアでモノを美しくディスプレイするショップ、ポートランドにインスパイアされたカフェ。都内にある３つの場所には、思わず訪れたくなる、心地良い空間作りの秘訣が隠れていた。そのアイディアとテクニックを、自分のお部屋作りに拝借。

Photo ／ Takamasa Sasai

ゲストハウス 東京・蔵前

人が訪れたくなる空間。そこには作り手の工夫が詰まっている。

Nui. HOSTEL&BAR LOUNGE

ヌイ ホステル＆バーラウンジ

「東京のブルックリン」とさまざまなメディアで称される話題の蔵前エリア。その隅田川沿いにあるのが、ゲストハウス「Ｎｕｉ． HOSTEL&BAR LOUNGE」だ。宿泊客以外でも利用できる1階ラウンジの前面はガラス張りで、開放感のある空間が広がる。また2階から上はホステルとなっており、相部屋形式のドミトリーなら1名1泊2700円〜とお手頃価格で泊まれる。バックパッカーはもちろん、日本中、世界中から利用者が押し寄せる。

「ラウンジ部分のデザインイメージは〝北の大自然〟です。バーとフードのカウンターは北海道・ニセコの木を使い、トイレは山小屋風の造りになっています。またテーブルや椅子の一部は、ツリーハウスなどを手掛けている大工さんのハンドメイドです。改装を手掛けてくれた職人さんの中には鉄の加工を行っている方もいて、木と鉄を効果的に融合した家具もあります。職人さんの個性が活かされた空間となっています」。

朝は、宿泊客が朝食をとり、夜はお酒を楽しみ…と、ラウンジは、一日中、人で賑わう。「昼はカフェ、夜はバーと、ラウンジスペースは、ホステルの宿泊ゲスト以外のお客さまにも気軽にお越し頂けるようになっています。また国籍、性別、年齢を問わず、日本人や外国人、いろんな方が交流できるオープンな空間となっています」。たしかに、ラウンジは人が流動的に動けるように座席数を少なくするなどの配慮も見られる。またスタンディングで会話を楽しむ人が多く、お客さん同士の会話も弾みやすい。さらに4人掛けのテーブルは、他のお客さんが途中からでも混ざれるよう大きめにするなど、仕掛けが盛りだくさん。〝そこにいけば何かがある〟。そんなことを思わせる魅力が「Ｎｕｉ．」にはある。お客さん同士が自然に交われる雰囲気も、人が集まる魅力のひとつかもしれない。

PICK UP!! くつろぎ空間を作るインテリアとアイディア

窓際では湿地などに自生する「トクサ」を栽培。水を多めに必要とする植物なので、水はけ用の配水管も設置。照明は名古屋の「STORE IN FACTORY」で購入したアメリカ製だ。

フードカウンターの上の棚は、水道の鉄管を加工して作られたもの。鉄管を骨組みにして、木の板で繋いでいる。棚の端からは蛇口を見せるなど、職人さんの遊び心もたっぷりだ。

フードカウンターの脚と同様に、水道の鉄管を脚に使用。円形や四角などさまざまな形のテーブルが置かれている店内。机の形に変化をもたせることも、飽きない空間作りだ。

寒い地域の山小屋をイメージしたトイレ。本物の山小屋のような深みのあるたたずまいは、木材に数種類の塗料を使用して再現。扉の内側には、職人さんの名前が刻まれている。

ラウンジを製作する前のイメージイラストが飾られた額も、職人さんによるハンドメイドの一品。自宅で空間作りをする際、このように頭の中のイメージを絵にしてみるのも◎。

テーブルは職人さんの手作りで、天板が５角形、脚は星形になっている珍しいデザイン。はっきりした木目が美しい。自宅で再現するなら、オイルステインを使うのがオススメ。

ラウンジ中心の階段には、三つ又の大木とカウンターがある。階段をまたぐように作ったカウンターは、上段と下段にいるお客さん同士が話しやすいような作りとなっている。

カフェで提供されているコーヒーは、世田谷は奥沢にあるコーヒーショップ「オニバスコーヒー」が監修している。コーヒーの豆は透明の容器に入れて、カウンターにディスプレイ。

ホームセンターでも販売されている材料で作られた、手作りのオリジナルバイクスタンド。見た目以上に簡単に作ることができるため、自宅用としてセルフで作っている人も多い。

スタンド式の照明は、グリーンをディスプレイ。アンティーク調の容器にエアプランツを入れ、赤色が映える植物を巻き付けた。自宅のシンプルな照明に手を加えてみるのもアリ。

SHOP DATE

東京都台東区蔵前 2-14-13
tel：03-6240-9854
営：9：00～23：００〈カフェ〉
18：00～26：00〈バー〉（25：00 L.O.）
休：無休
URL：backpackersjapan.co.jp/nui/

LET'S DIY 自宅でできるお手本サンプル

入り口に置かれた灰皿は、コーヒーの出がらしを使ったもの。椅子の上に、小さなバケツを置き出がらしを入れるだけ。タバコを消す度にふわっとコーヒー豆が香ばしく香る。

木製の箱に荒い麻の生地、ドライフラワーを置いたインテリア。コンセント付近に置いて、コードを生地の下に収納して目隠しにする。コード隠しをインテリアにしてしまうワザ！

コードは１カ所に集めて、収納ボックスで目隠し。側面に小窓を作り、コードの通り道を製作した。店内の雑貨には古道具も多数。栃木の「SCALES APARTMENT」もよく行くお店のひとつ。

OLGOUで購入できる、収納にもインテリアにも使えるボックス。（左から）US TOOL CASE (VINTAGE) ¥7800、PAINTING CAN（MADE IN JAPAN）¥1800、US MILITARY BOX（USED）¥7800、US WIRE BOX（VINTAGE）¥12000、ITALY STEEL CASE（DEAD STOCK）¥7200、US WIRE BOX（VINTAGE）¥9000

モノが多くても窮屈さを感じさせない
“掛け”と“編み”のディスプレイ術

アンティークショップ　東京・中目黒

OLGOU

オルゴー

今年の3月で8年目となる、中目黒の「OLGOU」は、夫婦で営むヴィンテージショップ。アメリカやヨーロッパで買い付けるヴィンテージの洋服、雑貨、食器などを中心に扱う。1階は洋服がメイン、2階には雑貨と食器が並び、セレクトはすべて、ご夫婦で行っているそう。「ヴィンテージのモノが好きな方でも、30代になると、古着屋さんや雑貨屋さんを回ってアイテムを探す時間がなくなると思います。そういう方でも足を運んでもらえるように、自分たちが生活で必要なモノを基準として、古着以外に雑貨なども多く取り扱っています。大きさや使い勝手も重視して、実用性のあるモノを意識してセレクトしました」

所狭しと膨大な量のアイテムが並んでいるが、不思議と窮屈さや見づらさは感じない。そこには商品の良さを引き立てるディスプレイの工夫が多く見られる。「ディスプレイイメージは買い付けのときに訪れる、フランスやベルギーの古着屋さん、家具屋さんを参考にしています。ボックスの置き方などもきっちりしすぎない、アットホームな雰囲気が好きで、自分のお店でも再現したいと思いました。それで、ボックスを使ったディスプレイを多く使用しています。いろいろな種類を混在させるのも面白いですよね」

お店の内装や雰囲気は少しずつ変化している。以前は木目を生かした、ヴィンテージ調を全面に出していた。「白を入れて明るくしようと思い、今年に入って棚板を白くしました。その時の気分や思い描くイメージで、店内は少しずつ変わっていくと思います」。本当に好きなモノの良さを、足を運んでくれるお客様にも伝えたい。そんな店主の想いに時々に感じるインスピレーションが加わることで、いつの時代でも足を運びたくなる空間が生まれていた。

S字フックを使い倒して
掛けて掛けて掛けまくる！

店内にはS字フックを使ったディスプレイが多数。S字フックはヴィンテージのものから100円ショップのものまで、実にさまざま。**1.**S字フックを繋ぎ合わせて、段差を生み出す。奥行きのあるスペース使いがディスプレイを単調に見せないコツ。**2.** 自宅でも収納に困るベルトも、S字フックで掛ければOK。**3.** 靴を“吊るす”という、斬新なアイディア。空間も有効活用でき、ディスプレイとしても楽しめて一石二鳥。**4.** クリップ付きも使い勝手が良い。**5.** 長いS字は100円ショップで購入した、ヴィンテージ風。

5

2

1

4

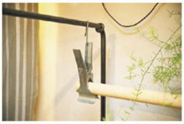
3

廃材の鉄網で躯体の柱をハンガーラックに

天井の空間をうまく利用して、帽子やハンガーを収納。こちらは大工さんの案で製作された。一軒家解体時に出た廃材である下地用鉄網やベランダの柵を再利用した。ベランダの柵はネジ付きのS字フックを天井に刺して吊している。鉄網は、壁に釘を刺して掛けているだけ。

釘もビスも使わないフック×クリップのハンガーラック

クリップと木製のスティックを組み合わせたラック。既存のラックを両端に置き、フック付きのクリップを吊るし、スティックを挟めばU字のラックが出来上がる。直径4cmほどのスティックで150cm幅、20着程収納できる。必要ない時は撤去が簡単なことも嬉しいポイント。



SHOP DATE

東京都目黒区上目黒 1-10-6 100
tel：03-3463-0509
営：13：00～22：00（1F）
15：00～20：00（2F）
休：なし（年末年始休）（1F）
不定休（2F）

ポートランドのインテリアが
下町のほっこりカフェ

カフェ　東京・蔵前

iriya plus café

イリヤプラスカフェ＠カスタム倉庫

２階建ての古い木造倉庫を改造して作られた店内。実はこの内装、デザイナーに依頼せず、オーナーが自らデザインしたものだそう。入谷にある1号店は一軒家をリフォーム、この２号店は、倉庫の良さや匂いが残る空間作りを目指した。「リノベーションの最中は毎日立ち会って、細かい点も工務店の方や大工さんと相談しながら進めて行きました。外壁を活かすために、自分で業務用シャワーで壁全体を洗ったり、床や天井のペンキを塗ったり、フックを取り付けたり。業者さんの力をお借りしつつ、まさに手作りで出来上がったお店です」。

オーナーはニューヨークに２年ほど住んでいた経験を持つ。当時の日課であったカフェ巡りのときに衝撃を受けたブルックリンのカフェをオマージュし、このカフェを作っていった。また帰国後はポートランドに数回訪れ、この街のカフェも参考にしたという。「家具や雑貨の買い付けも、ポートランドで行いました。50〜60年代のヴィンテージが中心ですが、椅子やテーブル、照明をすべて変えるなど、あまりひとつのイメージで作り込みすぎず、変化を楽しめるインテリア選びを意識しています。またオープンして約1年半のお店ですが、すでに何度かレイアウトも変えました。ライフスタイルの変化に伴って、インテリアや、空間の好みも少しずつ変化していくものだと思うんです。ずーっと同じモノが好き！なんて本当に!?って思っちゃう（笑）。モノに対するこだわりはあっても、変化には柔軟に対応していきたいですよね」。

何より、コーヒーも1杯３００円とリーズナブルなのが嬉しい。「地元の人にふらっと立ち寄ってもらいたいと思って。店内はラフな雰囲気に、価格設定は低めにしたんですよ」。

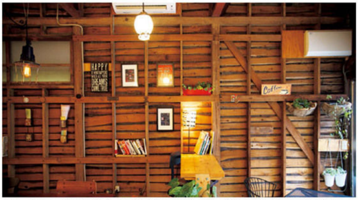
PICK UP!! くつろぎ空間を作るインテリアとアイディア

カッティングエッジな内装を持ちながら、お客さんとの距離感が近く、フレンドリーな雰囲気が漂うのもブルックリンやポートランドのカフェの魅力だ。内装だけでなく、そのような距離感の保ち方もお店作りの際に参考にした。そのため、お客様に閉鎖感を感じさせず、そして気軽に話しかけられ、会話を楽しめるオープンなカウンター作りを目指した。

電球の周りを写真のフィルムで囲んだユーモラスな照明。古道具屋なのどでたまに見かける写真フィルムさえあれば、ハリガネで繋ぎ合わせて、自分でも作ることが可能。

壁に掛けられたマガジンラックは国内で買い付けたモノ。デッドスペースになりがちな壁を有効利用できるうえ、フラットな壁面に凹凸を付けることで印象に変化を持たせる役割も。

カギをモチーフにしたのスプーン掛けは、ポートランドのブティックで購入。調味料入れやアンティーク風の電話もポートランドのインテリアショップで購入したものだ。



グリーンや本、額などがディスプレイされた店内の壁。外壁のモルタルの質感を活かしたかったそうで、あえていびつなラインを持つ木材で内壁を製作した。そのために、オーナー自身で外壁の汚れをエアで吹き飛ばし、キレイに仕上げるほどのこだわりぶりだ。同じく床もコンクリートを厚く打ち直したあと、自身でコンクリート用シーラーを塗り重ねた。

天井から吊るされた帽子用のラックは、インテリア家具専門店「温故知新」のオリジナルデザイン。鎌倉のショップでひと目惚れしたそう。ネットの通販でも買うことができる。

フロアランプにはすべて種類が異なるランプが用いられ、それらが等間隔で設置されている。この配列方法やアイテムセレクトも、アメリカのカフェを参考にしたそうだ。

間近で見ると、その大きさに驚く時計がふたつ。エントランス正面に位置するカウンターのため、入った際にまず目に飛び込む大きなインテリアを飾りたかったそうだ。

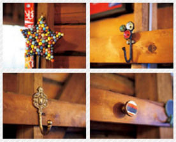
OSB 合板の壁に取り付けられた、ヴィンテージのボタン箱らしき升目の細かなボックス。こちらもポートランドのアンティークショップで購入したひと目惚れ品だ。ローカルビジネスをサポートしようという地元愛が強いポートランドでは、個人経営のアンティークショップが多いそう。そのため行くたびに一期一会の出会いがあり、何度行っても飽きないという。

66

東京都台東区寿 4-7-11
tel：03-5830-3863
営：11：00～20：00
（日曜、祝日のみ 19：00 まで）
休：月曜（祝日の場合は翌日火曜）
URL：www.imadoworks.com/iriyaplus/index.html

LET'S DIY 自宅でできるお手本サンプル

アンティークの調味料入れが並ぶ後ろの壁には、OSB 合板を貼り付けた。木材チップを接着剤で固めたモノで、ホームセンターなどで手に入る。床に敷くだけでも雰囲気◎。



洋服掛け用のフックは、ほとんどポートランドで買い付けた。フックひとつをとっても、自分でデコレーションしてみると面白い。ステッカーや小物で簡単にアレンジ可。

サンフランシスコ現代美術館で買った鏡。空き缶を鏡の縁に釘で打ち付けてある。最後に表面をビニールテープなどでコーティング。材料が揃えばお家でも再現できる。

WORK DESK

ベッドリネンはオレゴン州で140年以上もの歴史を誇るウール・メーカー、ペンドルトン社製。僕らにも馴染みのあるブランドのアイテムがこんなところに使われているのは驚きだ。ローカルファースト（地域を最優先）の精神はこんな細部にまで宿っている。すべてにおいて地産地消が良いワケではないが、たかがベッドリネン、されどベッドリネン。ひとつ自分なりにこだわってセレクトしてみるのも面白い。

絶妙なバランス感覚を纏う空間作り。

HOTEL

…、自分のものさしでセレクトした“カッコイイ”を、時代感に合わせてレイアウスホテルの素敵な空間作りを参考に、僕たちの理想のインテリアを考えてみる。

BATH ROOM

THE INTERIOR OF ACE HOTEL

AT THE WINDOW

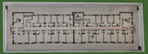
NATURAL HAND SOAP

ORGANIC GOWN

エースホテルって一体なんだ？

昨年はロンドンに、今年はLAにもオープンし、今ではクリエイティブな街、オレゴン州・ポートランドのアイコン的存在となったエースホテル。それまでの高級ホテルとは一線を画す、独創的で時代感にマッチしたブティック感覚こそ、このホテル最大の魅力だ。ポートランドのエースホテルは、約90年前に建てられた老舗ホテルを再利用して作られている。これまでのデザイナーズホテルのように、スクラップ＆ビルドで作られたラグジュアリーな空間でもなければ、かといって、老舗然としたこれ見よがしな古いアピールとも違う。空間やそこでの生活自体に豊かさがもたらされるよう考え尽くされ、手が加えられている。そんな高級ホテル業界に一石を投じる“新星”は、高感度なクリエイターや一部メディアの間で瞬く間に話題となり、現在では次世代デザイナーズホテルのモデルとして注目を集めているのだ。

SIGN



案内板やドアプレートにまで、とにかくエースホテルは“サイン”にこだわりを感じる。インテリアというと、まず家具の色や雑貨に目が行きがちだが、こういう小さなところで案外センスが出るんだなぁと実感させられる。ホームセンターでも意外に素敵なものが見つかるので探してみるのもオススメ。

WASH STAND

身の丈で考える空間作り。

ミッドセンチュリーの高級家具を買い揃えれば、インテリアだってサマになるのは当然だ。でも、ここでエースホテルの空間作りがなぜ注目されているのかを語るには、考え方や良いと思うものさしが非常に大切。地域のモノをその地域で消費する地産地消を軸に作られたエースホテルは、施行の材料ひとつから、壁に飾るアートワークまで基本的に現地調達なのだ。それは自分の家から一番近いスーパーで買ってくるということではなく、「いまある環境で一番最適なことは？」「自分（仲間）でできるか？」など、自分の身の丈にあった考え方で空間を作ることだと思う。「机は自分で作ってみよう」「友人に絵描きがいるから、絵を譲ってもらおう」「捨てると言っていた両親のチェストを再利用してみよう」など、身の丈と言ってもいろいろだが、こうして作り上げた理想の部屋にはきっと見た目以上の素敵さがあるはずだ。

PLANTS

BED SIDE

カッティングエッジだけど力まない。

THE INTERIOR OF ACE

軍モノのトランク、ヴィンテージのグラス、地元で一番ホットなアーティストの絵トする感覚をここは知っている。話題の街、ポートランドのアイコンとも言えるエー

WELCOME

ウエルカムドリンクの入れ物にもアイディアがひとつ。ヴィンテージデスクの引き出しの取っ手を外して、こんなところに再利用しているとは驚きものだ。クローゼットや洋ダンスで粗大ごみに出す際は、引き出しだけでも残しておくと収納ボックスとして重宝しそう。

こちらはエースホテルのスーベニアコーナー。「本当に売っているのか？」と思うほど、お店のレイアウトには見えないナチュラルさ。雑多に集められたラインナップはお土産コーナーならでは。本当にこんなクローゼットがお部屋にあるかのように見せる、自然体を意識したセンスはさすがだ。古い鉄製のロッカーを什器として再利用したディスプレイは、インテリアの収納テクとして見習いたい。

GO OUT LIVIN'

GOOD TOOLS

for living your life.

暮らしを快適にする道具たち。

毎日使うものだからこそ、本当に好きなモノを使いたい。限りあるスペースに置く家具やオブジェだからこそ、セレクトに妥協はしたくない。キッチン雑貨や食器から、部屋を彩るオブジェまで、日々の暮らしに馴染み、そして豊かにしてくれるツール＆雑貨をご紹介。

Photo ／ Kenichi Sugimori　Styling ／ Takashi Imayoshi

01 tools　STUSSY LIVIN' GENERAL STORE

Keep it Clip

何気ない小物やキッチンツールが気の利いたデザインだったら、ちょっと毎日が楽しくなりそう。この「ステューシー リビン ジェネラル ストア」のクリップもそんな小物のひとつ。プラスチックの質感とポップなカラーリングに遊び心を散りばめながら、使い勝手はしっかり計算された手頃なサイズ感が◎。

各 ¥500（ステューシー ジャパン）SIZE：W152 × D25 × H65mm

03 tools　BIG SPOON ROASTERS

PEANUT COCOA BUTTER
PEANUT BUTTER
CHAI SPICE NUT BUTTER

同ブランド発祥の地であるアメリカ・ノースカロライナ州の厳選素材を用い、ハンドメイドで生産されるナッツペースト。ブランド名につけられた「BIG SPOON!!」は「いっぱいすくって！」と、創業者が子どもの頃におねだりしていた言葉からだとか。甘さ控えめな大人の味で、朝食にピッタリです。

（左）¥2400、（中）¥1900、（右）¥12400（すべてグッド ネイバーズ ファイン フーズ）
SIZE：φ 7.4 × H9.7mm ／ 226g

02 tools　ESPRESSO PARTS

CUP&SAUCER BLACK AND WHITE CAFE STYLE CAPPUCCINO
CUP& SAUCER BROWN AND WHITE CAFE STYLE DEMITASSE

ブルーボトルコーヒーやフォーバレルコーヒーなど、いわゆるサードウェーブ系のコーヒーショップでもよく目にする「エスプレッソ パーツ」のカップ。厚みのあるカップは、熱が肌に伝わりにくく、手にも唇にも優しい。エスプレッソ好きなら、ぜひ手に入れたい逸品。

（左）¥2200、（右）¥2500（ともにコネクト）

05 tools　PUEBCO

INDUSTRIAL MITTEN

料理好きなら鍋掴みとして、ガーデニング好きなら作業用グローブとして、さまざまな用途で使用できる「プエブコ」の綿 100％ミトン。軍手のようなシンプルなフォルムに、かすれたプリント、袖口のパイピング仕様と男心をくすぐるディテールデザインがグッド。

各 ¥1200（ともにプエブコ）
SIZE：（L） W225 × H320mm、
（M） W205 × H300mm

04 tools　STUDIO KHII

PLYWOOD TRAY

木造建築物の骨組みなどに使われる構造材や下地材などを用いた、ユニークなインテリアプロダクトが特徴の「スタジオキイ」。こちらのトレイは間伐材を使用したプライウッドから制作したもの。しみや汚れを防ぐため、水溶性のウレタン塗料でコーティングされているのが嬉しい。

（S）¥3500、（L）¥5000（ともにプレイマウンテン）
SIZE：（S） W280 × D200 × H180mm、
（L） W360 × D280 × H180mm

06 tools　FD STYLE

WINE OPENER
BOTTLE OPENER
OROSHI
YAKUMI OROSHI
CAN OPENER
PEELER

錆びることなく手入れも簡単。そして何よりスタイリッシュ。「FD STYLE」のキッチンツールシリーズこそ、台所に立つことの多い男性にオススメしたい一品だ。ステンレスにフッ素加工のマットな仕上がりには、和のテイストも感じられる。2009 年にグッドデザイン賞を受賞。

（左から）¥2200、¥2700、¥2500、
¥2500、¥1500、¥8000
（すべて FD ONLINE STORE）

07 tools

COMPLEX UNIVERSAL FURNITURE SUPPLY

COLOR BLOCKED
BAGUETTE BOARD

フィラデルフィアを拠点に活動するデザイナー、ロバート・トゥルー・オグデンが手掛けたカッティングボード。木材は食器などに使用されるシカモア、色付けにはミルクペイントを使用した。キッチンの隅に掛けておくだけで、目を引くオブジェになる。3サイズ展開。

（M）¥19000、（XL）¥25000（ともにコンプレックス）
SIZE：（M）W505 × D180 × T20mm、
（XL）W860 × D180 × T20mm

08 tools

CROW CANYON HOME

Marble Enamelware Salt & Pepper Shakers D55

マグカップのように大きなグリップを持つホーロー製の塩・コショウケース。食卓に置けばまるでオブジェのように、キャンプやバーベキューで行方不明になりがちなシチュエーションではしっかりと存在感を放つ。塩・こしょうは上部の穴数で判別がつけられる。

各 ¥3700（ともにヌーク ストア）

09 tools

RED ROOSTER TRADING COMPANY

Camano Coffee Mill

アメリカ生まれの手動コーヒーミル。ボール社のメイソンジャーに合うよう、ウォールナットの蓋を製作。グラインドした豆を瓶にそのまま保持できる、保存用の瓶要らずな優れものだ。サードウェーブコーヒーの波に乗って、コーヒーもこだわりの1杯を楽しみたい。

¥12500（ザ テイストメイカーズ アンド コー）
SIZE：φ 100 × H225mm

10 tools

STAUB

Saucepan
Mini fry pan

ピコ・ココットで有名な「ストーブ」のミニシリーズ。オーブン料理などをそのまま食卓に出せるサイズ感で、使い勝手は申し分なし。同ブランドの代名詞である鋳物ホーローは、食材の酸に強く、長時間使用しても臭い移りがしないので、どんな料理も気にせず作れる。

（左）¥20000、（右）¥8000（ともにヌーク ストア）
SIZE：（左）φ 100 × H110mm ／ 1.2l、
（右）φ 120mm ／ 0.1l

13 tools

ROBERT HERDER

Windmuehlenmesser
Bread knife
Table Multi knife

刃物の街として有名なドイツのゾーリンゲンで生まれた、万能ナイフとブレッドナイフ。薄い刃身に通常より鋭角な刃が装着され、鋭い切れ味が長く持続する。万能ナイフはオールドジャーマンナイフと呼ばれる独自の形状。自宅での使用はもちろん、キャンプにもうってつけだ。

（左）¥9400、（右）¥3500
（ともにリビング・モティーフ）
SIZE：（左）W20 × L230mm ／刃渡り 120mm、
（右）W23 × L310mm ／刃渡り 200mm

12 tools

JOSE GOURMET

MACKEREL FILLETS IN OLIVE OIL
VENTRUSCA 'TUNA' IN OLIVE

思わずジャケ買いしたくなる、ポルトガルのフードブランド「ホセ グルメ」の缶詰。商品を手に取るきっかけになればと、缶詰の種類ごとにアーティストを変えてパッケージをデザインしている。地元で採れた上質なオリーブオイルに漬け込まれ、味も香りも抜群。

（上）¥1100、（下）¥2400
（ともにザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：（上）125g、（下）120g

OPEN!!

11 tools

ROSE BAKERY

HOW TO BOIL AN EGG
BREAKFAST LUNCH TEA

パリで大人気のデリ・カフェ「ローズ ベーカリー」のレシピ本。1冊目となる「BREAKFAST LUNCH TEA」は、野菜を中心とした自然食をメインに、2冊目の「HOW TO BOIL AN EGG」は卵料理をテーマに構成。ボタニカルアーティストによる挿画や、美しいビジュアルに注目。

（左）¥2400、（右）¥3000（ともにビブリオファイル）
SIZE：W196 × H274 × T23mm

TO EAT IS TO LIVE

食べることは生きること。
食にまつわるグッドツールたち。

PLAY!! CRAFT

自分で作って楽しむ？
手仕事プロダクトをたしなむ？

14 tools

BOLTS HARDWARE STORE

SIGN PLATE TYPE 2

あらゆる空間に馴染みやすい、色とサイズ感。昔ながらの彫刻機で作られたアクリル樹脂板サインプレートだ。文字が立体的に見えるのが特徴で、裏面は両面テープ付き。そのため、マスキングテープの上から取り付ければ、賃貸のおウチでもカンタンに原状回復が可能。

各¥1800（ボルツ ハードウェア ストア）
SIZE : W113 × H24 × T3mm

15 tools

GRAMERCY TOOLS

Boat Nails
King Country Cabinetmaker's Hammer Small
Dovetail Saw

ブルックリン発の木工細工用工具メーカー「グラマシーツールス」が日本上陸。研磨やヤスリかけなど、高度な技術こそ手作業にこだわり、熟練した職人たちがひとつひとつハンドメイドで作り出す。特に代表的なプロダクトであるノコギリとハンマーは必見。

（左）¥1600、（中）¥20000、（右）¥21000（すべてネペンテス）

16 tools

COMPLEX UNIVERSAL FURNITURE SUPPLY

EDISON BULB

100年以上も前にエジソンが発明した世界初の電球のレプリカ版。職人による丹念な真空製法特殊加工で作られているため、一般の電球と違って、触れてもやけどをしないランプ構造となっている。心に染みるセピアな色合いが味わい深い。

各¥3000（コンプレックス）

17 tools

BOLTS HARDWARE STORE

曲げフック

小さな作業スペースで店主自らが制作する、セルフメイドプロダクト。曲げ方と使う素材の組み合わせがひとつひとつ違うため、さまざまなフックを生み出している。もちろん、同じものは基本的にないが、要望があれば特注サイズでの対応も可能だそう。

各¥286
（すべてボルツ ハードウェア ストア）

18 tools

COLORWORKS

Paint bucket set

ローラーや刷毛、マスキングテープなど、養生から塗装までを自宅でカンタンに行なえるペイントキット。デザイン的にイマイチになりがちなアイテムだが、バケットのプリントがファッショナブル。2000円台とお財布に優しいプライスなので、DIY初心者でも気軽に挑戦できる。

¥2980（カラーワークス）
SIZE : W340 × D200 × H230mm

19 tools

AIZARA

SwitchPlate Vis
SwitchPlate Visless

神戸の小さな鉄工所が発信する、黒皮鉄に特化したプロダクトブランド。黒皮鉄は部材や部位によって、蒼みがかったもの、ザラついたもの、滑らかなものと、実にさまざまな表情を持つ。そんな独特の風合いを持つ黒皮鉄に、着色を施さず素材感を生かしたプロダクトを展開している。

（上）¥1900、
（下）¥2300（ともにアイザラ）

21 tools

ELEMEN'TARY DESIGN

NO.3 SCREW
DRIVER SET

ロンドンの田舎町で開かれた小さなワークショップ「エレメンタリー デザイン」から生まれた、クラフト感漂うスクリュードライバー。グリップ部分はブナ材を採用し、ゴム製にはないグリップのホールド感と手への馴染みの良さを実現。ビット取り替え式で、9種類のビットが付属する。

¥7400
（ザ・コンランショップ 新宿本店）

20 tools

NAPRON

LUMBER BIB APRON

デニムの産地・岡山県は倉敷から発信する「ナプロン」。1990年代の労働着であったエプロンを、現代のライフスタイルに合うデザインに落とし込み、本格的なファッションアイテムとして提案している。こちらはキャンバスを使用したヴィンデージのワークエプロンがモチーフ。

各 ¥6500（すべてナプロン）
SIZE：丈 58 ×腰巾 64 ×裾巾 75cm

23 tools

ADAM SILVERMAN

Vase No.130
Vase No.45
Bowl No.38

XLARGE® 創設者の1人であり、現在はカリフォルニアを代表する陶器メーカー「ヒースセラミックス」のクリエイティブディレクターを努めるアダム・シルヴァーマン。そんな彼が手掛けたフラワーベースたちがコチラだ。コバルトブルーの色合いが抽象化された自然を感じさせるアイテム。

（左）¥90000、（中）¥85000、（右）¥85000
（すべてプレイマウンテン）

22 tools

WORK HANDS

WORK HANDS×BEAMS with COLORWORKS

東急ハンズとビームスのコラボブランド「ワーク ハンズ」と「カラーワークス」による、トリプルコラボの水性ペンキ。カラーワークスの最高級インテリアペイント、「Hip」をベースに、「ビームス」がファッションを意識した色彩を提案する。パッケージも洒脱で◎。

各 ¥1300（すべて東急ハンズ渋谷店）
SIZE：200ml

26 tools

PP BLOWER

Mold ALL VASE
Mold ALL Bud VASE
Mold ALL VASE

長野県にて夫婦で営む吹きガラス工房「スタジオプレパ」と、プレイマウンテンの共同名義でスタートした、グラスウェアブランド「PP BLOWER」。作品は鉄パイプや木材、陶器のブロックなど、既製であるモノからインスパイアされている。基本はそれらの型取りを用いて、制作。

（左）参考商品、（中）¥9000、（右）¥12000
（すべてプレイマウンテン）

25 tools

10[12] TERRA

Hydro 80 series
T.Twist Vase [Copper]

植物の根を観察しながら育てるという斬新な発想を形にしたハンドメイド花器。容器は上下に分解でき、上部に植物を、下部に水を入れる事で簡単に水栽培が楽しめる。正三角形のガラスで構成された花瓶は、見る角度によってさまざまな表情を楽しむことができる。

（左から3点）各 ¥10000、（右）¥12000（10[12] TERRA）
※植物別売り

24 tools

B:MING LIFE STORE

BOX 3P SET

ビームスライフスタイルブランド「ビーミング ライフストア」が企画・デザイン・製造まで一貫して行なったオリジナルの組み立て式収納ボックス。洋服のみならず、あらゆるものを収納できるよう強度にもこだわった。

各 ¥1000（ビーミング ライフストア by ビームス ラゾーナ川崎プラザ店）

IN THE MORNING

素敵な暮らしは素敵な朝から。
そんな道具をズラリ。

27
tools

TUBE WRINGER

Heavy Duty

歯磨き粉や接着剤などのチューブ入り製品をセットして、ハンドルを回すと最後まで絞り出せる便利なアイテム。チューブ絞り機の特許を取得し、一躍有名になった。世界中で販売されるようになった現在も、オレゴン州の工場にて手作業で制作。発売当時から変わらずに、高いクオリティを保っている。

¥3200（コネクト）
SIZE:H117 × W118 × D38mm

29
tools

MAKOO

Old School Clip
Board A5

ヨーロッパの学校で使われていた石板をイメージソースに作られたという黒板ノート。付属のチョークで書いた文字は、濡れた雑巾で消せるため黒板は繰り返し何度も使用可能だ。廃材となるさまざまな製品を再生していくこのブランドならではの、紙もいらない、ゴミも出ないメモ帳だ。

¥1380（マコー）
SIZE：W148xH210xD5mm

28
tools

R&D.M.CO-(OLDMAN'S TAILOR)

NAVY STRIPE BLANKET MARC
OLD STRIPE BLANKET MORGAN

糸を作り、生地を織り、デザインをする。メイドインジャパンでイチから作り出される、ウール100%のブラッンケット。触り心地は優しく、肌への負担はゼロ。使えば使う程にしなやかになっていくことも、「オールドマンズテーラー」の特徴だ。

各 ¥17000（ともにプレイマウンテン） SIZE：W230xH320xD4mm

30
tools

KIKKERLAND

Solar Queen
Elroy Corgi

それぞれに取り付けられたソーラーパネルを利用して、太陽エネルギーを動力に、右手や首を左右に動かす仕掛けが施される。ちなみに、クイーンが纏う黄色い衣装はロイヤル・ウェディング当日の衣装、紫の衣装は即位60周年を記念するダイヤモンド・ジュビリーの衣装を再現している。

（左）¥2000、（中）¥2000、（右）¥1800（すべてザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：（左・中）W60 × D40 × H170mm、（右）W75 × D40 × H65mm

31
tools

FRANKLIN INSTRUMENT COMPANY

2" Wall Clock*BLACK

全米の学校や病院、駅などの幅広い公共施設で目にするこのウォールクロック。こちらは米国で国家認定を受ける「フランクリン・インストゥルメント・カンパニー」のプロダクトで、軽さやお手頃な価格、そして飽きのこないシンプルなデザインが老若男女に愛され続けている。

¥4500（プレイマウンテン）
SIZE：φ 330 × D70mm

32
tools

REDECKER

TABLE WEEPING SET

白豚毛を使用し、程よい硬さと弾力を持つ、ドイツの老舗ブラシメーカー「レデッカー」社のダストパンセット。天然木のキレイな木目を活かしたブラシと、鏡面仕上げされたちりとりは磁石で接着できる仕組みになっている。ブランドロゴを刻印あり。

¥6600（ザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：W160 × H105mm

35 tools

EARTH TU FACE

FACE WASH/LOTION

ビタミンEとオリーブオイルを配合した、乾燥を防ぐ洗顔料。乾燥肌や敏感肌などすべての肌のタイプにもマッチする、オーガニックボディローション。「アース・テゥ・フェイス」は合成化合物や防腐剤などを含まない、純粋な植物由来100%の天然スキンケアを揃えている。

（左）¥5000、（右）¥6000
（ともにアントレックス レッドワークス事業部）
SIZE：（左）227g、（右）236ml

34 tools

THE ORGANIC COMPANY

WELLNESS TOWEL

そのブランド名のとおり、オーガニック素材にこだわったデンマークのブランド。リボンテープが縫い付けられているため、引っ掛けるようにすると身体や腰に巻くことができる。ユニセックスに使えるサイズ感も嬉しい。オーガニックコットン100%のワッフル素材を使用する。

¥8000（ザ テイストメイカーズ アンド コー）
SIZE：320g

33 tools

THE TASTEMAKERS & CO. × LONG TRACK FOODS

HOT CHOCOLATE KIT

鎌倉の人気デリカテッセン「ロングトラックフーズ」とコラボレーションした、ホットチョコレートキット。牛乳とキットの材料さえあれば、自宅で簡単に本格的なホットチョコレートを味わうことができる。オーセンティックなオリジナルの木箱は、作り終わったら収納ボックスとしても使える。

¥3000（ザ テイストメイカーズ アンド コー）
SIZE：320g

36 tools

FLAVOR

WOOD GOOD BOWL
FOOD PUTTING

ベトナムで制作された木製のボウルと、ポートランドの作家が生み出したガラス瓶。こちらはともにペット用のアイテムである。ボウルは木目を生かすため、塗料などを使っていないのが特徴。そのため、無垢で自然な香りが感じられる。ガラス瓶の蓋はコルク。ペットのおやつ入れに使いたい。

（左）¥7800、（右）¥10800（ともにヌーク ストア）
（左）φ15cm、（右）φ12×H17cm

37 tools

AUGUSTE-PRESENTATION

SACHET

天然素材と独自の染色方法を使用して、洋服を展開している「オーギュスト プレゼンテーション」。同ブランドから発売されているサシェ（匂い袋）は、すべて100%オーガニック素材を使用。男性でも抵抗のない爽やか香りで、防虫効果や気分転換にも最適な一品。

¥1500（アルファ PR）

39 tools

THE TASTEMAKERS & CO.

45x45 Linen
Cushion Cover

リネン素材を使用したアイテムが数多くラインナップする「ザ テイストメイカーズ アンド コー」。オリジナルのクッションカバーも、吸収性と速乾性に優れたリネン100%で作られている。洗濯に強く丈夫なうえ、使えば使い込むほどに柔らかさが増していくのもの魅力のひとつと言える。

¥7500（ザ テイストメイカーズ アンド コー）SIZE：W450×L450mm

38 tools

IZOLA

TOOTH BRUSH

なかなかオシャレな歯ブラシって見つからないもの。でも、この「イソラ」の木製歯ブラシは別格だ。NY・ブルックリンを中心にウィットの効いたジェントルマングッズを送り出すこのブランドらしい、トラディショナルなデザインが魅力。自分用はもちろん、友人へのギフトとしても重宝する。

¥1900（ベストパッキングストア）
SIZE：L130mm

ON THE CORNER

部屋の隅に何を置くかが大事。
コーナーを制すモノが部屋を制す。

41 tools

CAR TAG

CAR TAG CLOONEY
ARTVIN

ハイセンスな香りのブランド「リトゥ」との「ジョイントワークス」モンロのオリジナルグラフィックを配した全4種類。一番左は「モンロ」オリジナルの香りで、ハーブ配合の森をイメージ。続いて、パチュリ×バニラ、ローズマリー×ローズウッド、シャンパン×ベルガモットの香り。

各¥419（キキ）

40 tools

BOLTS HARDWARE STORE

WORK BENCH LEG

鳥居型をしたスティールパイプの構造体を両サイドに差し込み、上から荷重を加えることで成り立つカンタンな仕組み。組立て、解体が容易なため、部屋コーナーに置く簡易棚としてはもちろん、外への持ち運びもラクラクなので、キャンプにこそもってこいのプロダクトだ。

¥14000（ボルツ ハードウェア ストア）
※板別売り　SIZE：W325 × H537mm ／ φ 254mm

42 tools

PUEBCO

FACTORY WINDOW
MIRROR 2section

インドの工場で実際に使われていた窓枠を鏡に加工したウィンドウミラー。2セクションの他に、3セクションと4セクションの3タイプがある。実際の窓枠なので、すべて風合いや色合いが違う。そこにあるだけで、ヴィンテージ感漂う味のある空間を作ってくれる。

¥7600（プエブコ）
SIZE：W41 × H62cm

43 tools

CAPPELLETTO

Folding Stool for Artists

レザーストラップ付きの折りたたみ式スツール。脚のブナ材には汚れ防止のため、油で塗装を施してある。約1.0kgと軽量で、折り畳むとかなりスマート。そのため、アウトドアのお供としても最適だ。適度なサイズ感は、お部屋のちょっとした腰掛けにもピッタリ。

¥15000（ザ・コンランショップ 新宿本店）

44 tools

REPUBLIC OF FRITZ HANSEN

KAISER idell desk lamp 6556-T

クリスチャン・デルが1931年に発売した照明が「フリッツ・ハンセン」より復刻。職人の手によってスイッチ周りやシェードなどのディテールは当時のデザインを忠実に再現し、特徴でもある可動式ジョイントもそのまま。シェードには“KAISER idell”の文字が刻まれる。

¥62000（リビング・モティーフ）
SIZE：（シェード）φ 210mm　（ベース）φ 185 × H430mm

45 tools

VIPP

Pedal bottle

1935年にデンマークで誕生した「ヴィップ」。製造をすべてデンマークで行い、さらに部品の製造から塗装・組立てに至るまでは、熟練した職人により全工程が手作業で行なわれている。なかなか部屋のインテリアに馴染みづらいダストボックスだが、こんなデザインなら大歓迎だ。

¥33715（リビング・モティーフ）
SIZE：φ 250 × H300mm

46 tools

PEREGRINE FURNITURE

Donkey Table

天然木の自然な木目がなんとも美しい、丸めて収納できるロールトップテーブル。天板の裏についたマジックテープと、脚から出ているボルトで、工具などを使わずに簡単に組み立てることができる。家ではもちろん、キャンプでも大活躍間違いなし。机の高さは低めの椅子に腰をかけてくつろげるよう設計されている。

¥24400（ペレグリン・ファニチャー）
SIZE：W78 × H42 × D58cm
（収納時）φ46 × H79cm

47 tools

VITRA

Standard – Neu

「ヴィトラ」はスイスで創業され、イームズらのデザインの製品化、復刻化にはじまったブランドだ。ジャン・プルーヴェの名作であるスタンダードチェアはさまざまなバリエーションで制作された椅子である。最も負担のかかる後脚に幅を持たせた、合理的な構造となっている。

各¥73000（リビング・モティーフ）
SIZE：W420 × D490 × H815mm

48 tools

SONNENLEDER

football

革の加工から製品化まで自社で行っている「ゾネンレダー」のサッカーボール。化学的な成分は使用せず、職人によってひとつひとつ丁寧に作られている。もちろん実際に使うことも可能だが、経年劣化を楽しめるレザー小物をお部屋に飾って置くというのも粋なセンスでは？

¥28000（ザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：φ210mm

49 tools

THE CONRAN SHOP

ALPHABET

スチールに亜鉛メッキ加工を施した、アンティーク調のアルファベットオブジェ。小誌見開き程度のサイズ感とかなり大きめなため、お部屋での存在感は抜群だ。AからZまで26文字すべて展開される。背面にフック用の穴が2箇所ついているので壁に掛けることも可能。

各¥3700（ザ・コンランショップ 新宿本店）
（右）W220 × D35 × H420mm、（左）W250 × D35 × H420mm

51 tools

JOHN DERIAN

DEVIL'S TOBOGGAN LETTER TRAY
EUROPE UN VIDE POCHE SQUARE PLATE
NO.1 INCECTS RECTANGULAR TRAY

ニューヨークにて、デコパージュという技法を用いて作られるプレート。アンティークやヴィンテージプリントのコレクターであるジョン・デリアン。それらを再版したり、加工して起こした図柄を用い、熟練した職人が四角いプレートにカット。芸術的にコラージュした作品だ。

（左上）¥27000、（左下）¥8500、（右）27000（すべてザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：（右上）W355 × H234mm、（左下）W150 × H150mm、（右）W250 × H325mm

50 tools

CHRISTOPHE COPPENS

CHRISTOPHE COPPENS
Piggy Bank

かつてはベルギー王室御用達の帽子デザイナーとして活躍したクリストフ・コパンが、ファッションの世界から転身し、アーティストとしての活動に専念することを決意。こちらは日本で開催されたアート展の作品とリンクさせた、山がモチーフの塩化ビニール製の貯金箱だ。

¥13500（デコデボネア）

52 tools

MARSHALL

STANMORE SPEAKER

ヴィンテージのマーシャルギターアンプを彷彿とさせる外観と、サウンドスペックを実現したBluetooth搭載のスピーカー。マーシャル本来の象徴的なルックスがにじみ出るよう、見た目の美しさに徹底的にこだわった。ゴールドのパイピングとロゴ、伝統のクロスも採用。

¥56953（ザ・コンランショップ 新宿本店）
SIZE：W350 × H185 × D185mm

「楽しい」を「作る」BESSの家

遊びゴコロ満載の自然派個性住宅を提案するBESS（ベス）は、「住む」より「楽しむ」を掲げている。「大人になったらこんな家に住みたいなぁ」と、子どもの頃に描いた“自分だけの秘密基地”を具現化したようなユニークさがウリだ。自然を堪能できるログハウスや木をふんだんに使った家は、男なら１度は憧れる、まさに男のロマン。素敵な生活をいっそう盛り上げる“BESSガジェット”と共に紹介。

スベリ棒

ロフトとリビングを子どもの遊び場に。約4mの棒を使い、降りて登って。真っ赤なカラーが部屋のアクセントにも最適。

約H400cm
※ワンダーデバイス専用となります。

タイヤミラー

リサイクルして鏡のフレームへとアレンジした一品。壁に飾れば、ギザギザなデザインは、ほっこりした太陽のようです。

約φ53×D2cm／ゴムタイヤ、ガラス

ウマノカオ／サイノカオ

西アフリカの腰布、バーニュをワイヤーの骨組みに張り込んだお面。アンニュイな表情は、見ているだけでも楽しい気に。

ウマ：約W20×D25×H33cm
サイ：約19×D39×H36cm
※布柄がアソートになるため写真と多少異なります。

オールドラグアームチェア

手織りのラグを染めてパッチワークを施したアームチェア。使い込めばしっくりと馴染むハンドメイド感がたまらない。

W60×D67×H97(SH50)cm／ウール、ブナ材　※布は1枚1枚がアソートになるため、写真の柄行と多少異なります。

ドラム缶チェア

ドラム缶を切り抜いてそのままチェアに！長く使えば、サビとともに増していくワイルドなエイジングを楽しめるぞ。

約φ57×H88cm
リサイクルドラム缶、座部：木

アフリカ木馬

アフリカ製木馬は、なんともいえないラフな作りとカラーリングが素敵。実際に乗れるから、子どもも喜びそうだ。

ウマ：約W32×L90×H86 (SH49) cm
※手作りのため写真と多少異なる場合がございます。

ユニークな“BESSガジェット”一挙に紹介します。

BESSで家を購入した人が、ポイント制で引き換えられる特典が“BESSガジェット”。「なんだ、おまけじゃないか」なんてあなどるなかれ！そのラインナップはおしゃれな暮らしの家具はもちろん、2mを超える恐竜のオブジェ、アフリカの民芸品、さらにはクライミングウォールから2階と1階を結ぶスベリ棒!? なんてものまで、ユニークなBESSの家にふさわしい遊びゴコロの詰まったアイテムが並んでいる。これを知らずしてまだまだBESSは語れない！

ブロンドザウルス

ブロンドザウルスは、2m超えの特大サイズ。全長約3.8mのシンボルオブジェだ。恐竜時代を楽しみたい！方にはオススメ（笑）。

W75×L384×H215cm／重さ：51kg／FRP

クライミングウォール

高さ3.6mもの壁を本格ボルダリング！受金具付きでルートづくりも簡単。ボルト20本と、白いホールド20個もセット。

W182×H364cm
※ワンダーデバイス専用となります。

バッファロー／レイヨウ

鮮やかに彩られたバッファローとレイヨウは西アフリカ生まれの振り子のオブジェ。お部屋が一気に活気づくパワーアイテム。

バッファロー：約68×D32×H24cm
レイヨウ：約W45×D21×H66cm
※手づくりのため写真と多少異なります。

オールドチークテーブル

歴史を感じる年代物のような、オールドチークのローテーブル。鉄の車輪までついた台車仕様に遊び心がくすぐられる。

W90×D65×H38cm／鉄、オールドチーク材

オイルレザーソファ

オイルレザーの質感を生かしたクラシックソファ。飽きのこないトラッドなデザインで、使い込むほどに味のある装いになる。

W165×D85×H80 (SH43) cm／オイルレザー、ラバーウッド材

ウイリーダストボックス

大容量ダストボックスはどんなゴミも呑み込む、頼りがいのあるやつ。移動キャスター付きで、屋外でもよく働きます。

W52×D67×H95cm
本体：高密度ポリエチレン
キャスター：ゴム
※2色からお選びください。

「家の購入はまだ…」という人でも気軽に楽しめる！

北海道から鹿児島まで、全国41ヵ所で単独展示会を展開するBESS。住宅展示場というと敷居が高い感じがしないでも無いが、簡単なアンケートに記入して受付を住ませるだけで後はご自由に、というスタイル。本当に遊び感覚でいけるから、興味がある人は最寄りの展示会場を検索！さっそく彼女や家族を連れて遊びに行ってみよう。

(問) 総合展示場「BESSスクエア」
tel：03-3462-7000　www.bess.jp

グレーチング棚

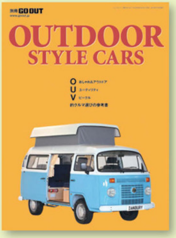
奥行き約1mの頑丈なグレーチング棚。荷物をたっぷり載せられ、棚の下にも吊るせるぞ！網状で光を遮る心配もナシ。

※ワンダーデバイス専用となります。
※間口273cm用と間口182cm用の2つからお選びください。

GO OUTは毎月30日発売。

ファッション×アウトドアをテーマに、おしゃれに着こなすアウトドアスタイルを毎号提案。
街中で快適なウエアを着こなしたい人も、キャンプに行く人も、山登りをする人も、
アクティブなライフスタイルを送る、すべての人にお届けします!!

いまオススメの別冊GOOUTはこちら!



おしゃれ&アウトドアなクルマを厳選。
OUTDOOR STYLE CARS
絶賛発売中!! 定価¥933+税

最新号vol.54は 2/28(金)発売予定!

定価¥680

注目ブランドの新作サンプリングや
新生活向けの普段使いバックパック、
おしゃれな人のヒゲと眼鏡まで
春の着こなし、最新事情をお届け。

\ 公式通販サイトも絶好調稼働中! /

GO OUT Online

www.goout.jp

ココでしか買えない、
アウトドアITEM揃ってます!!

人気アウトドアブランドから、ガレージブランドまで
バリエーション豊富なラインナップが魅力のGO OUT Online。
先行販売、別注アイテムなど見逃せないアイテム盛りだくさん!!
さらには、この春のおしゃれを彩るアウター、パンツをはじめ、
バッグ、靴など小物アイテムまで充実しています。

三栄書房 SAN-EI SHOBO Publishing Co.,Ltd.
販売部 TEL 03-5369-5112(受付時間/平日10:00～17:30)　〒160-8547 東京都新宿区本塩町19　www.sun-a.com/

古き良きアメリカを感じる DIY精神溢れる男の改造部屋。

ショップマネージャー
石塚 徹さん（30歳）

LIVING WITH MY FAVORITES

18

18 / 30

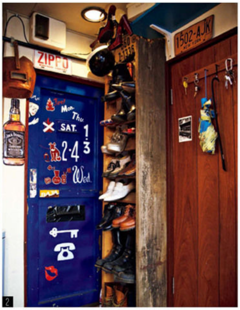
3 石塚さんがこつこつ集めた、アンティーク家具がところ狭しと並ぶ室内。三宿方面の街並みを臨む大きな窓から入る光が、宝物たちを明るく照らす。窓際のビートルズのポスターはなんと当時のもの！買い付けの際、購入したそう。

2 目を引く青い玄関扉には、同棲している彼女が所属するバンドメンバーが描いたイラストが描かれる。ロイ・リキシュタインへのオマージュ溢れる作風が、ヴィンテージアイテムが溢れるアメリカンな部屋のテイストにぴったり。

1 インパクトある真っ赤な壁は石塚さんのDIY。部屋に溢れるヴィンテージ家具と相性抜群だ。ローテーブルやソファは自らのショップで購入したもの。大好きなヴィンテージの家具や小物に囲まれてふかす煙草は格別の味わいだろう。

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：池尻大橋
間取り：1LDK
居住年数：3年
住宅形態：マンション
築年数：約50年



好きだから、たくさん持ちたい。潔く、男の浪漫を詰め込む。

赤い壁に歴史を感じる床。味のあるヴィンテージ家具や装飾に、友人が描いたペイント…。この、男心をくすぐりまくる部屋に住むのが、中目黒のリサイクルショップ「サイ」を営む石塚さんだ。「この部屋はもともと前に住んでた人と知り合いで。そのツテで住み始めました。DIYできる家に住みたかったんです。仕事で家具を作ったり直していたり、リメイクしたりしているうちに好きになって、自分の部屋もいじりたいなと。この部屋は、黒い躯体とか味のある床はそのまま活かしましたが、リビングの真っ赤な壁とか白赤のキッチンは自分で塗りました。あと、天井の収納とか、靴棚、ラック類は自作です。全部独学なので、プロが見たら笑っちゃうかもですが（笑）。あとは、エントランスのドアやキッチンの上に、友人に絵を描いてもらったりもしてますよ」。

そんなクラフト感たっぷりの部屋に置かれている家具からも、石塚さんのセンスがひしひしと伝わってくる。「古いものが好きで。ちょっと面白いヴィンテージアイテムを集めてるんです。希少性とか年代にはあまりこだわらないんですけどね。とにかく見た目重視。面白さを大事にして直感で選んでます。あと、作られた場所とか国も気にしてないです。和物とかも結構多いですよ。ちなみに、テーブルとか椅子、ワゴン、ソファなど、自分のお店で買ったものもかなりありますね。あと他の店だと、目黒通りの〝ソネチカ〟が好き。うちに置いてあるような、雰囲気のある古いものがたくさんあるんです」。

趣味が高じて、ついにアンティーク家具を取り扱うリサイクルショップを開くまでに至った石塚さんの部屋は、やはり古き良き物への愛情とDIY精神に溢れた味のある部屋だった。

5

6

4

8

9

7

12

11

10

6 病院で使われていたというシルバーのラックには、石塚さんこだわりのコーヒーグッズが。このガラスのピッチャーのような独特の形のコーヒーメーカーは、アメリカのメーカー・ケメックスのもの。ドリッパーとサーバーを兼ねるスグレモノだ。

5 もともとブラウンだったというキッチンは、赤と白でペイント。少し塗料が剥げかけたところが味たっぷりで格好いい。レトロなガスコンロやポットも雰囲気満点。生活感が出がちなキッチンだが、こだわればここまで格好よくできるという好例。

4 エントランス横のシューズラックは石塚さんによる自作。省スペースながら、収納力、デザインともに一級品。古木の素材感が部屋のテイストにもマッチしている。こんな雰囲気ある棚なら、並べられた靴もいつもより少し格好よく見えるかも。

3 大きな窓の上のデッドスペースには、板を設置して棚を製作。普段はあまり使わない本などを置くスペースに。DIY可能な物件ならではのアイディア収納だ。左側の壁にも同様の棚を設置し、そちらにはヴィンテージの小物などをディスプレイ。

2 こちらのバッグは同棲している彼女の収納スペース。雑貨などの小物をしまいこんでいるんだとか。棚などではなく、あえて革製のバッグに収納するというのがいい。サイズ違い・色違いを重ねれば、立派なインテリアになる。部屋の雰囲気にもマッチ。

1 おしゃれ部屋の必須ストーブである、イギリス・アラジン社のブルーフレームヒーター。現在も同型がリリースされているが、こちらは初期型のヴィンテージもの。50年以上も前のものながらまだしっかり使えるそうで、石塚邸では現役で活躍中。

12 部屋を照らすレトロなランプの下には、彼女のアクセサリーがズラリ。ブレスレットやリングなど、モノによって作られた誂え向きの棚は、まるでヴィンテージショップのディスプレイのよう。以前はココに彼女の机があったそうで、すでに10回以上の模様替えをしているそう。

11 こちらは大きな窓の外から直結するベランダ。青く塗られたコンクリート塀が、室内の赤と対比的。ここにはDIY用の材木などが置いてある。雰囲気ある素敵な看板が材木置場をアトリエのようなムードに仕上げている。柵側にはまたまた小物が！

10 大きな窓から景色を眺めながら過ごしたい時は、石塚さんのデスクへ。このデスクはアメリカメイドのヴィンテージ。石塚さんのNo.1お気に入り家具なんだとか。机上には、普通とはちょっぴり違う雰囲気のキューピー人形と目覚まし時計など。

9 カトラリーが置かれるキッチン前のスペースにも、こんなアメリカンテイストな小物たちをディスプレイ。使い終わった瓶にフィギュアを入れただけで、立派なオブジェになる。他にも海外パッケージの缶を入れ物にするだけで、食器棚の雰囲気もアメリカンテイストに味付け。

8 これまた自作のラックにズラリと並んだスニーカー&ブーツたち。デッドスペースになりがちなエントランスの上部をフル活用して、収納スペースに。「実は見世帯分けではなくて、この家、収納が全然ないんですよ…（苦笑）」と話すが、DIY可能物件ならではの解決法だ。

7 リビングのソファの傍ら、部屋の角にあるこちらのスペースは、同棲中の彼女のデスク。アクセサリーやコスメ、鏡などが並べられた女性らしいスペースながら、やはり石塚邸らしくテイストはアメリカン。赤い壁にグリーンの椅子が好アクセント。

好きだから集める。好きだから増える。単純だけど、憧れる趣味人の部屋。

「引っ越しを決めたはいいけど、場所はどこでもよかったんです、都内以外なら（笑）。それで以前からの知り合いが近くに多かったこともあり、茅ヶ崎に決めたんです」。そう話してくれたのは、アウトドアコンシェルジュの吉田さん。物価も家賃も安いとあって、この地を気に入り、一軒家を借りているそうだが、５ＬＤＫの家でも収まりきらない膨大な量のモノたち。「仕事で常に家の中のアウトドアギアたちが動いているので、収まり切った状態って本当にオフシーズンの１～２カ月くらい。家がさっぱりということはあまりないですよ（笑）」。さらに驚くべきは、その部屋割り。一室はギアや寝袋、テントなどの乾燥部屋、一室はあらゆる工具が置かれたメンテナンス部屋と、まさに生粋のアウトドアマンならではのお部屋作りだ。さらに今回の引っ越しを機に新しく家具も加わったとあって、部屋はとにかくモノだらけ。「アンティークの椅子が増えたこともあって、リビングに大きな机が欲しかったんです。本当はアンティークで欲しかったけど、このサイズは高すぎから（笑）。ＩＫＥＡで買いましたね（笑）」と冗談まじりで話してくれた。「リビングにある白いシェルフとテーブルも、この引っ越しを機に宇都宮の「すずめ」というお店で買いました。そこはお酒とたばこを扱う、いわゆる嗜好品のお店なんです。そこでアンティークも扱っていて。店主と仲が良く、僕の好きそうなモノを見つけると連絡をくれるんです。モノってそうやって買うのが素敵じゃないですか」。〝ネットで安く〟ではなく〝人との繋がり〟でモノを買うことが多い。だから知り合いが増えれば、自然とモノは増える。趣味が人を繋ぎ、モノになる。こんな形のアンチ断捨離は、ちょっと憧れてしまう。

高価なバイオエタノール暖炉だってDIY!

ススや灰が出ないので使う場所を選ばないバイオエタノールを使用した暖炉。モノによっては数十万もするアイテムだが、「高すぎるし、作った方が絶対にいいですよ（笑）」と吉田さん。輸入代理店で購入したバイオエタノールと薪入れ、レンガ、強化ガラスが材料だ。

1

2

4

3

1. 庭には、なんとピザ釜を発見！　冬は乾燥しやすいこともあり出番が少なかった。春が待ち遠しい。**2.** ネイティブアメリカン、「マザー・アース」のブランケットでベッドメイク。またスケートデッキをベッドサイドテーブルとして利用している。テーブル上には、ジョブズも愛したといわれる「WHOLE EARH CATALOG」が置かれている。**3.** 野外でも美味しい１杯を飲みたいと、吉田さんこだわりのコーヒーグッズたち。ワインを空輸する際に使われるワインボックスを利用して、そのまま持ち運べるようひと工夫。**4.** 壁に飾られたカヤックのパドルは、フェイスブックで知り合ったカナダ人に、自分の手の大きさから肩幅まで全て測ってもらって、オーダーメイドで作ってもらったのだそう。

アウトドア コンシェルジュ
吉田 豊さん（46歳）

ROOM SPEC

神奈川県茅ヶ崎市
エリア：茅ヶ崎
間取り：5LDK
居住年数：1年
物件形態：マンション
築年数：18年

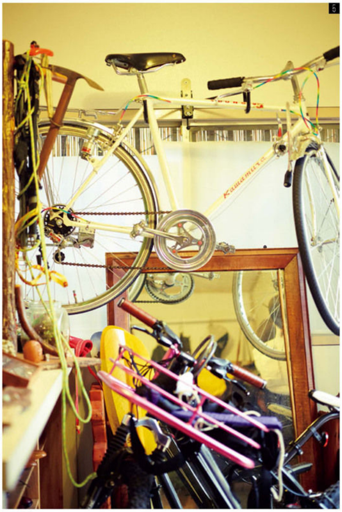
LIVING WITH MY FAVORITES

19

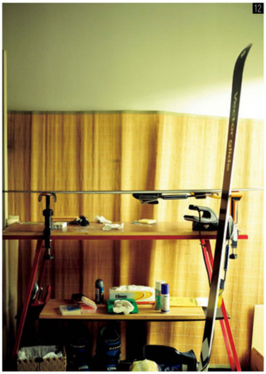
19 / 30

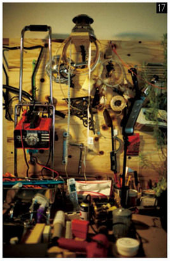
クライミング
ロープを
プーリーに。
フロアランプも
可動式なら便利。

このテク
いただき!



1. 世界各国のビールの空き瓶は、階段にディスプレイすれば立派なインテリアに変身。**2.** アンティークな食器の数々は旅先やアンティークショップなどで購入したもの。沖縄陶器のやちむんも発見。特にブランドなどにこだわりはないが、大量生産ではない、作家モノを気分で買うそう。**3.** ベルトはＳ字フックで壁にかける。モノの多い吉田さんの家ではこういう収納だってアリ。**4.** コートハンガーに見立てた細木のインテリアにもギアを吊るして収納。**5.** こちらがエントランス。まるでサイクルショップのような圧巻のディスプレイ。**6.** 工事用の車輪を利用して自作したプーリー付きランプ。プロジェクターでDVDを観る際に邪魔にならないため、非常に便利。**7.** 三浦にあるアンティークショップで手に入れた本棚。**8.** 趣味でコレクションしているマッチは骨董屋などで比較的安価に入手している。**9.** アーミーナイフやパイプなど、吉田さんお気に入りのヴィンテージアイテムが飾られてたアクセサリーケース。**10.** リビング脇に飾られたグリーンはランタンや瓢箪の酒器など、吉田さん独自のコレクションと一緒に。**11.** 天秤付きの秤座を上手に利用し盆栽を飾った、"粋"なセンスが光る。





12. ギアの乾燥室に置かれたスキーのワックス台。**13.** ナイスな女性のドリンクコースターはヴィンテージ。**14.** こちらが乾燥室のワンシーン。所狭しと並べられたギアに思わず見とれてしまう。**15.** 階段上にデッドスペースに棚を自作して自転車を収納。かつて、こんなところまでを有効活用し、収納にした人がいただろうか。**16.** アウトドアチェアの上には山岳関係の本がズラリ。**17.** メンテナンスはすべて吉田さん自身で行うというだけあって、工具の数もハンパじゃない。1枚板にビスを打って収納された道具はこれだけでもサマになる。**18.** 大量のシュラフやギアが掛かっているラックはすべて手作り。増設などのことも考慮し、バラした時に1本の木になるよう組み立て式にしているのがポイント。**19.** 廊下や扉、とにかくスペースには何かしらのモノが置かれる。**20.** 先日キャンプから帰ってきたばかりで、また翌週もキャンプ。こんなことも珍しくない。そのため、レギュラーで持っていくギアは玄関前で待機。**21.** 手入れをする感覚が好きで集めているレザーシューズたち。**22.** 光が差し込むベッドサイドにはサボテンが中心のグリーンスポットに。

二人のこだわりが凝縮された北欧風のシンプルルーム。

LIVING WITH MY FAVORITES

20

20 / 30

会社員
和田 敦さん（34歳）
イラストレーター
和田郷子さん（37歳）

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：二子玉川
間取り：1LDK
居住年数：2年
住宅形態：マンション
築年数：45年

機械の設計を行う会社で働く敦さんとイラストレーターの郷子さんの和田夫妻が暮らすお宅は、白と木を基調としたシンプルな北欧風のお部屋。在宅での仕事が多い郷子さんの影響が大きいという現在のお部屋は、どのようにして出来上がったのだろうか。

「インテリアは基本、一緒に暮らす前に使っていたものをお互いが持ち寄ったものばかり。統一感はあまり求めていなくてバラバラくらいが丁度いいかなって思っていたんですが、好きなものがお互いに合っていて、たまたまいい具合にまとまった感じです」。ミッドセンチュリーのテイストが好きだった郷子さんと、北欧テイストが好きだった敦さんの嗜好が丁度よくミックスされて出来上がったのだそうだ。

お部屋に入ってまず目に入る、存在感を放つハンモックは「この部屋に暮らす時に決めていた」という、主役インテリアのひとつ。思い入れもひとしおで、吊るし方にもバリエーションがつけられるようになっているほど。

その他にも家具や家電を見渡すと、有名メーカーからヴィンテージまで錚々たるアイテムが揃っている和田邸。モノには強いこだわりがある2人だが、中でも使われている素材にはことさらに強いこだわりがある。

「偽物っぽいものとかフェイク素材は使いたくなかったですね。仕上材や木は特に。床は無垢のタモ材ですが、年輪がしっかり出ていたり、木目の表情がぜんぜん違うんですよね。ちなみに、壁は自分たちで塗ったんです。経験者の友人に教えてもらいながら漆喰で塗りました。中でもエントランスの壁は会心の出来で、職人にも褒められたんですよ（笑）」。

自分たちの本当に気に入ったものだけに囲まれて暮らす、2人の積み重ねの結晶のような部屋であった。

1 イラストレーターという仕事柄、在宅での仕事が多い郷子さん。「パソコン周りは1日で多くの時間を過ごす場所だから、素敵な空間にしておきたい」と話す。木を基調にしつつも、iMacが自然と馴染んだハイブリッド感が魅力的だ。

2 敦さんの8年来の趣味であるクライミング。ギア関連が収納された大きなバッグは、エントランス横の土間に。ボルダリングのホールドを家に取り付けたかったそうだが、「現実的でない」と郷子さんの反対にあい、泣く泣く断念（涙）。

3 野外フェスで使うキャンプギアや、敦さんのクライミングギアをはじめとする荷物は、エントランスの土間の横にあるクローゼットに収納。部屋に生活感を持たせない巧みな収納術に注目。「使い勝手が良くて気に入ってます」。

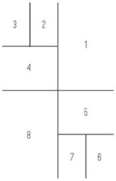
4 敦さんが日常的に出勤で使う自転車は、入出庫しやすいエントランスに。職場まで毎日45分かけて出勤するだけに、機能にはこだわりあり。友人から紹介してもらった、二子新地の<ABOVE BIKE>で購入したハイスペックなマシン。

5 「スペックがやや落ちても、見た目の印象も大事にして選んでいる」という家電。右から、「クイジナート」のフードプロセッサーに、「ラッセルホブス」のミキサー、「野田琺瑯」のケトル、そしてコーヒーはエアロプレスを愛用。

6 キッチンにもモノは出来るだけ置かないようにしているという和田夫妻。炊飯器も置かず、鍋で炊いているそう。多機能家電も避け、コンロも魚焼きグリルがないものを探したというほど、シンプルさには並々ならぬ情熱を燃やす。

7 映画好きの響子さんには欠かせない、大画面のプロジェクター。自分たちで漆喰を塗った、自慢の真っ白な壁に映して映画鑑賞を楽しむ。ハンモックに寝転がりながら、ゆったりと大好きな映画を楽しめるこだわりのエンタメスペースだ。

8 「イームズ」のワイヤーチェアは1脚が友人からのもらいもので、対になるようもう1脚を購入。敦さんが結婚前から持っていた「ルイス・ポールセン」のランプは、郷子さんも欲しかったもの。結婚を機に家にきて嬉しかったそう(笑)。



LIVING WITH
MY FAVORITES

21

21 / 30

フィクチュール ディレクター
山根敏史さん（38歳）
フィクチュール プレス
山根麻美さん（36歳）

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：駒沢
間取り：2LDK
居住年数：2年
住宅形態：マンション
築年数：3年

手作り家具がお出迎え。愛犬と家族で暮らす温もり溢れるDIY部屋

玄関を開けると愛犬たちが真っ先にお出迎えしてくれたのは、「フィクチュール」のディレクターを務める山根さんご家族宅。「職場の駒沢から近いところ、そして何より愛犬2匹が飼えるところが部屋探しの条件でした」と話すとおり、犬はもちろんOK、加えてマンションの1階にはドッグランも併設されているなど、家族にも愛犬にも住み心地の良い物件だ。仕事柄、おふたりとも洋服が多いため、収納部屋があるのはこの家ならではだが、「他にもいろいろあるのですが、ゴチャゴチャするとその度に事務所へ持っていきますね（笑）」と奥さんを横目で見ながら話すところは、どこの家も共通だろう（笑）。

部屋の中央に置かれたテーブルを指差し「これも手作りなんです」と話した後、改めて部屋を見渡しながら「…というより、ほとんどの家具が手作りなんですよ（笑）」と続ける山根さん。元々は大工というだけあって、そのクオリティは折り紙付きだ。「バローブランド」の脚に天板を重ねて打ち付けたテーブルや、2×4（ツーバイフォー）の木材で作ったブックシェルフ、さらにOSB合板を利用したベランダの収納まで、お手製家具がズラリと並ぶ。

また自身のブランド「フィクチュール」のテーマである〝国〟を表現するかのように、部屋の所々には海外で買ってきた小物が点在。特にカーテンレールの上に並べられたグッズたちがお気に入りのコレクションだという。ブランドディレクターとしてアイディアを生み出すための、山根さんの宝物だ。さらに「以前はハードコアのバンドを組んでいたこともあって、パンクやオールドスクールのヒップホップが好きですね。自分のバックグラウンドでもあるし、本やTシャツもコレクションしています」と話す。レコードやベース、キーボードなど、音楽にまつわるモノが多いのも、このお部屋の特徴だ。「最近は食器にハマっています」と、旅先で集めた食器を手に話してくれたのは奥さんの麻美さん。趣味の中でも特に大好きなコーヒーにまつわるギアも充実している。衣食住、ライフスタイルの中心にあるすべての要素において自分たちの好きを散りばめた、とっておきの空間がそこにはあった。

アラジンストーブを囲み、和やかな一家団らんを楽しむ山根さんご家族。結婚する前から飼っていたという２匹の愛犬だが、13歳のフレンチブルドッグを山根さんが、11歳のチワワを奥さんが飼っていたそうだ。また２人揃って“アメリカ好き”なご夫妻でもあり、その共通の趣味が反映されたリビングルームは、家の中でも一番居心地の良い空間。「息の長い植物が好きですね」と山根さんが話すように、リビングのポイントにはサボテンが置かれていた。

2

1

4

3

6

5

6 アメリカの老舗「バローブランド」のバック・クラシック・バローを2つ並べ、テーブルとして活用。その脇には山根さんが大好きでアメリカに行くと必ず購入するというボトルオープナーを設置。

5 肘掛けの風合いが素敵なローチェアは、大阪出張の際に偶然見つけ、ひと目惚れして購入。「展示会やカタログのプロップなどでも使えるミリタリー家具を集めていて、これはフランスの軍モノです」。

4 アラジンのストーブは、燃費の悪さがやや難点。しかしながら、それに勝る独特で趣きのあるルックスにファンも多い。上に乗せたアルミの缶はヴィンテージの「ミロ・アルミニウム・カンパニー」。

3 三脚の上にあるツールボックスは、「フィクチュール」がアメリカの老舗メーカー、「スチール・キャンバス」に別注した限定モデル。「"見せる収納"を作りたかったのでとても重宝しています」。

2 ヴィンテージのフィギアなど、山根さんの思い出のつまった素敵なコレクション。「アメリカの中古家具屋で見つけた、フィッシング・ギアショップの看板がキャッチーで一番のお気に入りなんですよ。」

1 ダイニングテーブルも自作。天板は板をホームセンターで購入し、その場でカット。そこに既製品のアルミの脚を取り付けた。さらに家具用のブライワックスで塗装。このひと手間が肝心なポイント。

MY FAVORITE THINGS

7. 手前に並ぶマグは「HASAMI」のインラインのものと、「フィクチュール」が「HASAMI」に制作依頼をしたもの。**8.** 沖縄のやちむんの里で購入した読谷山焼の大皿が一番のお気に入り。**9.** 「ケメックス」のドリッパーに「ショット デュラン」のフレンチプレスなど、こだわりのコーヒーギアたち。「カリタ」のウェーブドリッパーが最近のお気に入りだそう。

9

8

7

お部屋の中でも数少ないレディメイドプロダクトであるレコードラックだが、自作した家具との調和はバッチリだ。「DIY するときは、なるべく無垢の木は塗装するようにしています。全体的に、王道でラキッドなアイテムたちが好きなんですが、土臭くならないように、パーツを取り付けたり改造などしたり、並べる物を工夫して仕上げるようにしていますね」との言葉どおり、古き良きアメリカの香りは残しながらも、そこに必要以上の土臭さは感じられない。棚の上には「WHOLE EARTH CATALOG」も発見。「家でデザイン出しとかができるように、その時のテンションに合わせて、オフィスの本と自宅の本は入れ替えるようにしています。一番気を使っている部分でもありますね」。

Do It Yourself

12

11

10

10. ベランダにある室外機の上に設置された収納ボックスは、OSB 合板に金物を取り付け、ボックス型にした自作のもの。植物を手入れする際に使用するショベルや、プラントフォークなどを掛けられるように、ビスをフック代わりにする工夫も。**11.**「バローブランドン」のバック・クラシック・バローに天板を取り付けて作ったコーヒーテーブル。これならすぐに真似できる。**12.** ブックシェルフも自身の DIY アイテム。定番の２×４（ツーバイフォー）の木材をベースに製作した。上下を固定しているパーツは恵比寿にある「パシフィックファニチャーサービス」が運営する PFS パーツセンターで購入したもの。最上部の棚には、モロッコの銀製ティーポットや宝箱などがディスプレイされている。「ＤＩＹは全体的に低予算で済ませたいので、苦労しています（笑）」。

壁一面を覆うトイたちは仕切りごとにテイストを統一してレイアウト。深いブラウンがアンティークトイとマッチした木製のシェルフは部屋に備え付けられていたもので、「ジャーナルスタンダードファニチャー」で購入したシェルフも、サイズがピッタリとマッチした。カート・コバーンが描かれたLV POPの「LOSER VANDAL」の後ろにはブレーカーが隠れており、アートの存在感を持ってして文字通り、生活感を隠蔽している。

コレクショントイと共に暮らす、お手本コーデ。

LIVING WITH MY FAVORITES

22

22 / 30

会社員
池田 仁さん（35歳）
会社員
池田 日向子さん（25歳）

ROOM SPEC

千葉県千葉市
エリア：幕張
間取り：1LDK（75㎡）
居住年数：1年
住宅形態：マンション
築年数：20年

小さなサイズのなかに歴史が詰まったアンティークトイは、コレクター心をくすぐる。しかし専用のクリアケースに入れてはギークなイメージが強すぎるし、かと言って部屋の所々にオブジェのように飾っては、コレクション感が薄れしまうというものだ。

千葉県は幕張のマンション1階に住まいを構える池田さんも「ひと目惚れすると、金額は考えずに買ってしまうんです」と語るトイマニアのひとり。新婚ほやほや、以前に比べて購入する機会は減ったそうだが、十数年かけて集めたコレクションは、なかなかの数。壁一面が年代物のトイで埋め尽くされ、なかにはひとつ十数万円（！）するものもあるというから筋金入りだ。

トイに止まらず、インテリアにもアンティーク要素を求める池田さんがコレクション収納として選んだのが、「ジャーナルスタンダードファニチャー」で購入したユーズドのシェルフ。小学校の靴箱として使われていたというストーリーある一品だけ、アンティークトイとも相性バツグン。ピンクやグリーンに塗られたポップさと相まって、ギークな印象はゼロ。

このコレクションが飾られているのが生活のメインとなるリビングダイニングだが、ゴチャゴチャとした印象はまったくしない。なぜならトイが飾られたスペースはオモチャ箱のように遊び心にあふれる一方、それ以外の家具やインテリアは必要最低限に止め、すっきりとした印象に。ダイニングセットの脇に飾られたビビッドなポップアートも、さらりと床に直置き。アートの存在感を程よく打ち消している。とは言え、くつろぎのソファはコレクションを眺められる向きに設置しているあたり、何ともコレクターらしい。

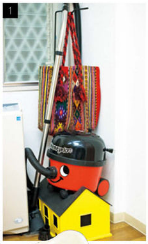
３６０度、趣味に囲まれた生活も魅力的だが、ゆったりとリラックスできる空間も捨てがたい。それを叶えるには欲張るエリアは一点集中、いさぎよいメリハリがポイントになりそうだ。

このテク いただき！

ワーキング資料も部屋の景観崩さず隠すレイアウト！

アパレル関係のお仕事に就くご夫妻。仕事の資料として、すぐ手に取れる場所に置いておきたい雑誌は「フェローズ」のボックスでスマートに収納。頻繁に開く雑誌は「シュペリオールレイバー」のトートに詰めて取り出しやすく。

リビングダイニング全体は、あくまでシンプルなイメージ。ホワイトの壁に合わせてソファは生成り色をセレクト。チェアやアートポスターで、程よく色味をプラスしている。

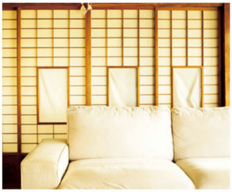


5.「シュプリーム」のデッキは2011年秋冬モデル。白雪姫とコラボしたキッチュなプリントがニクい。**6.** リモコンはゾゾタウンで購入したスケートベンチの上が定位置。**7.** アートポスターもネットサーフから惹かれて購入することが多いそう。キースのベンチと隣り合わせて飾られているのはロシアの女性アーティスト、ロラ・ゾンビの「LOVIN IT」。水彩の繊細なペインティングと皮肉に満ちたモチーフがクール。

1. トイのような掃除機は英国ニュマティック社の「ヘンリー」。見た目に反して機能性はお墨付き。**2.** ダイニングチェアはポップな曲線を描く「イームズ」のアームシェル。**3.**「特にゾウ好きというわけではないのですが…」。アンティーク好きの家主のお眼鏡に適ったオブジェはアバクロとゾゾタウンでゲット。**4.** 玄関からリビングをつなぐ廊下にはキース・ヘリングのベンチが並ぶ。こちらもゾゾタウンで発見。

GREEN & GARDEN

8. もともとはマンション住民の集会所だったスペースを住居にしたというお宅は、庭と言ってもいいほど広々としたベランダ付き。デスク＆チェアセットも当時の名残というから、まさに掘り出し物の物件だ。日当たりバツグン、休日はここで、ゆっくりとブランチを取るそう。**9.** トイマニアのお宅となると、植物にもポップな要素がにじむ。うさぎの形をしたプランターは雑貨屋でひと目惚れ、ゼブラ型のスツールもプランター置きとして活用し、さながら小さなジャングルだ。ダイネックスのマグをプランターとして代用するアイディアは、ぜひマネしたい。



「gordon」デザイナー
原瀬 剛さん（38歳）

ROOM SPEC

神奈川県葉山町
エリア：葉山
間取り：4DK（アトリエ兼）
居住年数：3年半
住宅形態：一軒家
築年数：約80年

LIVING WITH MY FAVORITES

23

自然を間近に感じて暮らす、海沿いのアトリエ兼自宅。

神奈川県逗子市、三浦半島の西側に位置する葉山町。別荘地としても人気の、こののどかなエリアに、原瀬さん夫妻の自宅兼アトリエがある。もともとは大学のヨット部の合宿場だった築80余年の平屋だ。

「以前、葉山に来た時に、この街のローカリズムが気に入って。妻の実家が近いということもあり、3年前くらいに引っ越してきました。もともと平屋に住みたいという願望はあったので、この家の内見で入った瞬間に〝ココだ〟と思いましたね。築80年だし、冬は寒いし(笑)、さらに都心から遠いということもあって、正直不便なことも多いです。でも、リラックスできて自然も海もある。住む人たちの地元意識も強く、家族ぐるみでホームパーティもできる。いいところもたくさんありますよ」。以前から夫婦で始めたいと思っていたサーフィンが、葉山に移り住んでから新たに趣味に加わった。「ここなら、気軽に声を掛けて一緒に行ける友達も周りに多いし、それが嬉しいです」と話す。

「家に置いてある家具も、そういう地元のコミュニティを通じて揃えたものもありますね。〝Wakka〟という古道具屋をやっている友人が、イメージに合うものを探してきてくれるんです。そこまでインテリアにこだわって部屋作りをしたわけではないので、IKEAや通販も使うし、テーブルはコタツです(笑)。強いて言うなら、新品とかきれいなものよりは、使い古したモノの方がいいなとは思っているくらいですね」。アトリエには、以前両親の会社で使われていた打ち合わせ用の椅子や、町内の人に頂いたというトルソーも置いてある。お部屋作りの中心に、人と人とのつながりがある。田舎暮らしの温かさに溢れた暮らしが、原瀬夫妻のお部屋から垣間見えた。

6 こちらは剛さんのアトリエ。両サイドの壁にはオーダーシャツの型紙がズラリ。両親が昔使っていたというレトロな椅子が、部屋のアクセントになっている。ハンガーラックとラグはIKEA。

5 寝室も家のテイストを活かしたシンプルな色みと構成に。やさしげで温かみのあるな雰囲気が、快適な睡眠をサポートしてくれそう。入り口には白いカーテンを設置。壁には "YES" の文字が。

4 寝室の片隅に、アウトドアギアを収納。葉山住まいの友人たちとよくキャンプに行くそうで、夏はほぼ毎週出掛けるとか。そんな使用頻度の高いものだからこそ、取り出しやすい収納が重要。

3 こちらはリビングルームの一角。昔ながらの日本の家は、光の取り入れ方が素晴らしい。窓際には仕事場にもあるモンステラを設置。白を基調としたクリーンな部屋には、観葉植物がよく似合う。

2 エントランスにも、リビング、アトリエと同じくモンステラを発見。こちらはペニーの上にプランターを置いたシンプルなディスプレイだが、これ見よがしでない気取らない空気感が好印象。

1 キッチンの壁やシンクの扉は全面イエロー。以前から黄色だったものをそのまま活かしたそう。天井にはチベットの祈祷旗であるタルチョを。部屋の雰囲気と相まってエスニックなムード。

サイドには
結婚記念日が
刻まれてます

ブルーリッジチェアワークスのスモールBRチェアをモチーフに、友人が結婚式のサプライズで製作してくれたというオリジナルチェア。

アトリエスペースのテーブルには、友人が作ってくれたというブランドの屋号 "gordon" のワイヤーアートが置かれる。年代を感じるフランス郵政公社のポストのオブジェやシャツの襟が、スタイリッシュなムードを演出。

エントランスには植物がたくさん。そんな清潔感溢れる玄関前には、簡易ラックでシューズをディスプレイしながら収納してある。シューズボックスの上に飾ってある、彩り豊かな草履は、剛さんのお母さんが作られたものだ。

日曜大工のリズムに合わせ、ハンモック揺れるくつろぎ部屋。

アウトドア好きなら一度は憧れるであろう、ハンモックのある部屋。キャンプやフェスに自転車と、アウトドアな趣味を持つシオミツさんは、この新居で夢を叶えた。「正直なところ、ソファを置きたかったんです。でもソファを置くと部屋が狭くなってしまうでしょ？　そこで選んだのがハンモック。結果、家にいてもアウトドア気分が味わえて大満足です」。確かに空間に揺れるハンモックなら圧迫感はないし、部屋を広く使いたければ取り外しだって可能だ。楽天のネット通販で3000円程度だったというが、強度も安定感もバツグン。寝転がっていると、つい、うたた寝をしてしまうとか。

駅から歩いて数分のマンションをリノベーションして住まうご夫妻。縦長につくられたお部屋はリビングと寝室をつなぐスペースにモルタルの土間やデスクスペースを設け、ワンルームでもメリハリある構造に。ふたりが別々のことをしていても気にならない、適度な〝おこもり感〟が快適だ。

この構造はリノベーションの成せるワザだが、多趣味なシオミツさんはDIYも大得意。「完成したインテリアの写真をフェイスブックに投稿して、『いいね！』をもらうためにやっているようなものです（笑）」と冗談めかして話してくれたが、ランプシェードから木製のキャスターボックス、ダイニングテーブルにベンチと、既製品と見まがうような家具が目白押し。

「雑誌から欲しいアイテムを見つけたら、まずはIKEAに行ってみる。似たような家具を見ると、どんな組み立てで作られているか分かるから、そこで自分で作れると思えたものは手作りします」。成り立ちを辿れば作り方が見えてくる。不器用だからとDIYに消極的な方もインテリアをシオミツさんのような角度から見てみれば、手作りの楽しさを発見できそうだ。

LIVING WITH MY FAVORITES

24

24 / 30

会社員
シオミツダイスケさん（31歳）
会社員
シオミツナミさん（31歳）

ROOM SPEC
東京都西東京市
エリア：西東京
間取り：1R（50㎡）
居住年数：2週間
住宅形態：マンション
築年数：35年

Do It Yourself

1

2

3

4

1 包丁ホルダーはフローリングの端材でDIY。調味料ホルダーは100円均一で購入した小物入れを壁に打ち付けて、立体的な収納に。

2 お部屋の所々にクギで設置した枝は代々木公園で拾ってきたそう。ちょっとしたラックとしてはもちろん、オブジェとしても映える。

3 目覚まし時計から本体を取り出し、両面テープでペタリ。文字盤はステッカーシートに数字を出力、カッターで切り取って貼り付けた。

4 プラ板を複数枚の長方形にカット。パンチで穴を開けたらU字に丸めるように太めの針金に通し、電球を囲うよう設置すれば完成だ。

8 ベランダに面したモルタルの土間スペースは日当たりバツグンかつ、マンションの8階というだけあって窓からの眺めも最高だ。自転車の置き場としてはもちろんのこと、フローリングとの段差に腰かけ、コーヒーを飲みながら日向ぼっこでほっこり。

12 リノベーション時に出た端材と、オークションで落札した板の2種類を組み合わせて手作りしたダイニングテーブル。これだけ味のある木目というのに2000円で落札したというから、お見事。鉄製の脚もIKEAで手軽にゲットできるそうだ。

7 シオミツさんがDIYしたシューズラックにさりげなく飾られた観葉植物。ベトナムのご当地ビール「ビア ハノイ」の上面を缶切りで切り取ってプランターにチェンジ。いかにもリサイクル感の漂う、缶のデコボコした感じも手作りならではの味だ。

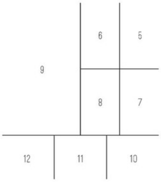
11 アウトドア旅行やフェスで撮った写真をまとめた自身のフォトブック、その名も「しおみつ本」。しっかりと帯まで付いて、ネット注文で3000円ほどと意外にお手頃。思い出の写真たちもこんな風に本にまとめて飾れば、洒脱なインテリアに。

6 一見では誰もが備え付けだと思うだろう、玄関のシューズラックもDIY。ホームセンターで購入した板をL字金具で設置、壁面を使うことでスペースを有効活用している。最上部と最下部の板は、打ち付ける位置をちょっぴりズラすセンスがニクい。

10 こちらがネット通販でゲットしたという、シオミツさん自慢のハンモック。木目を基調としたお部屋にレインボーカラーがマッチ、いいアクセントになっている。ちょうど窓からお日様が差し込む位置に設置され、ついついお昼寝してしまうのも納得だ。

5 リビングからベッドルームをつなぐ空間に作られた収納スペース。木材による、ちょっとした間仕切りが"おこもり感"をプラスする。オープンな収納だって、のれんのイメージで2枚の布を垂らせば、それだけでクローゼットのように早変わりだ。

9 「ゴースローキャラバン」のフリースや50Lのバックパックとひと目でアウトドア好きと分かるラインナップ。そんななかで異彩を放つ街歩き用のハットたちは、バーで働く友人からもらった木製のワインケースを壁に打ち付け、洒脱に見せる収納。



会社員
K.K さん（34 歳）
主婦
K.K さん（34 歳）

ROOM SPEC
東京都世田谷区
エリア：二子玉川
間取り：1LDK（56㎡）
居住年数：1 年 6 カ月
住宅形態：マンション
築年数：29 年

LIVING WITH MY FAVORITES

25

25 / 30

これからの変化も楽しみ、家族の成長を見守るお部屋。

お子さんが誕生するに当たり、現在のお宅に引っ越したというKさんファミリー。二子玉川駅から徒歩15分、自転車がマストな立地というが、自転車を走らせれば、ものの数分で何件もの公園に遊びに行ける。休日はもっぱら家族3人で、ご近所にピクニックだ。

家具屋巡りが趣味というほどのインテリア好き、かつお仕事柄、読書からインスピレーションを受ける機会が多いというKさんは、インテリアショップのような部屋と、自分だけの空間が持てる書斎のある家に憧れていたんだそう。「けれど娘と一緒に過ごす時間のことを考えたら、自室にこもっている時間がもったいない気がして」と、書斎をつくる代わりに広々としたリビングダイニングを選んだ。

「家族と一緒に過ごす時間のなかで本を読めばいい。だからダイニングセットの脇に本棚を置いたんです。娘と妻がおやつを食べている隣で、ボクは読書という感じ」。部屋探しをしていた当初は、床はフローリングが絶対条件だったというが、マンションの規約で断念。結果的にカーペット敷きの床にリノベーションしたところ、娘さんが元気に走り回っても、床でオモチャ遊びをしても安心な部屋となった。

とは言え、本棚は「ランドスケーププロダクツ」、カーペットは打ちっ放しの天井とマッチしたモダンなブルーを選ぶあたり、さすがはインテリア好き。娘さん専用チェアも、デザインと機能性を備えたノルウェー発のキッズ用品ブランド、ストッケ製だ。

「娘がもうちょっと大きくなったら、壁の一部を黒板塗装にしようと考えているんです。黒板を使って、ボクが勉強を教えられたらいいなって」。実は現在、奥さまは第2子をご懐妊中。黒板のある部屋はもちろん、ファミリーが増えたら、きっとお部屋も変化する。家族の成長に合わせて少しずつ変わっていくだろうKさんファミリーのお宅に、またお邪魔したくなった。

ウォッシングスペースは、打ちっ放しの壁とむき出しの配管がクール。天井も同様に打ちっぱなしだ。打ちっ放しというと、いかにも無機質なイメージが強いが、木製インテリアと合わせると絶妙に調和し、温もりある空間に変わる。

お日様が注ぐ窓際には、インテリア好きの代名詞とも呼べる、「イームズ」のロッキングチェアが揺れる。Kさんの読書スペースとしてはもちろん、娘さんが誕生してからはブランコの役割も果たしているというから、ほっこり。

北欧デザインハウスのチェストは、ペンタックスの世界最小一眼レフやジェームス・ジャービスのフィギュアが飾られた趣味スペース。豊富なハットコレクションはシーズンごとにお気に入りをセレクトして、置き換えているそう。

お部屋だけでなくエントランスも広々。シューズラックに並べられた靴箱はカラーリングが豊富で、どこかポップな雰囲気を放つ。ラックとお部屋の間には1畳分ほどのスペースがあり、娘さんのバギー置き場として重宝している。

格子状に切り替えが施されたカーペット。シンプルなお部屋だからこそ、面積の大きな所にはメリハリあるアイテムをチョイスした。また床の素材に無垢をはずしたことで、家具の木の温かみに加え、都会的でスタイリッシュな印象に。

1. 等間隔に吊された電球は、それだけでハイセンス。だからこそシェードはあえて用いず、ダイニングセットの上のみ、テーブルの雰囲気に合わせて横浜にあるデコボコで購入したアンティークのシェードをセットした。**2.** ベランダでは元気に育った緑たちが日光浴。しかし日中はあまりに日当たりがいいため、水やりが追いつかないこともしばしばだそう。**3.** リノベーションで設置したラックには「ル・クルーゼ」のラムカン カレや「ロンハーマン」のマグなど、デザインも重視した食器が並ぶ。食器の向きが統一されていたり、マグのロゴが見えるように整えていたりと、すっきり見せる気配りが。

自然光の温かさが家族を包む 開放的な広々リビング。

2

1

会社員
S さん（39 歳）
主婦
S さん（39 歳）
L くん（1 歳）

ROOM SPEC

東京都品川区
エリア：戸越銀座
間取り：1LDK
居住年数：約 2 年
住宅形態：マンション
築年数：39 年

1.「ダブルティー」で購入したカウンターのハイチェアは、友人とお酒を楽しむ際のくつろぎ場所。左にあるアンティークのバッグは「トランジットライフ」で購入。「良心的な価格で、掘り出しモノが多いんです」。**2.** 落ち着いた色味のリビングに、アクセントとして置かれるクッションは「イデー」。奥に置かれた雑貨はバリ島へ旅行した際のお土産。**3.**「最近は乗る機会がなくて…（苦笑）」と話す BMX は、玄関にかけてディスプレイに。**4.** 時間をかけて、さまざま見比べたダイニングテーブル。こちらはアンティーク家具を扱う「ダブルデイ」で購入した。**5.** 一面を収納スペースとして使用しているリビングの壁。ガーデニングなどで使われる、ベジタブルボックスを収納箱として使用。**6.** キッチンの脇に置いたコーヒーミルは「カリタ」。**7.** ユニークな枝振りの植物が多い S さん宅。葉っぱの大きさなどで、植物のレイアウトを決めているそう。**8.** 一見ペイントのようにも見える、玄関左手の壁。実はコレ、S さんが自ら貼ったカッティングシート。シールなので貼るのも剥がすのも簡単。**9.** スケートデッキで作られたスツールは、ハイチェアと同じく「ダブルティー」で購入。玄関を入ってすぐに目に入るグリーン。「ダルトン」のバケツをプランターの目隠しに。**10.** リビングすべて、オレンジがかった LED 電球を使用。**11.**「ボーズ」のスピーカーは壁に合わせて白をセレクト。**12.** 作業台奥の調理スペース。調理器具はシルバーをメインに。

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

リビングの壁一面に窓が取られ、日当り抜群なお部屋に住むSさん。お部屋探しから手掛けるリビタに相談し、もとは3LDKだったお部屋を1LDKにリノベーション。広々としたリビングを作り上げた。「引っ越しの際、10年のスパンで考えてこの間取りにしました。子どもが大きくなるまでは、家族3人で過ごす時間の大半はリビングですよね。だから、広くスペースを取りたかったんです」。さらにその空間作りには、Sさんのお仕事から沸き上がるインスピレーションも反映されている。「映画関係の仕事をしていて、映画を観る機会が多いんですね。リビングを作るとき、真っ先にイメージしたのが、映画のワンシーンで出てくるような〝NY・ブルックリンの部屋〟でした。漠然としたイメージでしたが、そんな空間を想像しながらお部屋作りをしました」。レンガ調のブリックタイルを使った壁、美しい木目のダイニングテーブル、板張りのカウンター…。まさにSさんがイメージしたような空間がそこには広がっている。また作業スペースが広くとられたカウンターキッチンも、お子さんとの将来を見据えて作ったもの。週末は料理をすることの多いSさん。「子どもが大きくなったら、一緒にキッチンに立ちたい!!」という理由もあり、幅、作業スペースを広めにとった。

生活用品がキレイに収納され、すっきりとした印象のリビングとは反対に、寝室やトイレにはSさんの遊び心が溢れていた。壁一面をビビットなカラーに自ら塗装。「ポーターズペイント」で購入した黒板塗装は、平面的にならない質感を選んだ。「子どもが楽しめるように」。キッチン同様、こんなところにも子どもの成長を楽しみに待つSさん夫妻の想いが詰め込まれているようだ。

ディスプレイ製作
加藤雅志さん（34歳）

編集
加藤琴子さん（31歳）

稟くん（2歳）

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：駒沢大学
間取り：1LDK
居住年数：1年
住宅形態：マンション
築年数：35年

LIVING WITH MY FAVORITES

27

27 / 30

リノベーションとDIYで作る広々1LDK。

子どもが生まれたことをきっかけに賃貸から分譲を探し始め、リノベーション会社のリビタにて中古物件を探した加藤さんご夫妻。職場の中目黒からほど近い立地で、さらに予算を考慮しながら中古物件を探して行ったら自ずと的は絞られたそう。「仕事の環境や、子どもの成長など、自分たちの生活スタイルとともに変化できる自由な空間にしたかったんですよ」と加藤さんの言葉どおり、天地ともに障壁をできるだけ取り除き、備え付けのベンチと大きなテーブルというシンプルな構成がとてもスタイリッシュだ。部屋のシンボルとなっているダイニングテーブルは、ほぼ手作り。元は美術大学を出て彫刻をやっていた雅志さんだけに、知人のアトリエで自ら溶接した脚は、まさにプロ並みの仕上がりだ。天板は担当した建築家の知り合いから安く譲ってもらったのだという。リノベーションを依頼して非常に満足していると話してくれたご夫婦だが、珪藻土で仕上げた素敵な壁は、1ヵ月間の土日をフルに利用して仕上げた努力の賜物。「わかってはいたのですが、壁、天井をすべて仕上げてくれたことにはとても感謝しています(笑)」と奥さんが笑顔で話してくれた。スッキリしたリビングを抜けた2人の寝室には、毎年フェスへ出かけるほど、音楽好きな奥さんのCDやレコードのコレクションが並んでいる。「昔は〝見せる収納〟が好きで、目につくところに自分の好きなものを飾ってました」と話す昔のイメージはここにはなく、限られた収納をフル活用したスタイリッシュな空間となっている。実は納戸まで手作りしたという加藤さん。素人顔負けなDIYテクと、素敵な建築家によるリノベーション設計、そして産休中に整理収納アドバイザーの資格を取得したと話す、奥さんの空間活用術。この歯車がキレイに回っていることを実感できるようなお手本的部屋作りだ。

7. ダイニングテーブルの脇にはベンチを設置し、その下の部分を収納スペースに活用。「これからのことを考えてゆとりを持った収納しているんです」と語る琴子さんは、ベンチ、テレビ台、収納の3WAY仕様に満足している様子。**8.** リノベーションをするにあたってご夫婦が用意した資料の数々。切り抜きをスクラップしたリノベーションアイディア専用ノートは、今見ると懐かしい。**9.** 整然と片付けられたキッチンの後ろには編集関係の仕事を持つ琴子さんならではのワークスペースを設置した。限られた空間の中でこそ成り立つ、家庭と仕事のバランスがよく伺える。

4. 玄関のシューズボックスには、靴のみならず、置き場所に困るようなものを隠すように収納している。納戸を閉めればシンプルなフロントドアに早変わりする。**5.** 寝室のカーテンを開けると、きちんと整頓されたセルフメイドのクローゼットが登場。無駄なくスペースを使って、シンプルに収納できるよう、死角になりがちな上部までスッキリと使い切るのが雅志さんのこだわりだ。**6.** キッチンのカウンターには多種多様なグリーンを配置した。小物はアンティーク調の聖杯などで品良くまとめ、見せる収納を実践している。琴子さんの趣味の良さが伺えるスペースだ。

1. 土間に置かれた雅志さんお手製の作業台は、引越し前はダイニングテーブルとして使っていたもの。その両サイドをカットし脚を組み直した。スツールや工具箱など、木の温もりを感じられるクリエイトスペースが仕上がった。**2.** 天井からぶら下がるレンジフードの上には、観葉植物と陶器が置かれ、緑と白のコントラストでフレッシュな印象に。**3.** 大胆で端整なダイニングテーブルは力強い面構えで、どんと迎えてくれる。知り合いの木工屋さんが加工まで仕上げてくれた天板に、脚は雅志さんが溶接した力作を取り付けた。個性の違う椅子たちが愛想良く置かれている。

「ちょっと変わった作りのキッチンなので、お気に入りです」と渡辺さん。たしかに、壁一面に広がるキッチンは珍しい。キッチン下の収納スペースには自作のカーテンを取り付けて目隠し。

会社員
渡辺真由さん（41歳）

ROOM SPEC

東京都港区
エリア：泉岳寺
間取り：1R
居住年数：4年
住宅形態：マンション
築年数：43年

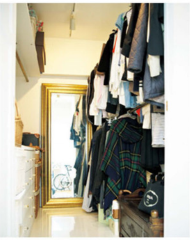
LIVING WITH
MY FAVORITES

28

28 / 30

友達が気兼ねなく集まれる、飲み屋のお座敷的スペース作り。

アルペンスキーにサーフィンと、季節を問わずアクティブな趣味を持つ渡辺さん。しかし、見渡す限りギアらしいギアはエントランスに掛かるウェットスーツくらいしかなく、非常にスッキリと整理されている。「サーフィンは去年始めたばかりですが、スキーは30年以上やっています。ここ15年は、毎年北米やヨーロッパなど、海外にまで滑りに行ってますよ。ただ、アクティブスポーツのグッズはキュラーズのトランクルームを近所に借りて、ほとんどをそこに収納しちゃっていますね。毎日使う物でもないし、特に不便もないですね。それより部屋作りのときに大事にしたのは『みんなで集まれる』こと。だから、最低限の物しか置かずにスッキリとさせたかった。よく友人や会社の同僚が遊びに来てくれるから、集まって呑んだり話したりするときに一体感を持てるようにしたかったんです。お部屋の中央に土間を作ったのも、段差があればどこでも座れちゃうし、椅子やクッションが至る所にあるのもそういう理由から。イメージは、居酒屋さんの座敷みたいな感じですね（笑）」たしかに、キッチンの前に置かれた無印良品の収納棚がバーカウンターの役割も果たしており、みんなが集まって話すには絶好のレイアウトである。「家具はＩＫＥＡとか無印良品とか、ブランド問わずに買います。ただ、家具も食器もできるだけ木製や白で統一することは考えていますね。白と木が中心のお部屋なら、置く物の色でまた雰囲気も変わるし、気分を変えたいときにも部屋のテイストを変えやすいかなと思って。あとは「フェリシモ」っていうサイトも好きです！　頻繁にチェックしていますね。キッチンツールや食器、カトラリー、家具に洋服まで、とにかくセレクトがツボなので、たまに衝動買いしちゃうんです」。



ブルックリンにあるアーティストの部屋をイメージ。

「白、ベージュ、ゴールド。この3色をテーマカラーに部屋を作りました」床やカーテンなどの面積の大きな所はもちろん、コンセントカバーやトビラの取っ手まで、とにかく徹底的に色使いをこの3色で統一した串山夫妻のお部屋。「インテリアでも洋服でも、オーセンティックな雰囲気が好きなんです。この3色って老舗ブランドのテーマカラーだったりするし、正統派な感じがするんですよね。木や革の雰囲気ともマッチしやすいから好きなんですよ」と智哉さんの言葉どおり、英国のブランド「ハロ」のアンティーク調ソファもこの部屋のカラーリングにしっくりハマっている。しかし、家具か小物においてブランドものだけがセレクトされている訳でもない。キッチン前のカウンターには、内装の施行中に作業現場で使われていた工事用のランプを譲ってもらい吊してある。「単純にカッコ良くて（笑）。作業中にお邪魔した時、お願いしてもらっちゃいました」。

またリノベーションから作り上げたお部屋だけあって、床や壁にもこだわりが。「初めはインテリア雑誌を参考に部屋のイメージを考えていましたが、この部屋をお願いしたスマサガ不動産の方に相談して、いろんなアイディアをもらいましたね。ヘリンボーンの床や、壁に使ったレンガ調のブリックタイルもそのアドバイスで決めました。特にお気に入りはエントランス左に広がる約2畳の広々としたウォークインクローゼットです」。これは百貨店に勤務する串山さんならではのアイディアだ。「理想は、部屋の外と中の境界線がないような空間なんです。だから緑を感じられるようにできるだけ植物を飾ったり、壁をレンガ調にしたり。欲を言えば、もっとグリーンを増やしたいです。ジャングルみたいにしたいんですよ（笑）」と次なる目論みを明かした。

1 カモミールの花柄があしらわれた南部鉄器のカラーポット。伝統工芸品や和の要素を持つ小物も、部屋のインテリアに合わせてセレクトするこだわりぶり。

2 智哉さんの自転車は谷中にある「トーキョーバイク」で購入したもの。アルファベットのオブジェを車輪留め代わりに活用したアイディアには脱帽です。

2

1

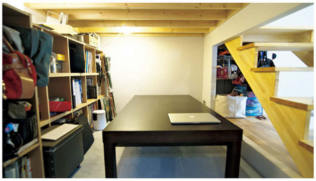
会社員
串山智哉さん（31歳）
会社員
串山詩帆さん（28歳）

ROOM SPEC
東京都渋谷区
エリア：表参道
間取り：1LDK
居住年数：4年
住宅形態：マンション
築年数：41年

LIVING WITH MY FAVORITES

29

29 / 30



縦の空間を活かした、" 遊べる家 "。

天井から吊るされた大きなハンモックに、ブラックダイヤモンドのランタン、温もりあるメイプルの床材とテーブル。キャンプ好きらしさ溢れる菊地さん一家が暮らす部屋は、ファミリーに人気の二子玉川・上野毛エリアのマンションの一室にある。

「キャンプ好きは子供が生まれる前から。昔、アメリカに住んでいた頃、キャンプにハマって以来、ずっと好きなんです。あっちはキャンプができる国立公園がたくさんあって、車で行けそうなところはほとんど行きましたね。今でも家族とキャンプによく行きます。それで、この部屋もハンモックをつけて、家がキャンプ気分というか、遊び場になるようにと考えて作り上げました。メイプルの床やテーブルも木の温もりがあって、アウトドアな雰囲気になりますよね。ちなみに、キャンプギアは寝室兼収納部屋に収めています」。

マンションの一室ながら、階段や中一階、中二階の部屋を設けるなどして、空間にメリハリをつけた点も特筆すべきポイントだ。

「僕は団地やマンション暮らしが長かったので、家の中に階段を作るのが憧れだったんです。上がったり下がったりして、目線が変わるのがいいなって。マンションでも縦の空間を使えるようリノベーションしました。階段を上った上の部屋は子供部屋兼客間。下の部屋は僕の書斎です。家族が見えない閉ざされた空間は嫌だったので、あえて開放感ある作りにしています。冬はコンクリートの床が冷たいから、あまりここにはいないんですけどね(笑)」。

黒板塗料を塗り、DIYしたエントランス正面の収納の扉には、子どもたちが書いた〝ようこそうちへ〟のメッセージ。菊地さん一家のお部屋は、家族の温もりとアウトドア愛が溢れる素敵な空間だった。

リビングからベッドルームをつなぐ長い廊下の天井には、ズラリと本が並ぶシェルフを設置。縦の空間にこだわる菊地さんの空間有効活用術は、こんなところにも活かされている。

会社員
菊地 悠さん(35歳)

主婦
菊地有紀さん(36歳)

侑良ちゃん(6歳)
佑香ちゃん(3歳)

ROOM SPEC

東京都世田谷区
エリア：上野毛
間取り：1LDK
居住年数：1年
住宅形態：マンション
築年数：42年

LIVING WITH MY FAVORITES

30

30 / 30

Shop List

◇のついたものはメーカー、プレスルームとなります。メーカー、プレスルームはショップではないため、通常の販売は行っておりません。ご注意ください。

ア

アイザラ
住所不掲載
http://www.aizara.jp

◇ アルファ PR
住所不掲載
tel:03-6418-9402
alpha-tokyo.com/

◇ アントレックス レッドワークス事業部
住所不掲載
tel:03-5368-1800
www.entrex.co.jp

FD ONLINE STORE
新潟県新潟市中央区鐙西 1-11-1
新潟起業家センター 102
tel:025-384-0366

カ

カラーワークス
東京都千代田区東神田 1-14-2
カラーワークス パレットビル
tel:03-3864-0810

キキ
東京都世田谷区上北沢 4-33-21
ヴィランド #000
tel:03-5357-8107

グッド ネイバーズ ファイン フーズ
東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-3-14 #101
tel:03-3470-3940

コネクト
愛知県名古屋市天白区中平 3-804
tel:052-893-6662

コンプレックス
東京都目黒区三田 2-10-35
中銀目黒マンシオン 1F
tel:03-3760-0111

サ

ザ・コンランショップ 新宿本店
東京都新宿区西新宿 3-7-1
新宿パークタワー 3・4F
tel:03-5322-6600

ザ テイストメイカーズ アンド コー
東京都港区南青山 7-9-1
tel:03-5466-6656

◇ ステューシー ジャパン
静岡県牧之原市静波 2316-5
tel:0548-22-7366

タ

デコデボネア
東京都港区南青山 5-7-17 小原流会館 B1F
tel:03-6427-5710

10^{12} TERRA
住所不掲載
https://1012.stores.jp/

東急ハンズ渋谷店
東京都渋谷区宇田川町 12-18
tel:03-5489-5111

ナ

ナプロン
岡山県岡山市北区辰巳 2-101
tel:086-259-1425

ヌーク ストア
東京都渋谷区猿楽町 14-12
tel:03-6416-1044

ネペンテス
東京都渋谷区渋谷 1-17-4
エステート渋谷 2F
tel:03-3400-7227

ハ

ビブリオファイル
東京都港区六本木 5-17-1 AXIS ビル B1F
tel:03-3582-2707

ビーミング ライフストア by ビームス ラゾーナ川崎プラザ店
神奈川県川崎市幸区堀川町 72-1
ラゾーナ川崎プラザ 2F
tel:044-540-3520

プエブコ
東京都世田谷区太子堂 1-4-26 K-1 ビル 2F
tel:050-3452-6766

プレイマウンテン
東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-52-5 #105
tel:03-5775-6747

ベストパッキングストア
東京都目黒区青葉台 1-23-5 1F
tel:03-5773-5586

ペレグリン・ファニチャー
住所不掲載
www.peregrine-f.com

ボルツ ハードウェア ストア
京都府京都市北区小山下初音町 43-2
tel:075-432-8024

マ

◇ マコー
住所不掲載
www.makoo1.com/eccube/html/

リ

リビング・モティーフ
東京都港区六本木 5-17-1
AXIS ビル B1F・2F
tel:03-3587-2784

Editor in chief

Osaka Umeda (60MW)

Editor

Masashi Echigo (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Eiko Abe (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Tsubasa Iwata (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Kyoko Oya

Advertising staff

Gakuji Onozato
Tomoaki Suzuki
Yasuyuki Abe
Seiji Kimura
Yui Okutani
Mamoru Takahashi
Aika Endo
Tamaki Ushiyama
Haruka Tanaka

Designer

Ryo Shimizu (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Daisuke Takeuchi (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Genki Namiguchi (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Daishi Doi (RIDE MEDIA&DESIGN inc.)

最先端のアウトドアファッションを配信中!!
GO OUT は毎月 30 日発売中!!

www.goout.jp

ニューズムック
「GO OUT LIVIN’」
2014 年 4 月 9 日発行

発行人：西ヶ谷周二
編集人：梅田顕弘
印刷所：図書印刷株式会社
発行所：株式会社三栄書房
〒 160-8547　東京都新宿区本塩町 19
広告　tel：03-5369-5120
編集　tel：03-6303-1609（ロクマルマガジンワークス）
受注センター　tel：048-988-6011　fax：048-988-7651
販売部　tel：03-5369-5112　fax：03-5369-5116

定価：本体 917 円＋税

■本誌掲載記事・写真などの無断掲載、複写を禁じます。

※価格表記についてのお知らせ
本誌に掲載している価格表記については、「消費税転嫁特別対策措置法」により、本体価格（税抜き価格）にて表記致しております。2014 年 3 月 31 日までは 5% の消費税、4 月 1 日 以降は 8% の消費税がかかります。あらかじめご了承ください。

フレッシュな炭酸水を陽気に愉しむ
ホームソーダマシーン

BRUNO × SODASPARKLE
1.0L Starter Kit 2

ブルーノ × ソーダスパークル 1.0L スターター キット 2

¥7,500（税抜）

IDEA INTERNATIONAL CO.,LTD.
idea-onlineshop.jp/

ニューズムック GO OUT LIVIN' 2014年4月9日発行
発行人：西ヶ谷周二　編集人：梅田顕弘　発行所：株式会社三栄書房　〒160-8547 東京都新宿区本塩町19　広告 TEL03-5369-5120　受注センター TEL048-988-6011　FAX048-988-7651　販売 TEL03-5369-5112

9784779620973
1929476009173

雑誌 66725-93
SAN-EI SHOBO Publishing co.,Ltd.
PRINTED IN JAPAN 図書印刷

ISBN 978-4-7796-2097-3
C9476